



下水道モニター 平成 28 年度第 1 回アンケート結果

目次

1. 調査の概要	1
1.1. 調査の目的	1
1.2. 調査の対象	1
1.3. 調査の方法	1
1.4. 回答回収率	1
1.5. 調査の内容	1
1.6. 調査期間	1
1.7. 集計上・表記上への注意事項	1
2. 結果の概要	2
2.1. 下水道の役割や仕組みの認知度、重要度、社会的貢献度	2
2.1.1. 水質改善	2
2.1.2. 浸水防除	2
2.2. 下水道の課題	3
2.2.1. 下水道の老朽化	3
2.2.2. 都市型浸水対策	3
2.2.3. 合流式下水道の改善	3
2.2.4. 下水道が抱える課題の公表について	3
2.3. 新たな事業活動の認知度と社会的貢献度評価	4
2.3.1. 新たな事業活動の認知度	4
2.3.2. 新たな事業活動の社会的貢献度	4
2.4. 東京アメッシュについて	4
2.4.1. 利用頻度	4
2.4.2. 利用方法	4
2.4.3. 雨に関する情報の入手方法	4
2.4.4. 意見・要望	4
2.5. 「油・断・快適！下水道」キャンペーンの認知度	5
2.5.1. 「油・断・快適！下水道」キャンペーンの認知度	5
2.5.2. 揚げ物料理後の油の処理方法	5
2.5.3. 油で汚れた食器の洗い方	5
2.5.4. 「ダイエットレシピ」による P R の認知度	5

2.6.	下水道事業の評価基準.....	5
2.7.	下水道に関するニーズ.....	5
2.8.	下水道事業の認知経路.....	5
2.9.	下水道事業に関する情報の探求意思、共有欲求.....	6
2.9.1.	下水道事業に関する情報の探求意思.....	6
2.9.2.	下水道事業に関する情報の共有欲求.....	6
2.10.	下水道局のご意見・ご要望など.....	6
3.	回答者属性.....	7
3.1.	回答者 性・年代.....	7
3.2.	回答者 居住地域.....	7
3.3.	回答者 職業.....	7
4.	集計結果.....	8
4.1.	下水道の役割や仕組みの認知度、重要度、社会的貢献度.....	8
4.1.1.	下水道の役割「水質改善」の認知度.....	8
4.1.2.	下水道の役割「水質改善」の重要度.....	9
4.1.3.	下水道の役割「水質改善」の社会的貢献度.....	10
4.1.4.	下水道の役割「浸水防除」の認知度.....	11
4.1.5.	下水道の役割「浸水防除」の重要度.....	12
4.1.6.	下水道の役割「浸水防除」の社会的貢献度.....	13
4.2.	下水道の課題.....	14
4.2.1.	下水道の課題①「下水道の老朽化」（認知度）.....	14
4.2.2.	下水道の課題①「下水道の老朽化」（感想）.....	16
4.2.3.	下水道の課題②「都市型浸水対策」（認知度）.....	17
4.2.4.	下水道の課題②「都市型浸水対策」（感想）.....	19
4.2.5.	下水道の課題③「合流式下水道の改善」（認知度）.....	20
4.2.6.	下水道の課題③「合流式下水道の改善」（感想）.....	22
4.2.7.	下水道が抱える課題の公表について.....	23
4.3.	新たな事業活動の認知度と社会的貢献度評価.....	24
4.3.1.	新たな事業活動の認知度.....	24
4.3.2.	新たな事業活動の社会的貢献度.....	32
4.4.	東京アメッシュについて.....	40
4.4.1.	「東京アメッシュ」の利用頻度.....	40
4.4.2.	「東京アメッシュ」の利用方法.....	41
4.4.3.	「東京アメッシュ」以外の雨に関する情報の入手方法.....	44
4.4.4.	「東京アメッシュ」に関する意見、ご要望.....	47
4.5.	油・断・快適！下水道キャンペーン」の認知度.....	50

4.5.1.	「油・断・快適！下水道キャンペーン」の認知度.....	50
4.5.2.	揚げ物料理後の油の処理方法	51
4.5.3.	油で汚れた食器の洗い方.....	54
4.5.4.	「ダイエットレシピ」によるPRの認知度.....	55
4.6.	下水道事業の評価基準.....	56
4.6.1.	下水道事業を評価する基準	56
4.7.	下水道に関するニーズ	59
4.7.1.	下水道に関して知りたいと思うこと	59
4.8.	下水道事業の認知経路.....	62
4.8.1.	下水道事業の認知経路	62
4.9.	下水道事業に関する情報の探求意思、共有欲求.....	66
4.9.1.	下水道事業に関する情報の探求意思	66
4.9.2.	下水道事業に関する情報の共有欲求	67
4.10.	東京都下水道局へのご意見・ご要望.....	68
4.11.	東京都下水道局へのご意見・ご要望例	70

1. 調査の概要

1.1. 調査の目的

第1回アンケートでは、東京都下水道局の「下水道に対するイメージや事業認知度、要望及び評価など」を把握するために実施した。

1.2. 調査の対象

- (1) 調査対象：東京都下水道局「平成28年度下水道モニター」
※東京都在住20歳以上の男女個人
- (2) 調査対象の数：792人
- (3) 調査対象の抽出：インターネット上から「平成28年度下水道モニター」を募集

1.3. 調査の方法

インターネットによる自記式アンケート

1.4. 回答回収率

モニター件数	： 792 件
回答者数	： 534 件
回答率	： 67.4%

1.5. 調査の内容

- (1) 下水道の役割や仕組みの認知度、重要度、社会的貢献度
- (2) 下水道の課題
- (3) 新たな事業活動の認知度と社会的貢献度評価
- (4) 東京アメッシュについて
- (5) 「油・断・快適！下水道」キャンペーンの認知度
- (6) 下水道事業の評価基準
- (7) 下水道に関するニーズ
- (8) 下水道事業の認知経路
- (9) 下水道事業に関する情報の探求意思、共有欲求
- (10) 下水道局のご意見・ご要望など

1.6. 調査期間

平成28年6月17日～同年6月27日

1.7. 集計上・表記上への注意事項

- (1) 集計表中の割合(%)は原則として小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合がある。
- (2) 図表中の「n」は、質問に対する回答数で、集計母数を表す。

2. 結果の概要

2.1. 下水道の役割や仕組みの認知度、重要度、社会的貢献度

2.1.1. 水質改善

(1) 認知度

モニター全体の 88.0%が「知っていた」と回答した。

20 歳代、50 歳代、60 歳代は 90%以上が「知っていた」と回答した。

(2) 重要度

モニター全体の 99.2%が「重要である（非常に重要である、かなり重要である）」と回答しており、「重要ではない（あまり重要ではない、全く重要ではない）」と回答したモニターは存在しなかった。

60 歳代、70 歳代以上のすべてのモニターが「重要である（非常に重要である、かなり重要である）」と回答した。

(3) 貢献度

モニター全体の 98.5%が「貢献度がある（非常に貢献度がある、かなり貢献度がある）」と回答しており、「貢献度はない（あまり貢献度はない、全く貢献度はない）」と回答したモニターは存在しなかった。

60 歳代、70 歳代以上のすべてのモニターが「貢献度がある（非常に貢献度がある、かなり貢献度がある）」と回答した。

2.1.2. 浸水防除

(1) 認知度

モニター全体の 76.2%が「知っていた」と回答した。

20 歳代の半数は、「知らなかった」と回答した。

(2) 重要度

モニター全体の 98.5%が「重要である（非常に重要である、かなり重要である）」と回答しており、「重要ではない（あまり重要ではない、全く重要ではない）」と回答したモニターは存在しなかった。

50 歳代、60 歳代、70 歳代以上のすべてのモニターが「重要である（非常に重要である、かなり重要である）」と回答した。

(3) 貢献度

モニター全体の 98.1%が「貢献度がある（非常に貢献度がある、かなり貢献度がある）」と回答しているが、女性で「全く貢献度がない」と回答したモニターが存在した。

60 歳代、70 歳代以上のすべてのモニターが「貢献度がある（非常に貢献度がある、かなり貢献度がある）」と回答した。

2.2. 下水道の課題

2.2.1. 下水道の老朽化

(1) 認知度

モニター全体の 44.2%が「知っていた」と回答していたが、半数以上は「知らなかった」と回答した。

20 歳代、30 歳代の半数以上は、「知らなかった」と回答した。

(2) 感想

モニター全体の 98.9%が「深刻な問題だと思う（とても深刻な問題だと思う、すこし深刻な問題だと思う）」と回答した。

30 歳代、40 歳代、50 歳代、60 歳代では「深刻な問題だと思わない（あまり深刻な問題だと思わない、まったく深刻な問題だと思わない）」と回答しているモニターが存在した。

2.2.2. 都市型浸水対策

(1) 認知度

モニター全体の 74.7%が「知っていた」と回答した。

20 歳代では、45.0%のモニターが「知らなかった」と回答した。

(2) 感想

モニター全体の 98.8%が「深刻な問題だと思う（とても深刻な問題だと思う、すこし深刻な問題だと思う）」と回答しているが、30 歳代、40 歳代には「あまり深刻な問題だと思わない」と回答しているモニターが存在した。

60 歳代、70 歳代以上のすべてのモニターで「深刻な問題だと思う（とても深刻な問題だと思う、すこし深刻な問題だと思う）」と回答した。

2.2.3. 合流式下水道の改善

(1) 認知度

モニター全体の 71.5%が「知らなかった」と回答した。

年代が下がるにつれて、認知度が低くなる傾向がある。

(2) 感想

モニター全体の 96.4%が「深刻な問題だと思う（とても深刻な問題だと思う、すこし深刻な問題だと思う）」と回答していたが、年代を問わず「あまり深刻な問題だと思わない」と回答しているモニターも存在した。

2.2.4. 下水道が抱える課題の公表について

モニター全体の 72.8%が「積極的に知らせるべきだ」と回答し、26.0%モニターが「知ってもらおう努力をしたほうがよい」と回答した。

60 歳代、70 歳代以上のすべてのモニターが「積極的に知らせるべきだ」、「知ってもらおう努力をしたほうがよい」と回答した。

2.3. 新たな事業活動の認知度と社会的貢献度評価

2.3.1. 新たな事業活動の認知度

全体では、「1）きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」で 69.1%、「2）水再生センターを避難場所や上部を公園として利用」で 62.4%のモニターが「知っていた」と回答しており、他事業については半数以上「知らなかった」と回答した。

特に、「6）下水道管に光ファイバーを通す IT の推進」、「10）新たな焼却方式への改良など温室効果ガスの排出削減」は低い認知度であった。

2.3.2. 新たな事業活動の社会的貢献度

ほぼ全ての事業活動においてが 80%以上の者が「役立っている（非常に役立っている、かなり役立っている）」と回答しており、最も高いのが「1）きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」で 93.8%、次に「2）水再生センターを避難場所や上部を公園として利用」で 88.4%であった。

2.4. 東京アメッシュについて

2.4.1. 利用頻度

モニター全体の 32.0%が「利用している」と回答した。

20 歳代で 35.0%、30 歳代で 43.6%、40 歳代で 35.0%、50 歳代で 40.8%、60 歳代で 19.3%、70 歳以上で 8.6%が「利用している」と回答した。

2.4.2. 利用方法

モニター全体の 27.5%が「外出時（出勤時、工作中、買い物）」に利用していると回答した。

年代別を見ると 70 歳代以上を除いては、「外出時（出勤時、工作中、買い物）」と「雨予報」の時に利用しているとの回答が多かった。

2.4.3. 雨に関する情報の入手方法

モニター全体の 50.8%が「テレビ」から雨に関する情報を入手していると回答した。

20 代では、8.3%が「携帯電話のアプリ」を利用していると回答していたが、70 歳代以上では回答者が存在しなかった。また、70 歳代以上では、10.0%が「新聞」を利用していると回答していたが、20 代では回答者が存在しなかった。

2.4.4. 意見・要望

「東京アメッシュを知らない、言葉の意味がわからない」の回答が最も多くモニター全体の 25.5%、次に「機能や精度、操作性の向上」23.2%、「もっと広報活動をしてほしい」19.6%と続く。

20 歳代・30 歳代では、「使いにくい、分かりにくい、使い方がわからない」の回答者が、70 歳代以上では、「機能や精度、操作性の向上」の回答者が存在しなかった。

年代を問わず、「もっと広報活動をしてほしい」との回答が多かった。

2.5. 「油・断・快適！下水道」キャンペーンの認知度

2.5.1. 「油・断・快適！下水道」キャンペーンの認知度

モニター全体の 30.3%が「知っていた」と回答した。

70 歳代以上の 42.6%が「知っていた」と回答し、他年代より認知度が高かった。

2.5.2. 揚げ物料理後の油の処理方法

「1. 紙や布などにしみ込ませて「燃やすゴミ」として出している」の回答が最も多くモニター全体の 61.0%であった。他の処理方法については 40%未満で、「4. 鍋を洗うときそのまま流している」で 2.1%、「5. どのように処理しているのかよくわからない」で 2.1%と最も低かった。

2.5.3. 油で汚れた食器の洗い方

モニター全体の 75.9%が「ふき取ってから洗っている（いつもふき取ってから洗っている、ときどきふき取ってから洗っている）」と回答した。

2.5.4. 「ダイエットレシピ」によるPRの認知度

モニター全体の 14.8%が「知っていた」と回答した。

若い世代ほど「知っていた」との回答が多く、60 歳代、70 歳代以上の 90%以上は「知らなかった」と回答した。

2.6. 下水道事業の評価基準

「1. 公共性（国民、地域住民のために役立つ事業であるか）」の回答が最も多くモニター全体の 82.8%、次に「3. 環境貢献度（私たちが住む環境の保全に貢献しているか）」74.7%、「4. 災害リスク対応度（災害リスクへの対応が想定されているか）」63.7%と続く。

2.7. 下水道に関するニーズ

「1. 下水道の働きや役割」の回答が最も多くモニター全体の 69.7%、次に「2. 下水道の事業計画・進捗状況」が 54.9%、「3. 下水道料金の内訳と使い道」が 54.1%と続く。また、その他を除くと「8. 下水道の歴史」が 17.6%と最も少なかった。

2.8. 下水道事業の認知経路

「9. 広報東京都」の回答がモニター全体の 55.2%と最も多かった。また、その他を除くと「16. 多摩川ふれあい水族館」が 0.9%と最も少なかった。

2.9. 下水道事業に関する情報の探求意思、共有欲求

2.9.1. 下水道事業に関する情報の探求意思

モニター全体の 95.0%が下水道局や下水道事業について知りたいと「思う（非常にそう思う、ややそう思う）」と回答していたが、男性で「あまりそう思わない」と回答したモニターが存在した。

2.9.2. 下水道事業に関する情報の共有欲求

モニター全体の 82.2%が下水道局や下水道事業に関して知っていることを周知に知らせたいと「思う（非常にそう思う、ややそう思う）」と回答していたが、年代を問わず「そう思わない（あまりそう思わない、まったくそう思わない）」と回答したモニターも存在した。

2.10. 下水道局のご意見・ご要望など

「1. 活動内容が分り有意義」の回答がモニター全体の 23.6%と最も多く、次に「2. さらなるPRや教育活動必要」が 21.3%と回答していたが、30代・40代・60代では、「2. さらなるPRや教育活動必要」の方が「1. 活動内容が分り有意義」よりも多く回答した。

3. 回答者属性

3.1. 回答者 性・年代

性別	年齢	回答者数(人)	モニター数(人)	回答率
男性	20歳代	8	15	53.3%
	30歳代	35	60	58.3%
	40歳代	63	99	63.6%
	50歳代	65	94	69.1%
	60歳代	81	91	89.0%
	70歳以上	32	44	72.7%
	小計	284	403	70.5%
女性	20歳代	12	36	33.3%
	30歳代	66	109	60.6%
	40歳代	74	120	61.7%
	50歳代	55	72	76.4%
	60歳代	28	35	80.0%
	70歳以上	15	17	88.2%
	小計	250	389	64.3%
合計		534	792	67.4%

3.2. 回答者 居住地域

地域	回答者数(人)	モニター数(人)	回答率
区部	321	477	67.3%
多摩部	213	315	67.6%
合計	534	792	67.4%

3.3. 回答者 職業

職業	回答者数(人)	モニター数(人)	回答率
会社員	232	353	65.7%
自営業	33	53	62.3%
学生	3	7	42.9%
私立学校教員・塾講師	4	8	50.0%
パート	47	70	67.1%
アルバイト	13	18	72.2%
専業主婦	99	155	63.9%
無職	84	102	82.4%
その他	19	26	73.1%
合計	534	792	67.4%

Q1～4 では、回答者属性について聞いています。下水道の質問は、Q5 から始まります。

4. 集計結果

4.1. 下水道の役割や仕組みの認知度、重要度、社会的貢献度

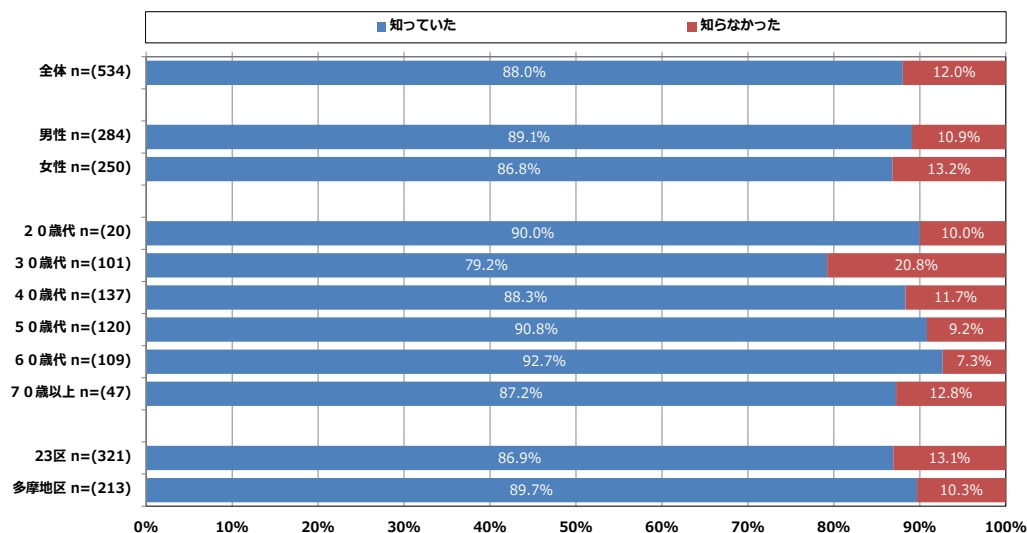
4.1.1. 下水道の役割「水質改善」の認知度

Q5.下水道には、家庭や工場などから出る汚れた水を、きれいにしてから川や海に放流するという「水質改善」の役割があります。あなたは、このことをご存知でしたか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい（単一回答）。

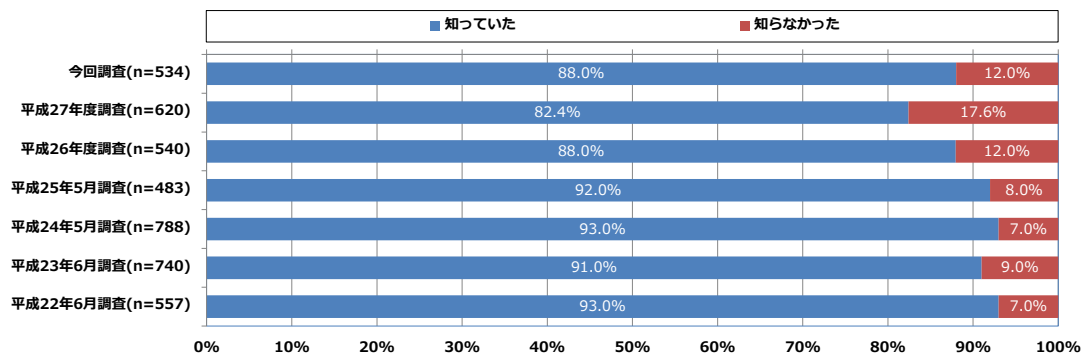
- 「知っていた」との回答した者が最も多く全体の 88.0%となった。
- 男女別にみると、「知っていた」との回答は男性が 89.1%、女性が 86.8%となり、女性より男性の方が 2.3 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「知っていた」との回答は 60 歳代が 92.7%、50 歳代が 90.8%、20 歳代が 90.0%で 9 割以上を超え、最も少ないのは 30 歳代で 79.2%であった。
- 地域別にみると、「知っていた」との回答が 23 区で 86.9%、多摩地区で 89.7%となり、多摩地区が 2.8 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成 27 年度調査と比較すると 5.6 ポイント高くなったが、最も多く回答した平成 24 年度調査と比較すると 5.0 ポイント低くなった。

図 4.1.1 「水質改善」の認知度

【平成 28 年度】



【経年】



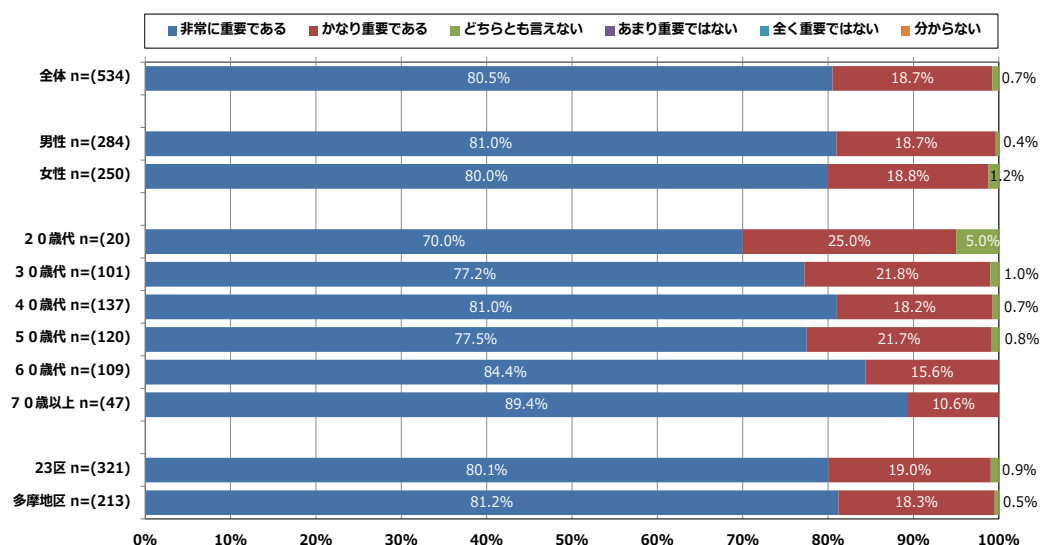
4.1.2. 下水道の役割「水質改善」の重要度

Q6.水質改善の役割について、あなたはどのくらい重要であると思われますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい（単一回答）。

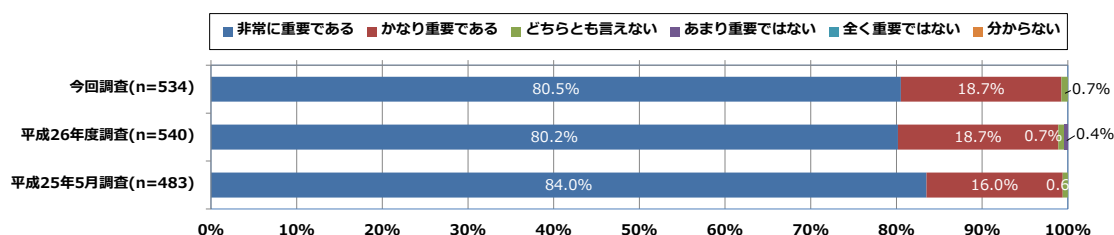
- 「非常に重要である」との回答した者が最も多く全体の 80.5%となった。
- 男女別にみると、「非常に重要である」との回答は男性が 81.0%、女性が 80.0%となり、女性より男性の方が 1.0 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「非常に重要である」との回答は 70 歳以上が 89.4%、60 歳代が 84.4%、40 歳代が 81.0%で 8 割以上を超え、最も少ないのは 20 歳代で 70.0%であった。
- 地域別にみると、「非常に重要である」との回答が 23 区で 80.1%、多摩地区で 81.2%となり、多摩地区が 1.1 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「非常に重要である」との回答は平成 26 年度調査と比較すると 0.3 ポイント高くなったが、最も多く回答した平成 25 年度調査と比較すると 3.5 ポイント低くなった。

図 4.1.2 「水質改善」の重要度

【平成 28 年度】



【経年】



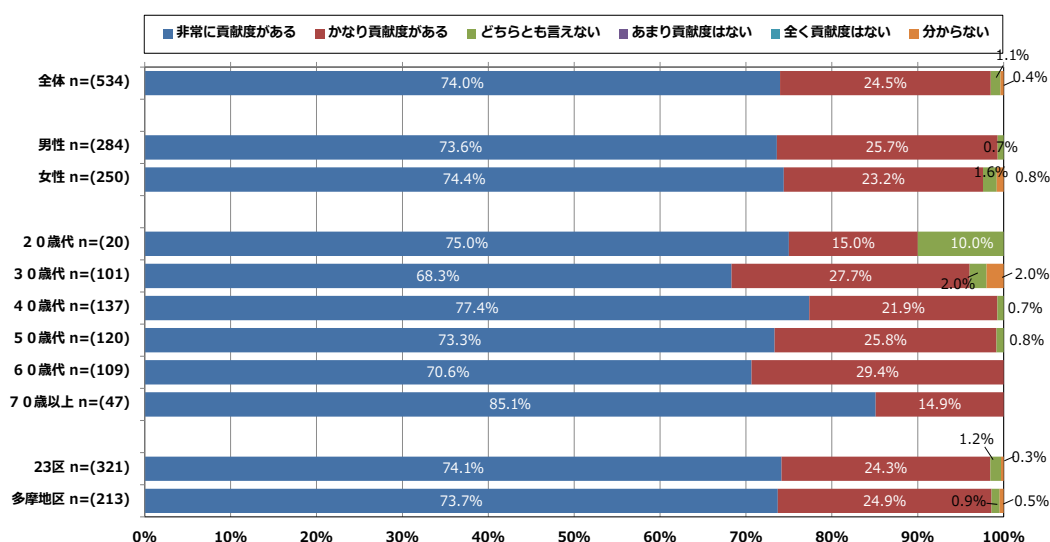
4.1.3. 下水道の役割「水質改善」の社会的貢献度

Q7.水質改善の役割は、我々の生活にとってどのくらい社会的な貢献度が高いと思われますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい（単一回答）。

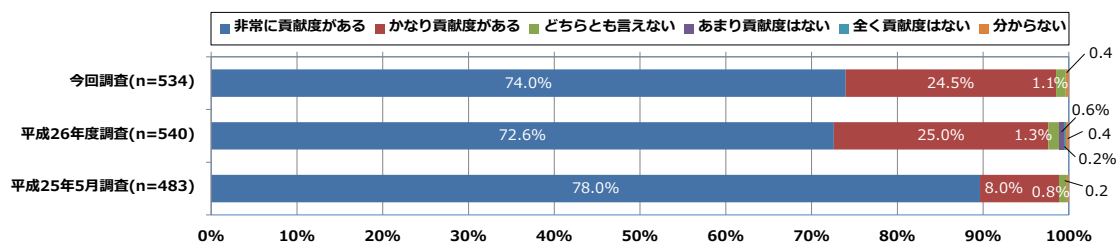
- 「非常に貢献度がある」との回答した者が最も多く全体の 74.0%となった。
- 男女別にみると、「非常に貢献度がある」との回答は男性が 73.6%、女性が 74.4%となり、男性より女性の方が 0.8 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「非常に貢献度がある」との回答は 70 歳以上が 85.1%と最も多く、30 歳代が 68.3%で最も少なかった。
- 地域別にみると、「非常に貢献度がある」との回答が 23 区で 74.1%、多摩地区で 73.7%となり、23 区が 0.4 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「非常に貢献度がある」との回答は平成 26 年度調査と比較すると 1.4 ポイント高くなったが、最も多く回答した平成 25 年度調査と比較すると 4 ポイント低くなった。

図 4.1.3 「水質改善」の社会的貢献度

【平成 28 年度】



【経年】



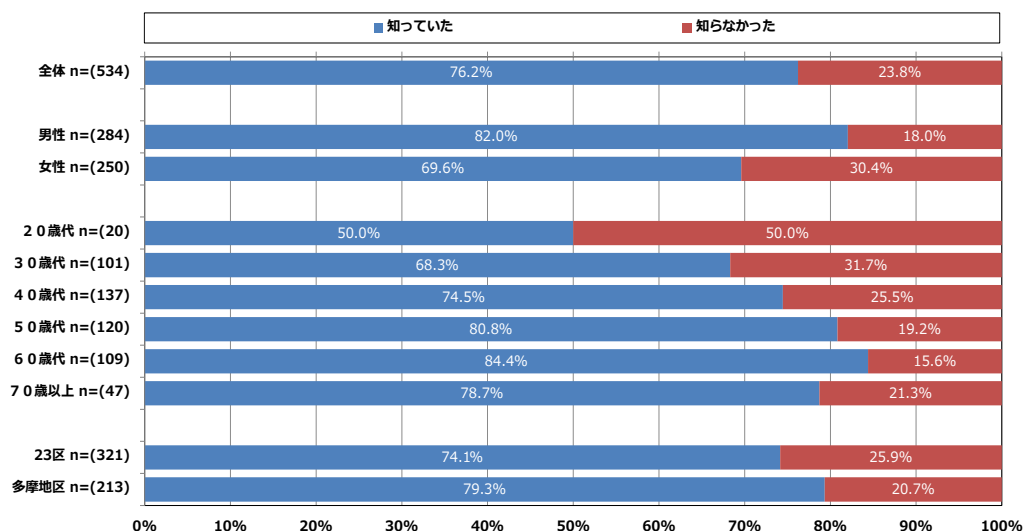
4.1.4. 下水道の役割「浸水防除」の認知度

Q8.下水道には、雨水を下水道管を通して川や海に流し、大雨による浸水からまちを守るという「浸水防除」の役割があります。あなたは、このことをご存知でしたか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい（単一回答）。

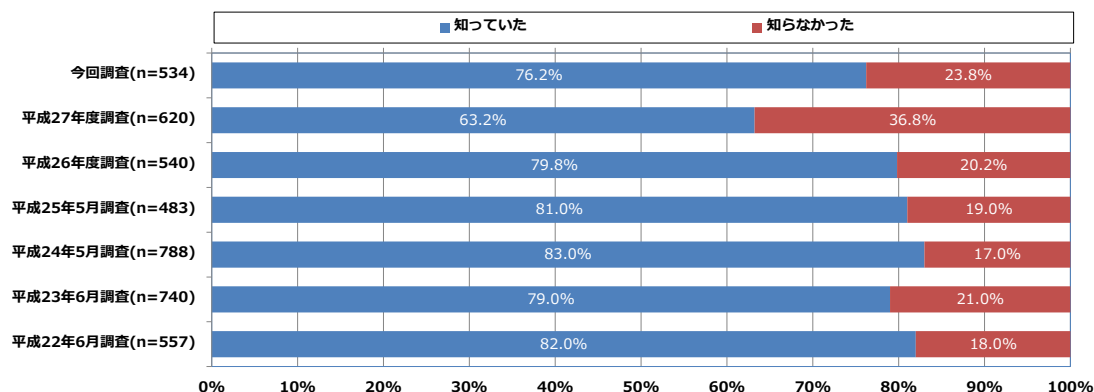
- 「知っていた」との回答した者が最も多く全体の 76.2%となった。
- 男女別にみると、「知っていた」との回答は男性が 82.0%、女性が 69.6%となり、男性の方が女性より 12.4 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「知っていた」との回答は 20 歳代から 60 歳代までは年代が上がるにつれて上昇し、60 歳代が 84.4%、50 歳代が 80.8%で 8 割以上を超え、最も少ないのは 20 歳代で 50.0%であった。
- 地域別にみると、「知っていた」との回答が 23 区で 74.1%、多摩地区で 79.3%となり、多摩地区が 5.2 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成 27 年度調査と比較すると 13 ポイント高くなったが、最も多く回答した平成 24 年度調査と比較すると 6.8 ポイント低くなった。

図 4.1.4 「浸水防除」の認知度

【平成 28 年度】



【経年】



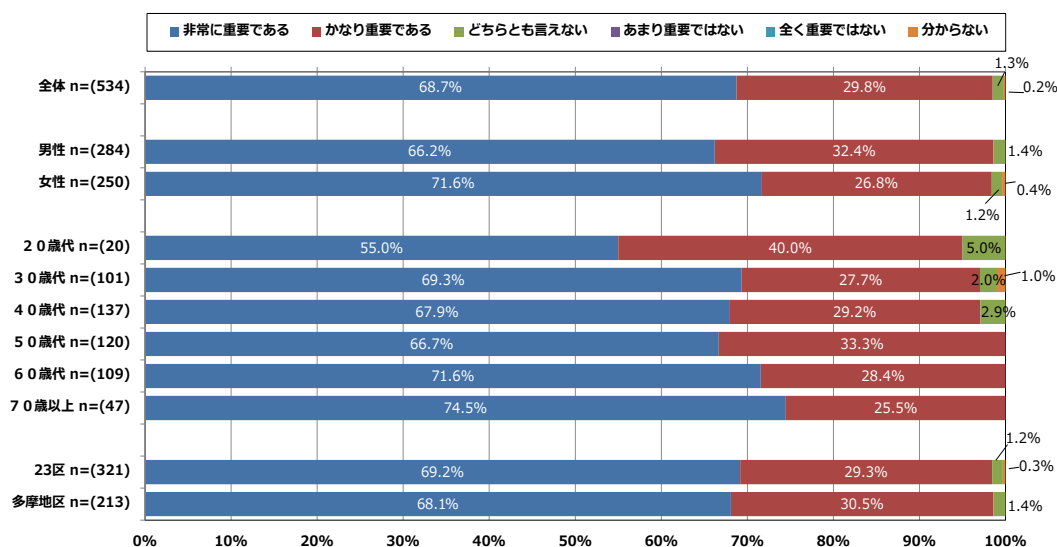
4.1.5. 下水道の役割「浸水防除」の重要度

Q9.浸水防除の役割について、あなたは、どのくらい重要であると思われますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい（単一回答）。

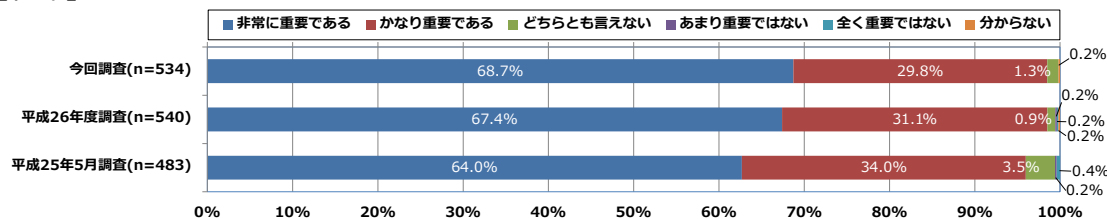
- 「非常に重要である」との回答した者が最も多く全体の 68.7%となった。
- 男女別にみると、「非常に重要である」との回答は男性が 66.2%、女性が 71.6%となり、女性の方が男性より 5.4 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「非常に重要である」との回答は 70 歳以上が 74.5%、60 歳代が 71.6%で 7 割以上を超え、最も少ないのは 20 歳代で 55.0%であった。
- 地域別にみると、「非常に重要である」との回答が 23 区で 69.2%、多摩地区で 68.1%となり、23 区が 1.1 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「非常に重要である」との回答は平成 28 年度調査が 68.7%と最も多く、平成 26 年度調査と比較すると 1.3 ポイント高くなった。

図 4.1.5 「浸水防除」の重要度

【平成 28 年度】



【経年】



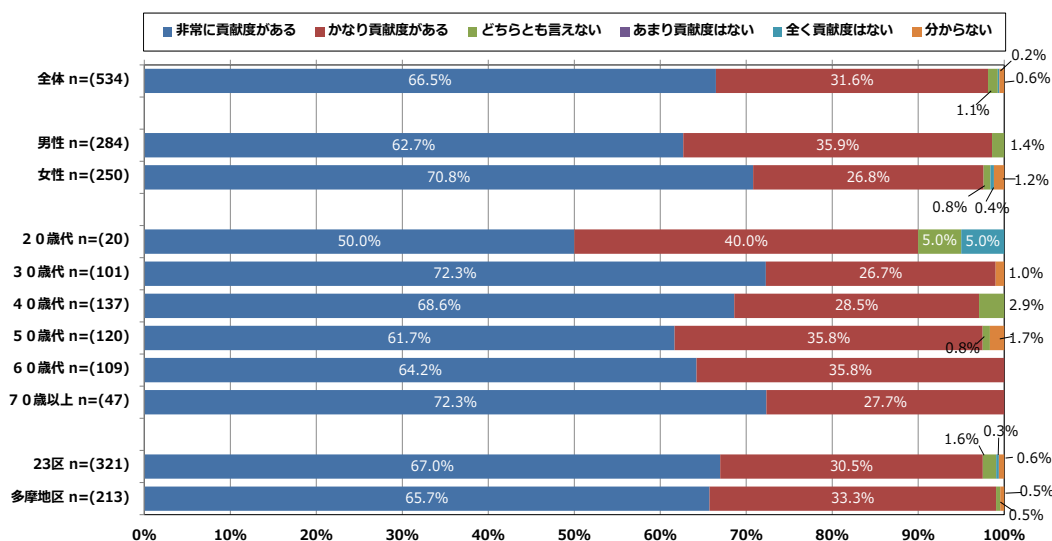
4.1.6. 下水道の役割「浸水防除」の社会的貢献度

Q10. 浸水防除の役割は、我々の生活にとってどのくらい社会的な貢献度が高いと思われますか？以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい（単一回答）。

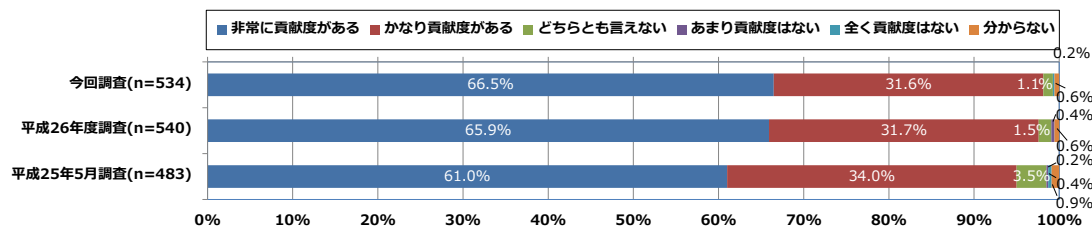
- 「非常に貢献度がある」との回答した者が最も多く全体の 66.5%となった。
- 男女別にみると、「非常に貢献度がある」との回答は男性が 62.7%、女性が 70.8%となり、女性の方が男性より 8.1 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「非常に貢献度がある」との回答は 30 歳代が 72.3%、70 歳以上が 72.3%で 7 割以上を超え、最も少ないのは 20 歳代で 50.0%であった。
- 地域別にみると、「非常に貢献度がある」との回答が 23 区で 67.0%、多摩地区で 65.7%となり、23 区が 1.3 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「非常に貢献度がある」との回答は平成 28 年度調査が 66.5%と最も多く、平成 26 年度調査と比較すると 0.6 ポイント高くなった。

図 4.1.6 「浸水防除」の社会的貢献度

【平成 28 年度】



【経年】



4.2. 下水道の課題

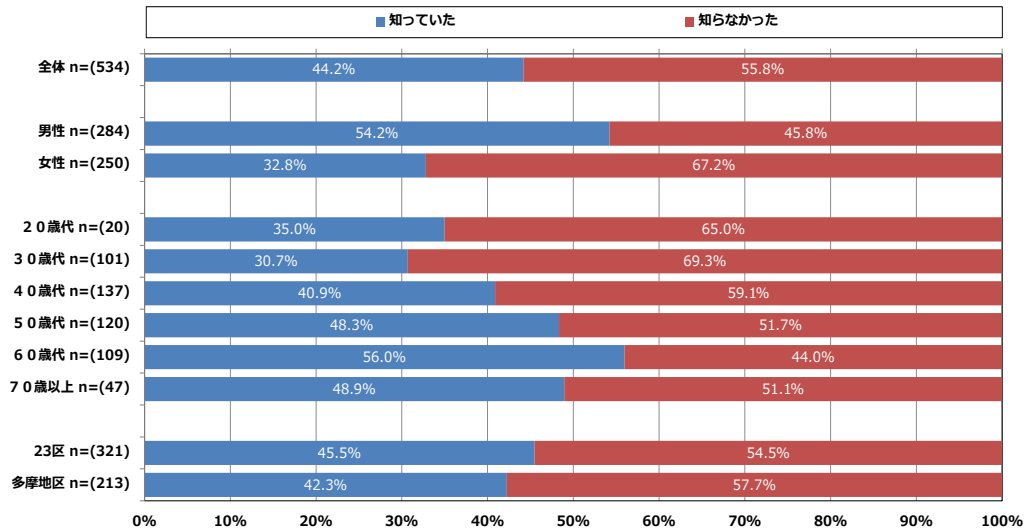
4.2.1. 下水道の課題①「下水道の老朽化」（認知度）

Q11.下水道管は、耐用年数が50年とされており、古い下水道管は道路の陥没事故につながるため、取替えや補修が必要です。東京都の下水道は整備を始めてから既に100年以上が経過し、現在でも一部の下水道管は耐用年数を越えています。また、高度経済成長期以降（1960年代以降）に整備した大量の下水道管が間もなく耐用年数に達しようとしています。あなたは、このことをご存知でしたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

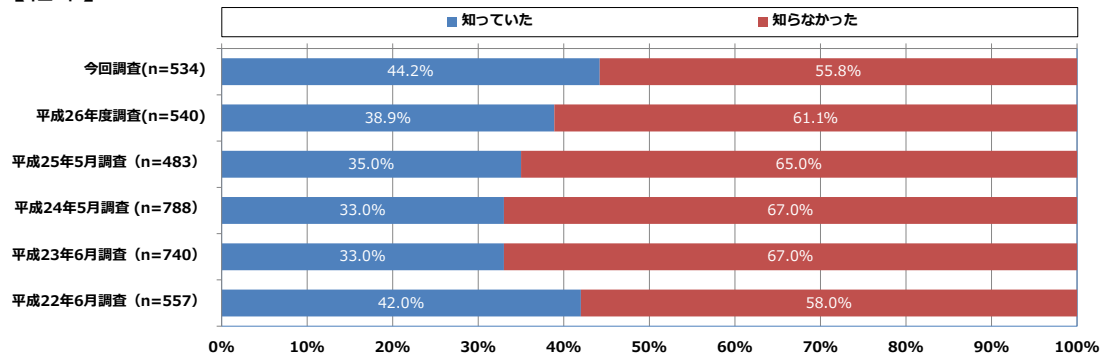
- 「知っていた」と回答した者は全体の44.2%で半数以下であった。
- 男女別にみると、「知っていた」との回答は男性が54.2%、女性が32.8%となり、男性の方が女性より21.4ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「知っていた」との回答は60歳代が56.0%で半数を超え、40歳代は40.9%、50歳代は48.3%、70歳以上は48.9%で、最も少ないのは30歳代で30.7%であった。
- 地域別にみると、「知っていた」との回答が23区で45.5%、多摩地区で42.3%となり、23区が3.2ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成28年度調査が44.2%と最も多く、平成26年度調査と比較すると5.3ポイント高くなった。

図 4.2.1 「下水道の老朽化」の認知度

【平成28年度】



【経年】



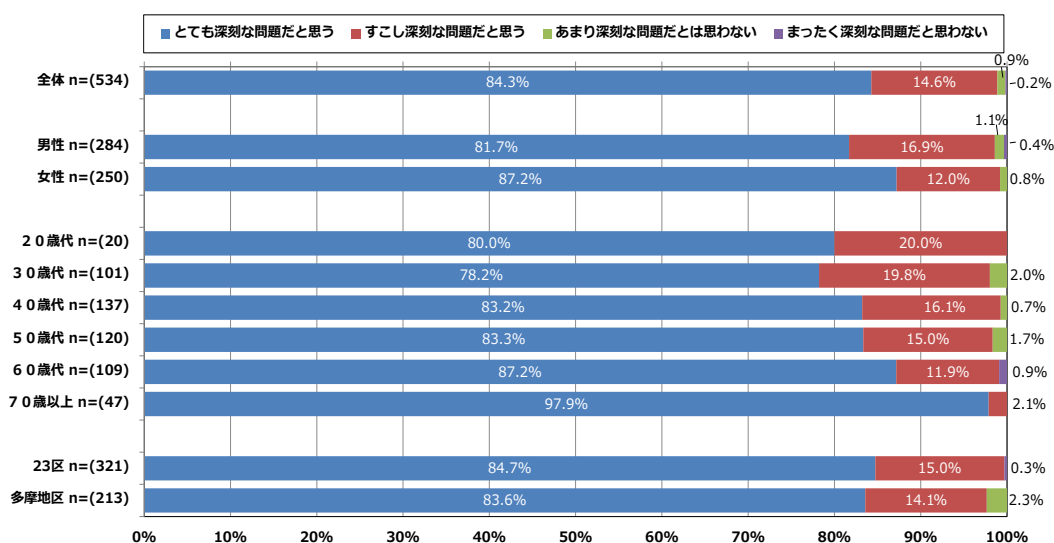
4.2.2. 下水道の課題①「下水道の老朽化」（感想）

Q12.下水道管の老朽化の内容について、どのようにお感じになりましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

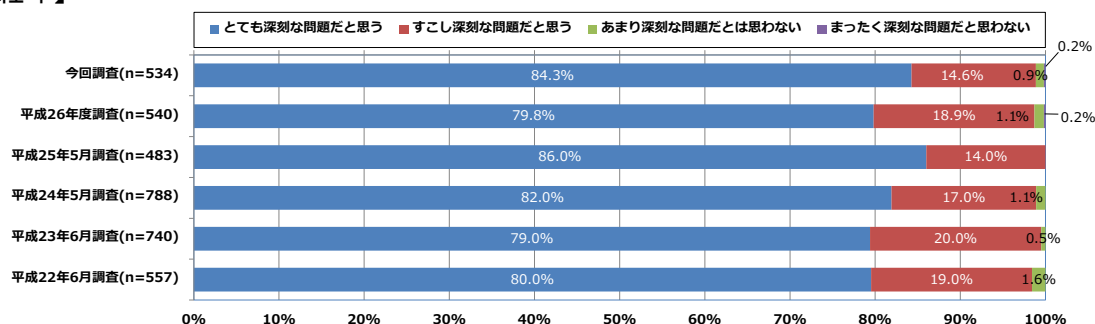
- 全体の、98.9%が「深刻な問題だと思う（とても深刻な問題だと思う、少し深刻な問題だと思う）」と考えている。
- 男女別にみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答は男性が 81.7%、女性が 87.2%となり、女性の方が男性より 5.5 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答は 70 歳以上で 97.9%と高く、最も少ないのは 30 歳代で 78.2%であった。
- 地域別にみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答が 23 区で 84.7%、多摩地区で 83.6%となり、23 区が 1.1 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答は平成 26 年度調査と比較すると 4.5 ポイント高くなったが、最も多く回答した平成 25 年度調査と比較すると 1.7 ポイント低くなった。

図 4.2.2 「下水道の老朽化」の感想

【平成 28 年度】



【経年】



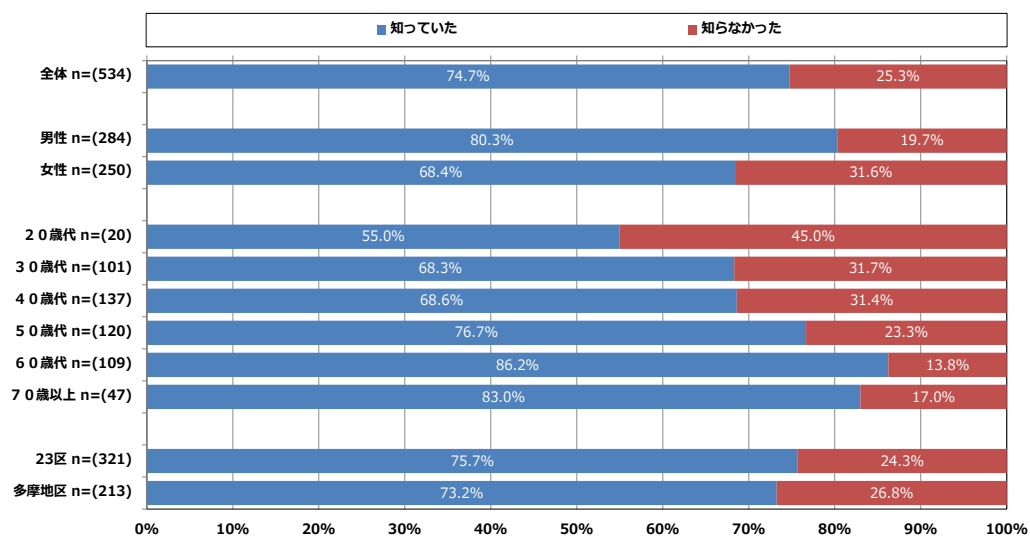
4.2.3. 下水道の課題②「都市型浸水対策」（認知度）

Q13.都市化によって、道路等の舗装が進み、雨水が地面に浸透しにくくなった結果、下水道に流れ込む雨水の量が増大しました。これにより、既に下水道が整備された東京都でも、短時間に猛烈な集中豪雨があると、下水道管やポンプ所の処理能力を超えて、都市型の浸水が発生することがあります。あなたは、このことをご存知でしたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

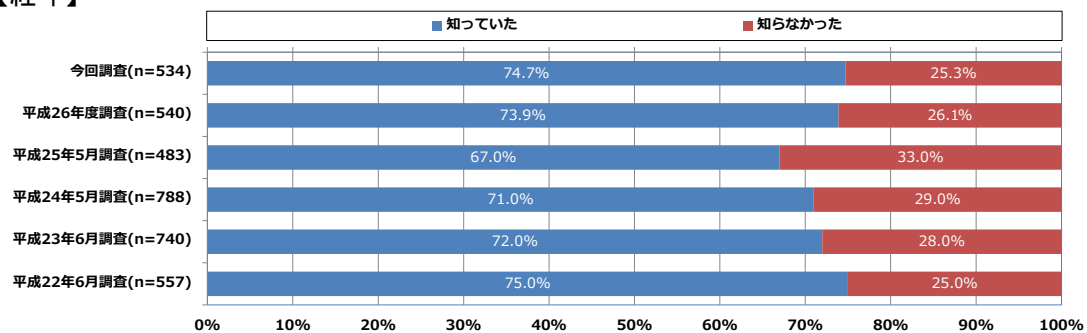
- 「知っていた」と回答した者が最も多く全体の 74.7%となった。
- 男女別にみると、「知っていた」との回答は男性が 80.3%、女性が 68.4%となり、男性の方が女性より 11.9 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「知っていた」との回答は、60 歳代が 86.2%、70 歳以上が 83.0%で 8 割以上を超え、最も少ないのは 20 歳代で 55.0%であった。
- 地域別にみると、「知っていた」との回答が 23 区で 75.7%、多摩地区で 73.2%となり、23 区が 2.5 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成 26 年度調査と比較すると 0.8 ポイント高くなったが、最も多く回答した平成 22 年度調査と比較すると 0.3 ポイント低くなった。

図 4.2.3 「都市型浸水対策」の認知度

【平成28年度】



【経年】



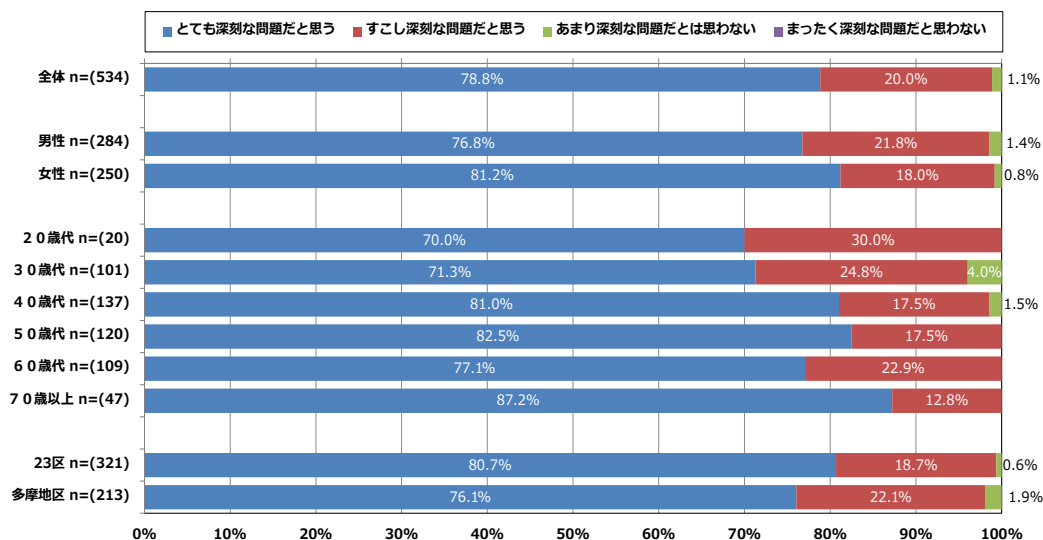
4.2.4. 下水道の課題②「都市型浸水対策」（感想）

Q14.都市型浸水の内容について、どのようにお感じになりましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

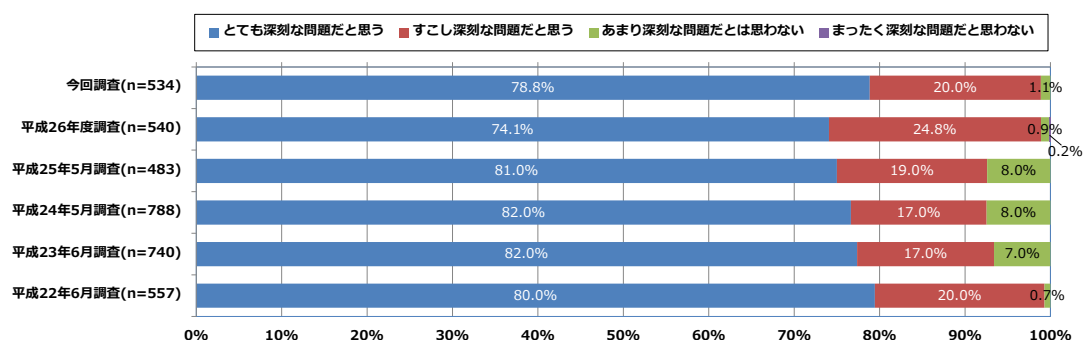
- 全体の、98.8%が「深刻な問題だと思う（とても深刻な問題だと思う、少し深刻な問題だと思う）」と考えている。
- 男女別にみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答は男性が 76.8%、女性が 81.2%となり、女性の方が男性より 4.4 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答は、40 歳代が 81.0%、50 歳代が 82.5%、70 歳以上が 87.2%で 8 割以上を超え、最も少ないのは 20 歳代で 70.0%であった。
- 地域別にみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答が 23 区で 80.7%、多摩地区で 76.1%となり、23 区が 4.6 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答は平成 26 年度調査と比較すると 4.7 ポイント高くなったが、最も多く回答した平成 24 年度調査と比較すると 3.2 ポイント低くなった。

図 4.2.4 「都市型浸水対策」の感想

【平成 28 年度】



【経年】



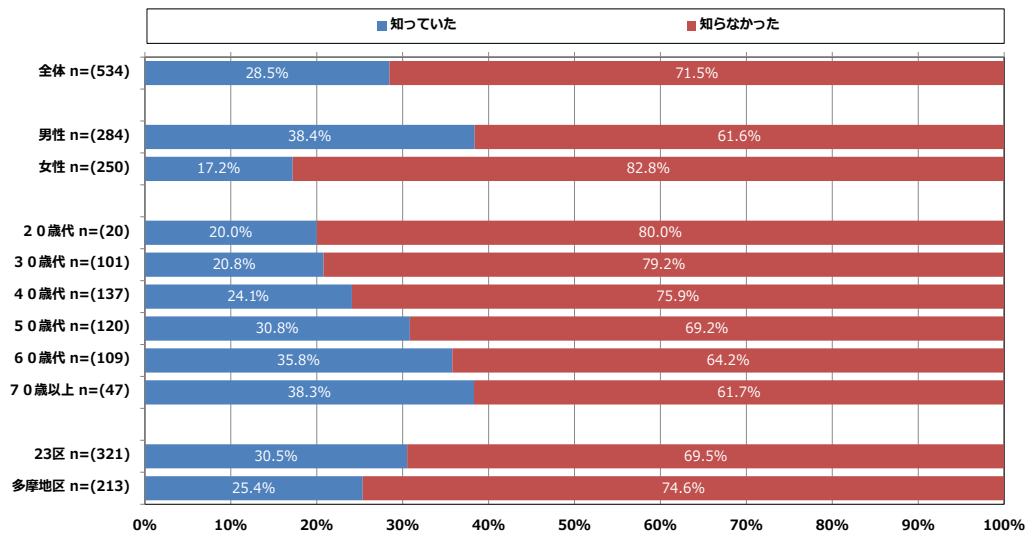
4.2.5. 下水道の課題③「合流式下水道の改善」（認知度）

Q15.東京都の下水道は、主に「合流式下水道」と呼ばれる、汚水と雨水が同じ下水道管を流れる方式で整備されています。この方式は、大雨が降ると下水の水量が一気に増大するため、水再生センターに流入する前に河川へ放流せざるを得なくなり、雨水で薄まった汚水の一部が、そのまま河川に流れてしまうということが起こります。あなたは、このことをご存知でしたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

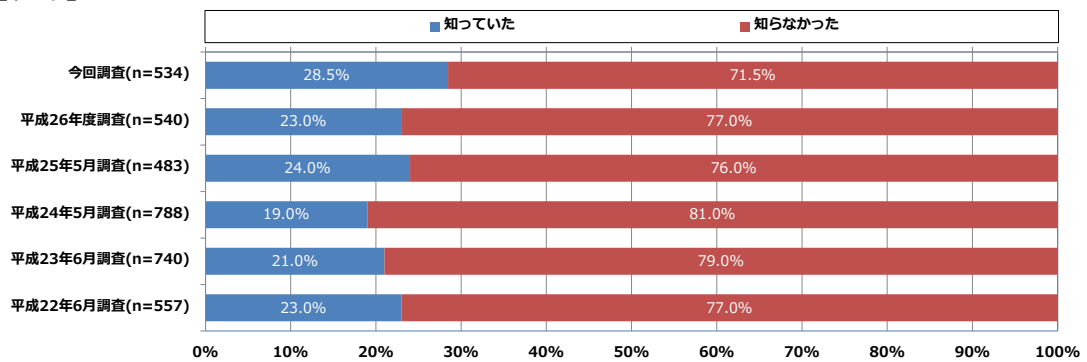
- 「知っていた」との回答した者は全体の 28.5%で半数以下になった。
- 男女別にみると、「知っていた」との回答は男性が 38.4%、女性が 17.2%となり、男性の方が女性より 21.2 ポイント高くなった。また、男女性とも半数以上は、「知らなかった」と回答していた。
- 年代別にみると、「知っていた」との回答は、年代が上がるにつれ多くなり、20 歳代が 20.0%、70 歳以上が 38.3%であった。
- 地域別にみると、「知っていた」との回答が 23 区で 30.5%、多摩地区で 25.4%となり、23 区が 5.1 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成 28 年度調査が 28.5%と最も多く、平成 26 年度調査と比較すると 5.5 ポイント高くなった。

図 4.2.5 「合流式下水道の改善」の認知度

【平成28年度】



【経年】



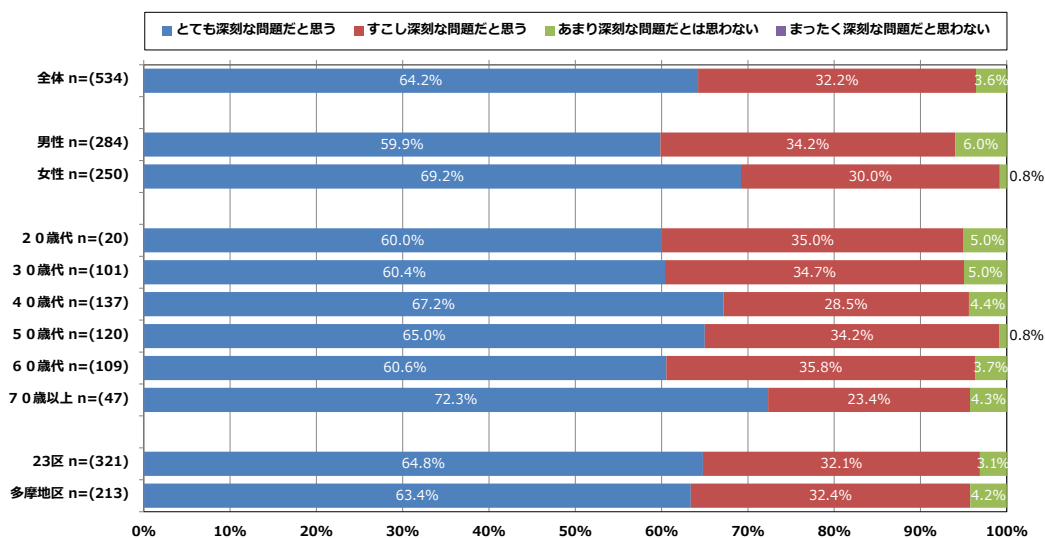
4.2.6. 下水道の課題③「合流式下水道の改善」（感想）

Q16.合流式下水道の内容について、どのようにお感じになりましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

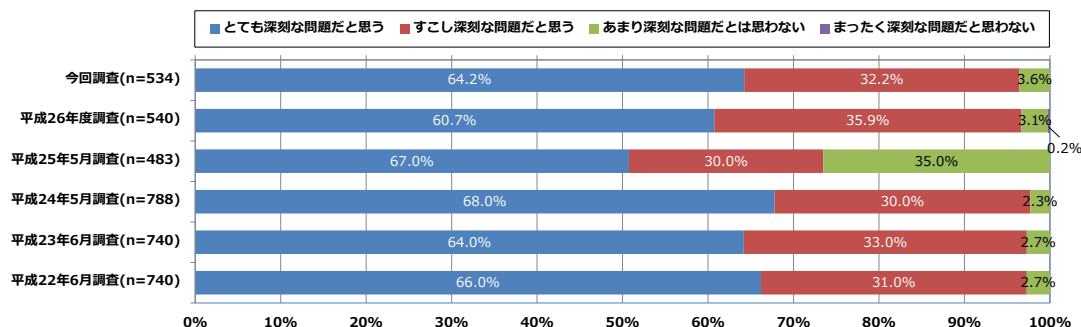
- 全体の 96.4%が「深刻な問題だと思う（とても深刻な問題だと思う＋少し深刻な問題だと思う）」と考えている。
- 男女別にみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答は男性が 59.9%、女性が 69.2%となり、女性の方が男性より 9.3 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答で最も多くなったのは 70 歳以上で 72.3%、最も少ないのは 20 歳代で 60.0%であった。
- 地域別にみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答が 23 区で 64.8%、多摩地区で 63.4%となり、23 区が 1.4 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「とても深刻な問題だと思う」との回答は平成 26 年度調査と比較すると 3.5 ポイント高くなったが、最も多く回答した平成 24 年度調査と比較すると 3.8 ポイント低くなった。

図 4.2.6 「合流式下水道の改善」の感想

【平成 28 年度】



【経年】



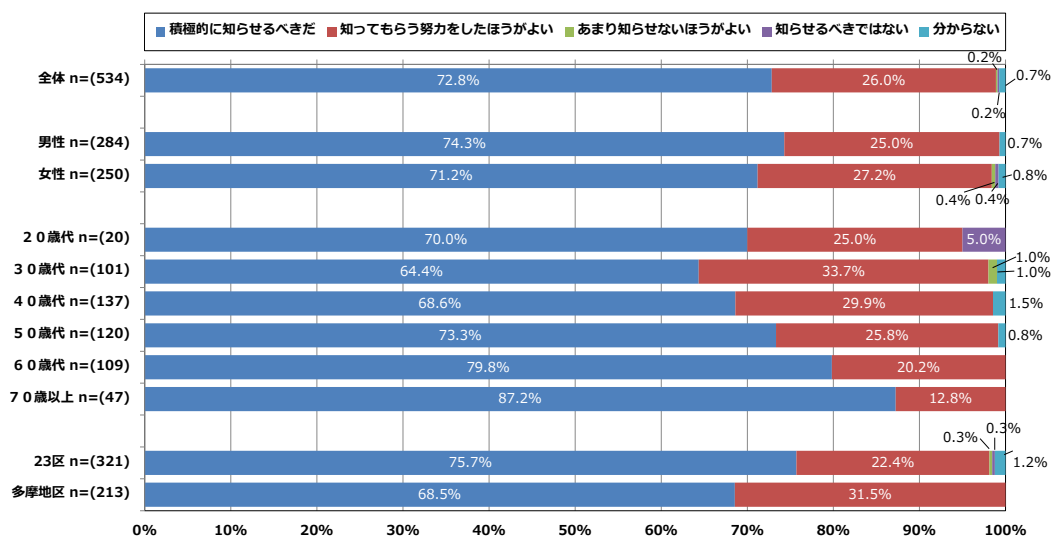
4.2.7. 下水道が抱える課題の公表について

Q17.上記（下水道管の老朽化）、（都市型浸水対策）、（合流式下水道の改善）でおうかがいした、東京都の下水道における課題について、以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

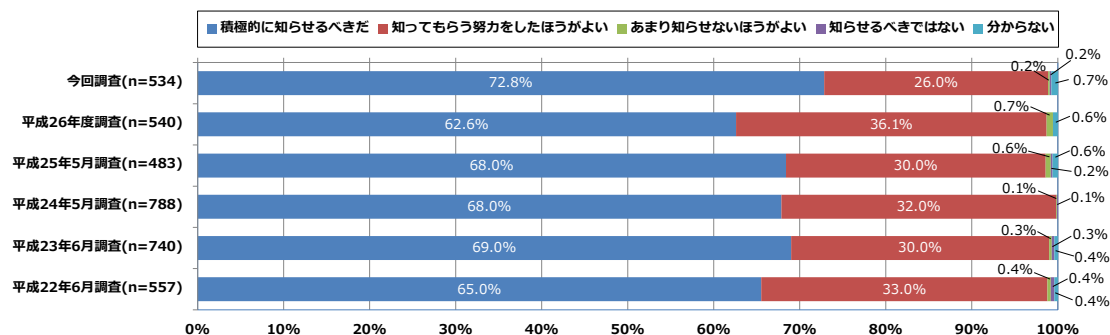
- 全体の 72.8%が「積極的に知らせるべきだ」と思っている。
- 男女別にみると、「積極的に知らせるべきだ」との回答は男性が 74.3%、女性が 71.2%となり、女性の方が男性より 3.1 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「積極的に知らせるべきだ」との回答は、50 歳代が 73.3%、60 歳代が 79.8%、70 歳以上が 87.2%で 7 割以上を超え、最も少ないのは 30 歳代で 64.4%であった。
- 地域別にみると、「積極的に知らせるべきだ」との回答が 23 区で 75.7%、多摩地区で 68.5%となり、23 区が 7.2 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「積極的に知らせるべきだ」との回答は平成 28 年度調査が 72.8%と最も多く、平成 26 年度調査と比較すると 10.2 ポイント高くなった。

図 4.2.7 下水道が抱える課題の公表

【平成 28 年度】



【経年】



4.3. 新たな事業活動の認知度と社会的貢献度評価

4.3.1. 新たな事業活動の認知度

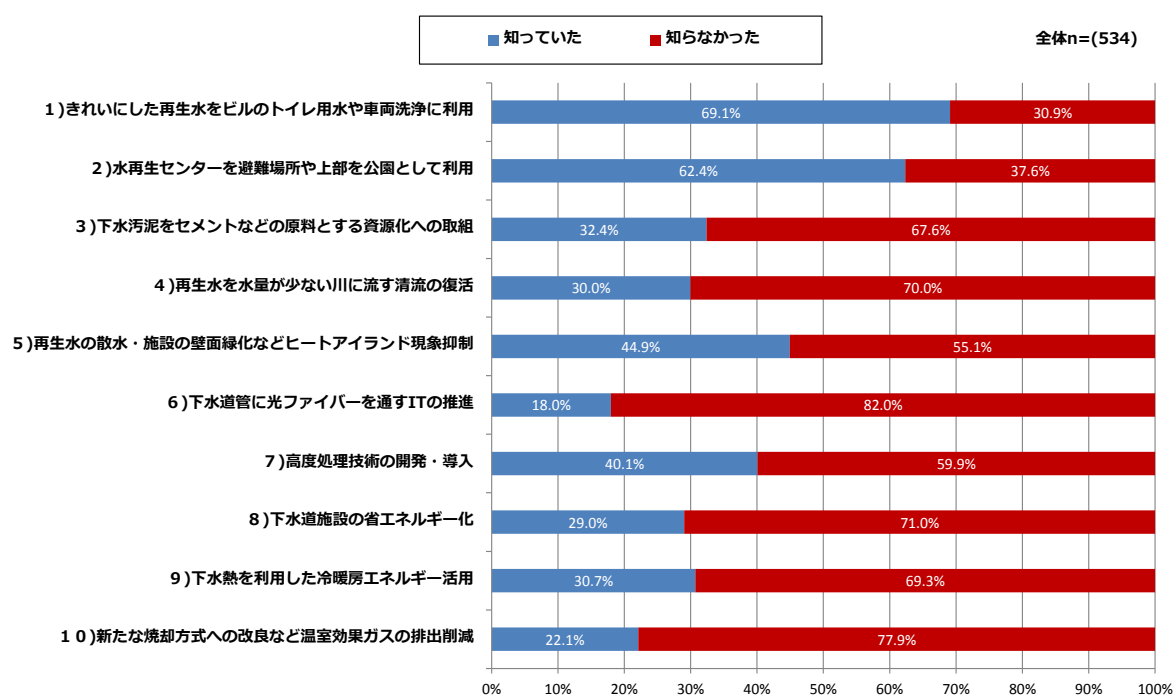
Q18.東京都下水道局が行っている新たな活動や取組についてうかがいます。以下のそれぞれの項目について、あなたはこのことをご存知でしたか？該当する選択肢を一つだけお選び下さい（単一回答）。

- 「１）きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」と回答した者が 69.1%で最も多く、次いで「２）水再生センターを避難場所や上部を公園として利用」が 62.4%であった。他事業活動は半数以下で、最も低かったのは「６）下水道管に光ファイバーを通すITの推進」で 18.0%であった。
- 男女別にみるとすべての事業活動において女性より男性の方が「知っていた」と回答していた。
- 男女別で最も高くなった事業活動は、男性で「２）水再生センターを避難場所や上部を公園として利用」で 72.2%、女性では「１）きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」で 67.6%となった。
- 年代別にみると、「６）下水道管に光ファイバーを通すITの推進」は、20歳代で 30.0%、70歳以上 27.7%と20歳代の方が高かったが、他事業活動については20歳代より70歳以上の方がすべて高くなった。
- 地域別にみると、「１）きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」が23区で 68.5%、多摩地区で 70.0%と最も高く、「６）下水道管に光ファイバーを通すITの推進」は23区で 18.1%、多摩地区で 17.8%と最も低かった。
- 「１）きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」の認知度の経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成28年度調査が 69.1%と最も多く、平成26年度と比較すると 4.8ポイント高くなった。
- 「２）水再生センターを避難場所や上部を公園として利用」の認知度の経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成22年度調査が 64.0%と最も多く、平成28年度では 62.4%となった。また、平成26年度と比較すると 3.3ポイント高くなった。
- 「３）下水汚泥をセメントなどの原料とする資源化への取組」の認知度の経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成23年度調査が 39.0%と最も多く、平成28年度では 32.4%となった。また、平成26年度と比較すると 0.9ポイント高くなった。
- 「４）再生水を水量が少ない川に流す清流の復活」の認知度の経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成28年度調査が 30.0%と最も多く、平成26年度と比較すると 5.7ポイント高くなった。
- 「５）再生水の散水・施設の壁面緑化などヒートアイランド現象抑制」の認知度の経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成28年度調査が 44.9%と最も多く、平成26年度と比較すると 10.1ポイント高くなった。
- 「６）下水道管に光ファイバーを通すITの推進」の認知度の経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成22年度・28年度調査が 18.0%と最も多く、平成26年度と比較すると 1.7ポイント高くなった。

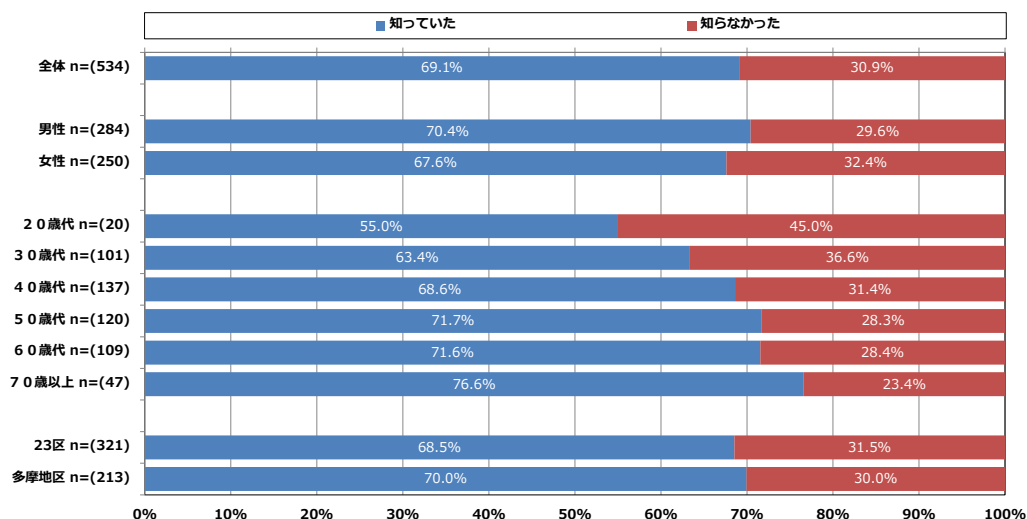
- 「7）下高度処理技術の開発・導入」の認知度の経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成28年度調査が40.1%と最も多く、平成26年度と比較すると1.4ポイント高くなった。
- 「8）下水道施設の省エネルギー化」の認知度の経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成28年度調査が29.0%と最も多く、平成26年度と比較すると7ポイント高くなった。
- 「9）下水熱を利用した冷暖房エネルギー活用」の認知度の経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成28年度調査が30.7%と最も多く、平成26年度と比較すると6.4ポイント高くなった。
- 「10）新たな焼却方式への改良など温室効果ガスの排出削減」の認知度の経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成22年度調査が33.0%と最も多く、平成28年度では22.1%となった。また、平成26年度と比較すると5.6ポイント高くなった。

図4.3.1 （1）新たな事業活動の認知度

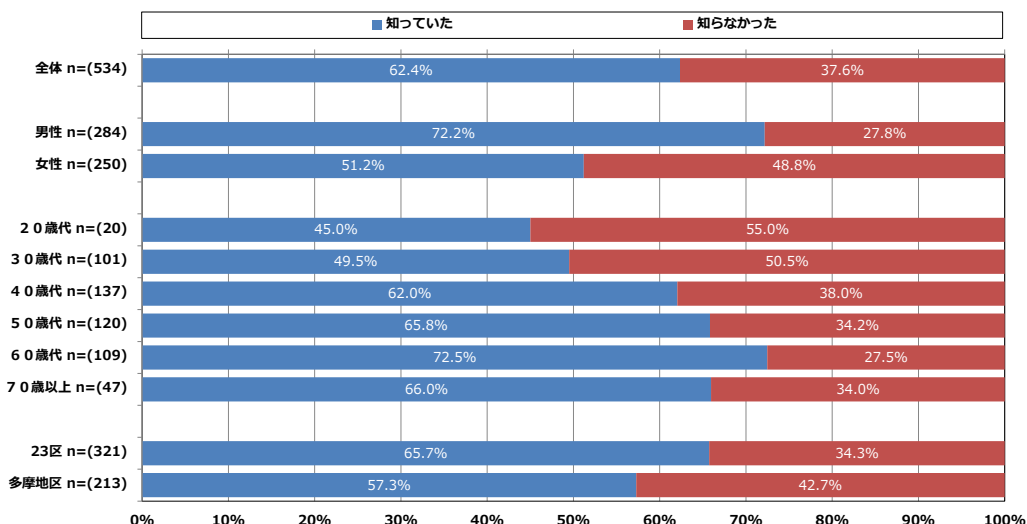
【平成28年度】



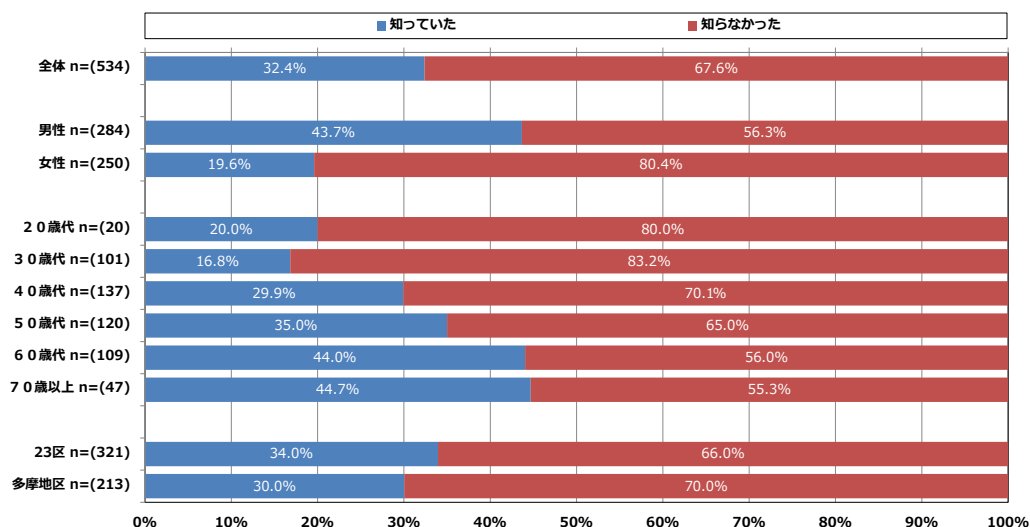
1) きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用



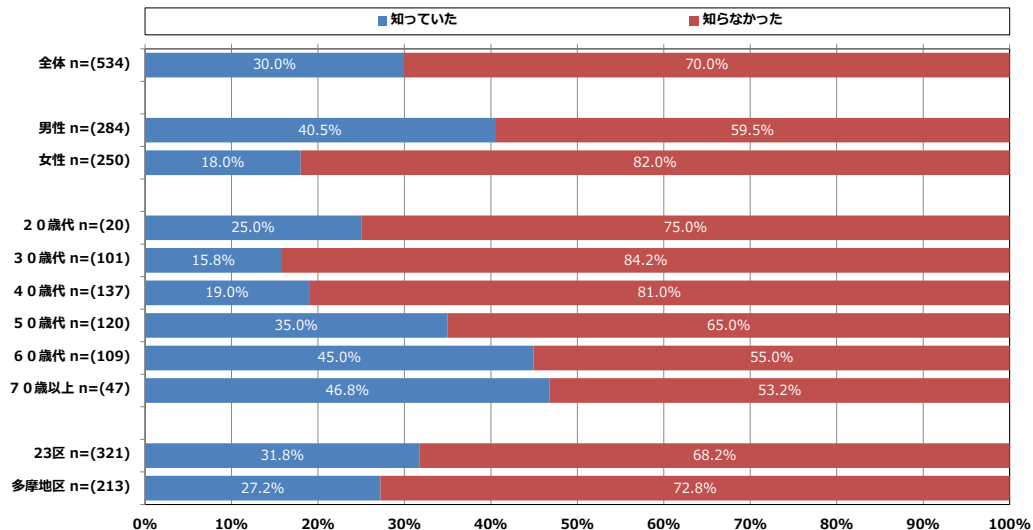
2) 水再生センターを避難場所や上部を公園として利用



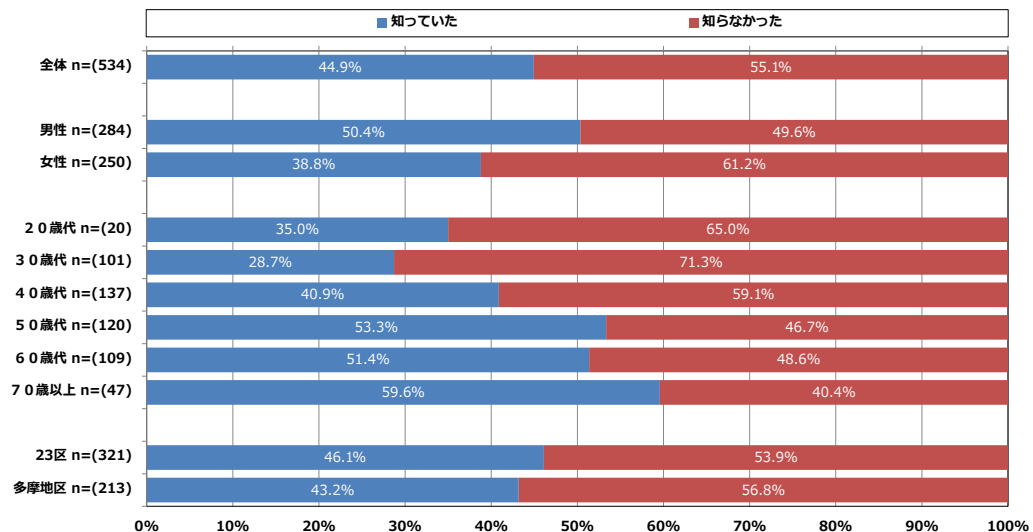
3) 下水汚泥をセメントなどの原料とする資源化への取組



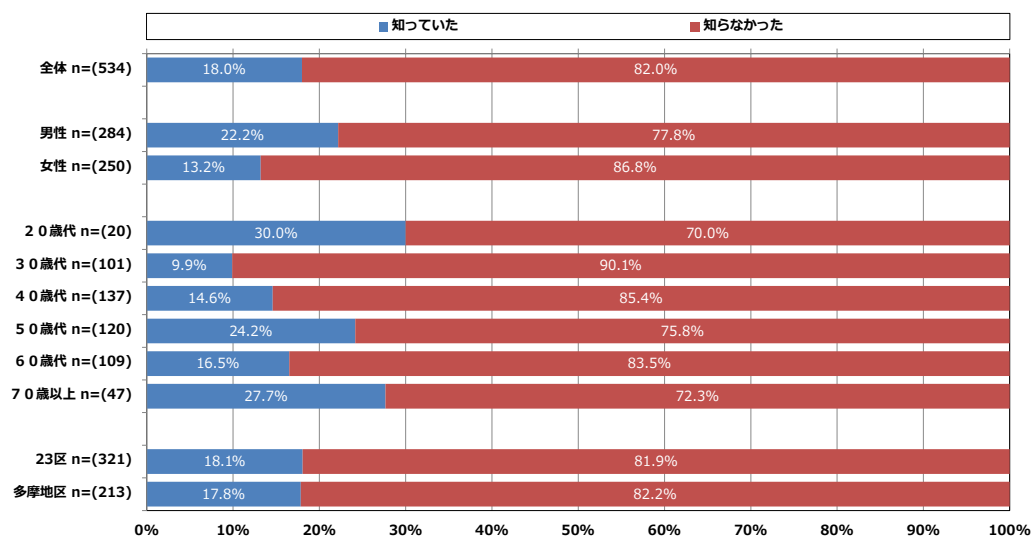
4) 再生水を水量が少ない川に流す清流の復活



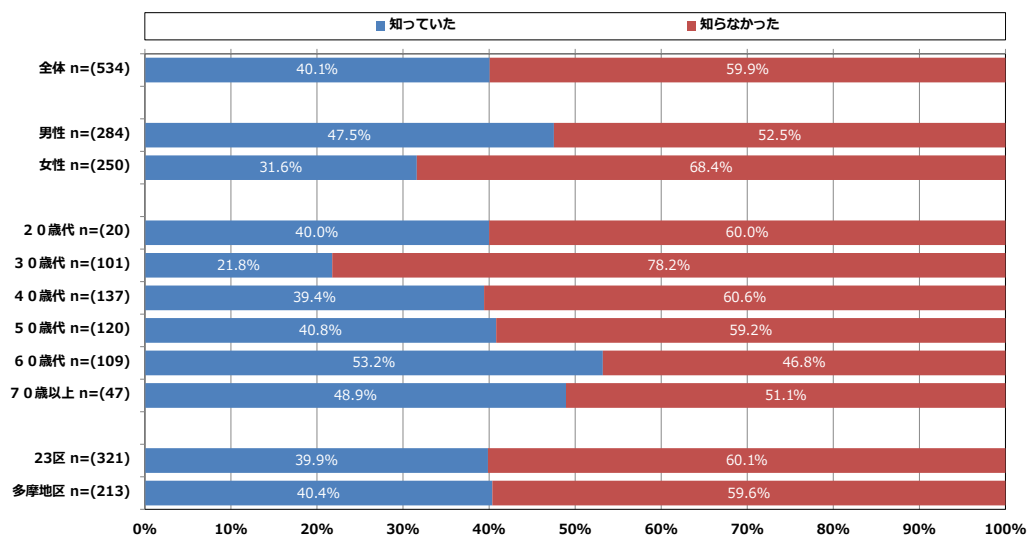
5) 再生水の散水・施設の壁面緑化などヒートアイランド現象抑制



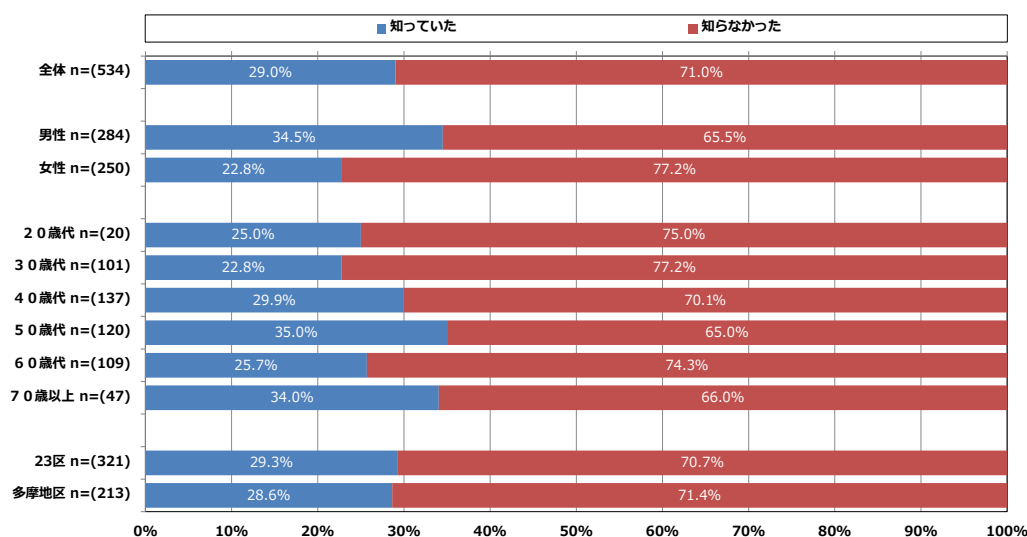
6) 下水道管に光ファイバーを通す IT の推進



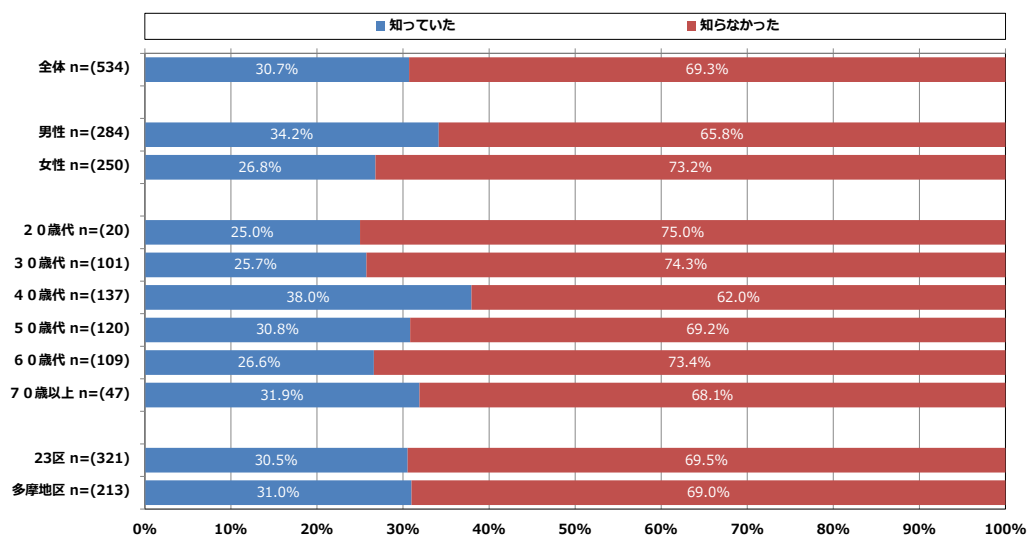
7) 高度処理技術の開発・導入



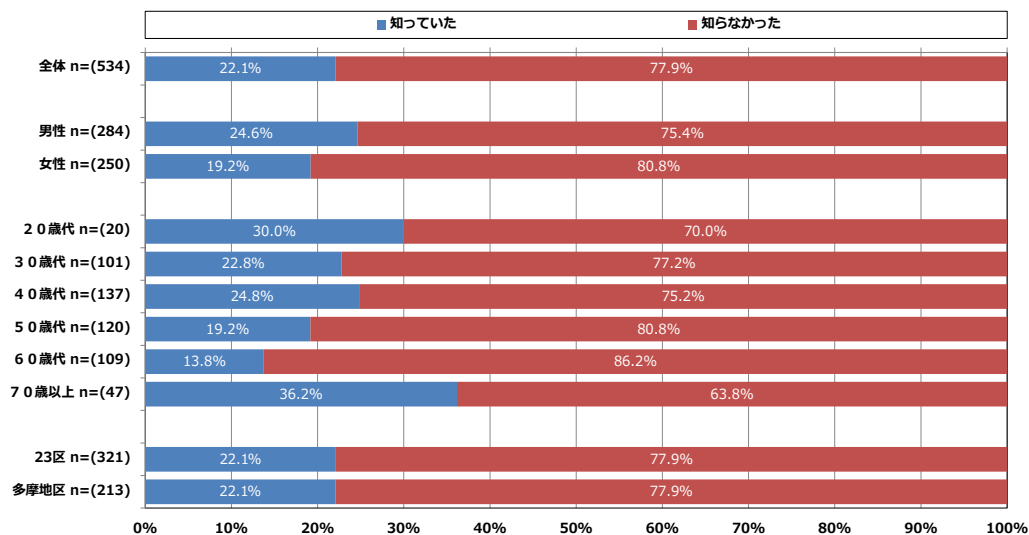
8) 下水道施設の省エネルギー化



9) 下水熱を利用した冷暖房エネルギー活用

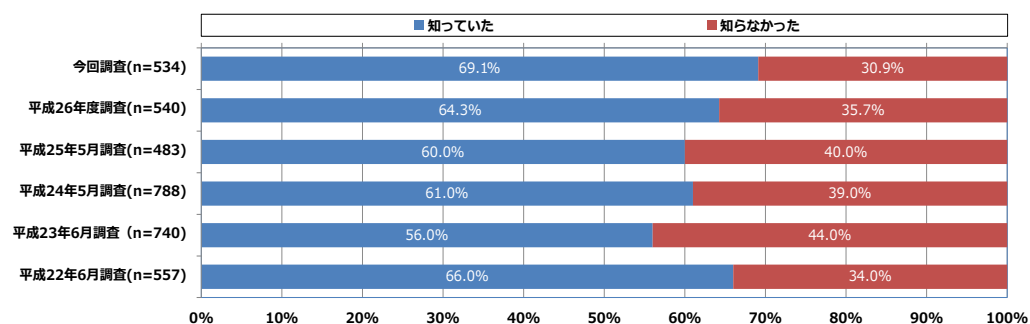


10) 新たな焼却方式への改良など温室効果ガスの排出削減

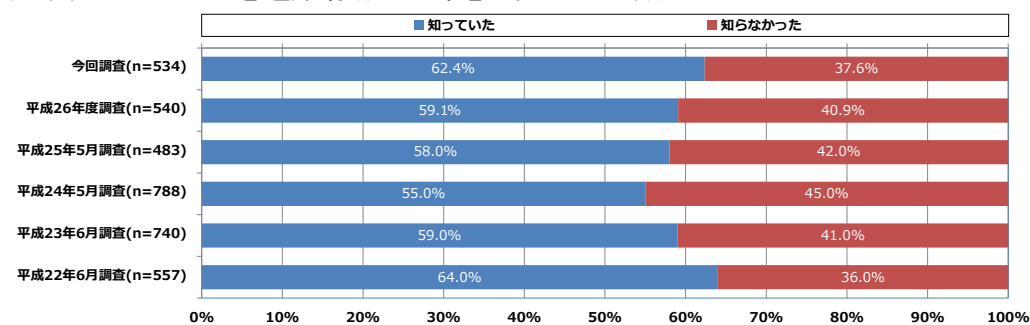


【経年】

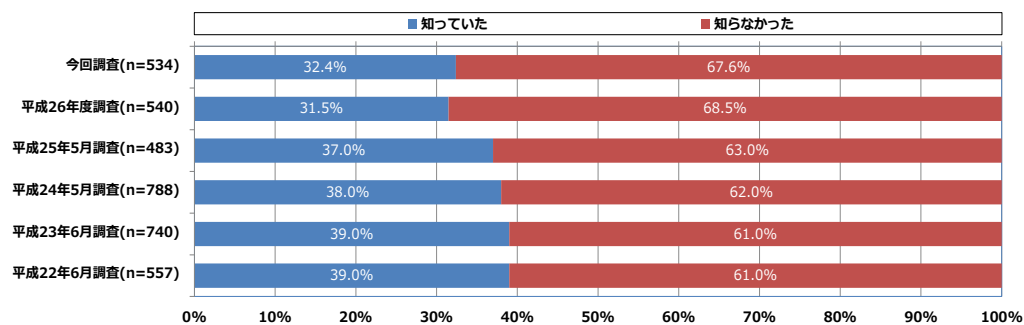
1) きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用



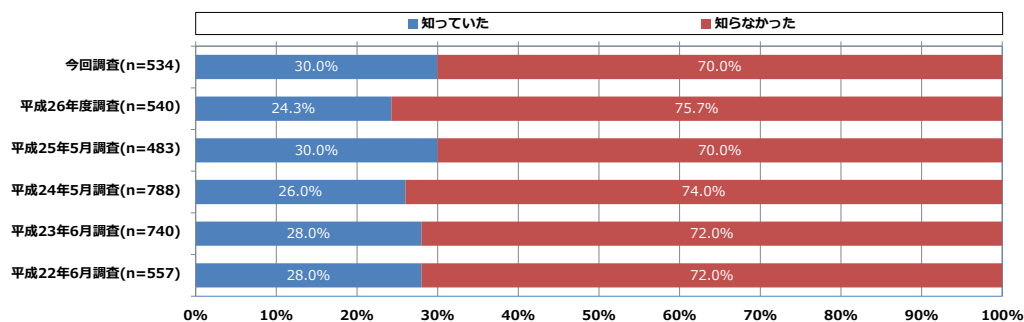
2) 水再生センターを避難場所や上部を公園として利用



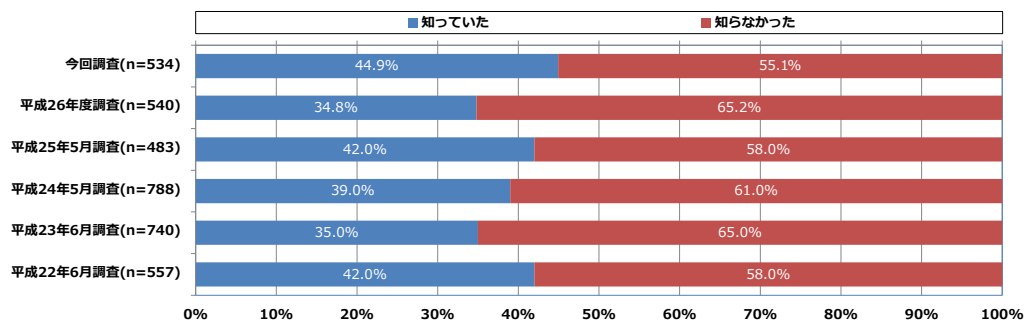
3) 下水汚泥をセメントなどの原料とする資源化への取組



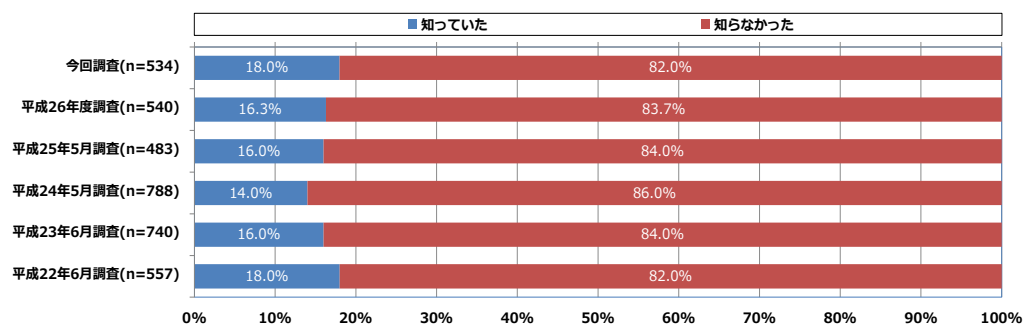
4) 再生水を水量が少ない川に流す清流の復活



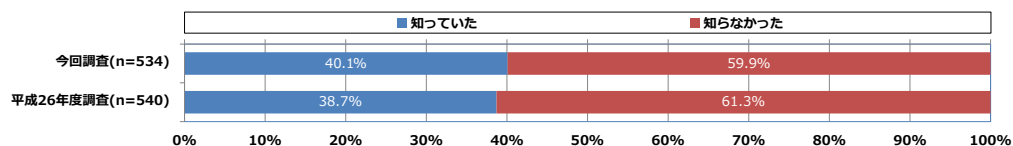
5) 再生水の散水・施設の壁面緑化などヒートアイランド現象抑制



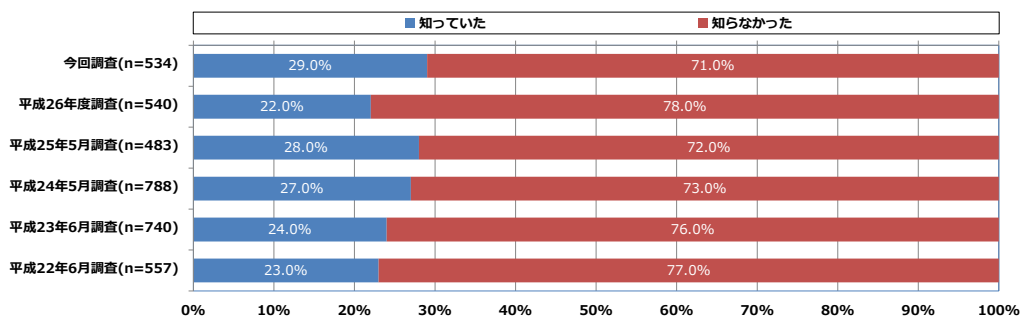
6) 下水道管に光ファイバーを通す IT の推進



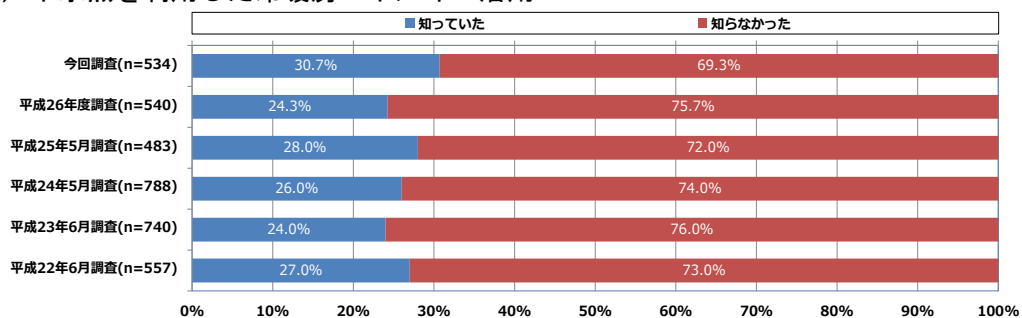
7) 高度処理技術の開発・導入



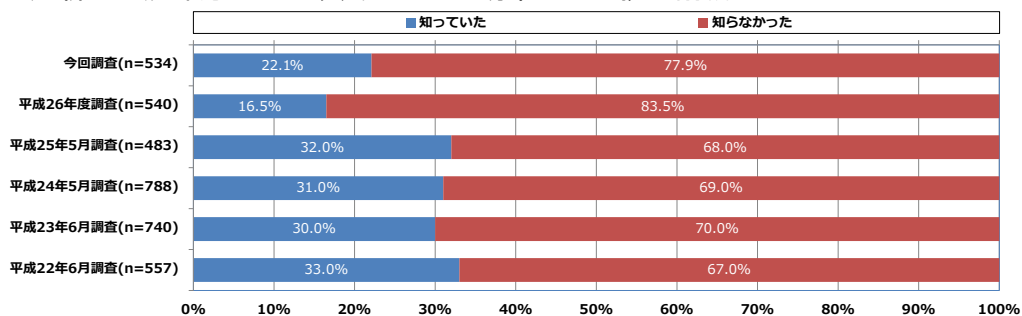
8) 下水道施設の省エネルギー化



9) 下水熱を利用した冷暖房エネルギー活用



10) 新たな焼却方式への改良など温室効果ガスの排出削減



4.3.2. 新たな事業活動の社会的貢献度

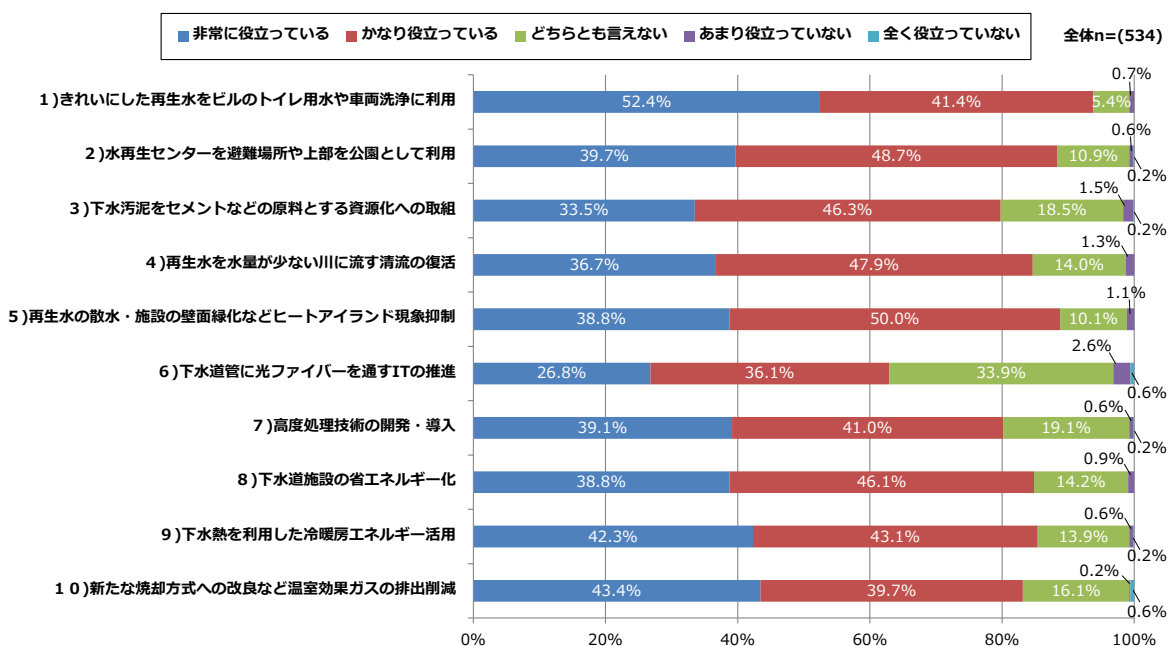
Q19.これら東京都下水道局が行っている新たな活動や取組について、以下のそれぞれの項目について、あなたはどの程度「社会的に役立っている」と思われますか？該当する選択肢を一つだけお選び下さい（単一回答）。

- 「6）下水道管に光ファイバーを通すITの推進」以外の事業活動において、全体の約80%以上が「役立っている」と回答していた。また、最も低かったのは「6）下水道管に光ファイバーを通すITの推進」で62.9%であった。
- 男女別にみると、「1）きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」を「非常に役立っている」と回答したものが男女とも最も多く、男性では49.3%、女性では56.0%となった。
- 年代別にみると、20歳代では「7）高度処理技術の開発・導入」、「10）新たな焼却方式への改良など温室効果ガスの排出削減」、それ以外の年代は「1）きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」が「非常に役立っている」と回答しているものが最も多かった。
- 地域別にみると、「1）きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」が23区で52.3%、多摩地区で52.6%と最も高く、「6）下水道管に光ファイバーを通すITの推進」は23区で25.2%、多摩地区で29.1%と最も低かった。
- 「1）きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用」の社会的貢献度の経年変化をみると、「役立っている」との回答は平成28年度調査では93.8%であり、平成26年度と比較すると1.8ポイント高くなった。
- 「2）水再生センターを避難場所や上部を公園として利用」の社会的貢献度の経年変化をみると、「役立っている」との回答は平成28年度調査では88.4%であり、平成26年度と比較すると1.7ポイント高くなった。
- 「3）下水汚泥をセメントなどの原料とする資源化への取組」の社会的貢献度の経年変化をみると、「役立っている」との回答は平成28年度調査では79.8%であり、平成26年度と比較すると2.2ポイント高くなった。
- 「4）再生水を水量が少ない川に流す清流の復活」の社会的貢献度の経年変化をみると、「役立っている」との回答は平成28年度調査では84.6%であり、平成26年度と比較すると1.6ポイント高くなった。
- 「5）再生水の散水・施設の壁面緑化などヒートアイランド現象抑制」の社会的貢献度の経年変化をみると、「役立っている」との回答は平成28年度調査では88.8%であり、平成26年度と比較すると3.4ポイント高くなった。
- 「6）下水道管に光ファイバーを通すITの推進」の社会的貢献度の経年変化をみると、「役立っている」との回答は平成28年度調査では62.9%であり、平成26年度と比較すると1.6ポイント高くなった。

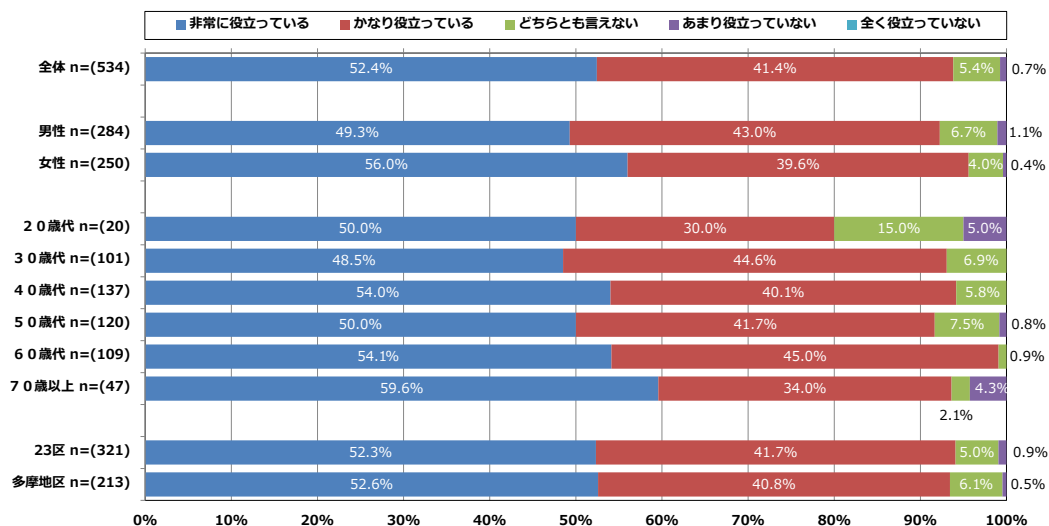
- 「7) 高度処理技術の開発・導入」の社会的貢献度の経年変化をみると、「役立っている」との回答は平成 28 年度調査では 80.1%であり、平成 26 年度と比較すると 2.1 ポイント低くなった。
- 「8) 下水道施設の省エネルギー化」の社会的貢献度の経年変化をみると、「役立っている」との回答は平成 28 年度調査では 84.8%であり、平成 26 年度と比較すると 2.2 ポイント低くなった。
- 「9) 下水熱を利用した冷暖房エネルギー活用」の社会的貢献度の経年変化をみると、「役立っている」との回答は平成 28 年度調査では 85.4%であり、平成 26 年度と比較すると 0.6 ポイント高くなった。
- 「10) 新たな焼却方式への改良など温室効果ガスの排出削減」の社会的貢献度の経年変化をみると、「役立っている」との回答は平成 28 年度調査では 83.1%であり、平成 26 年度と比較すると 1.2 ポイント高くなった。

図 4.3.2 (2) 新たな事業活動の社会的貢献度

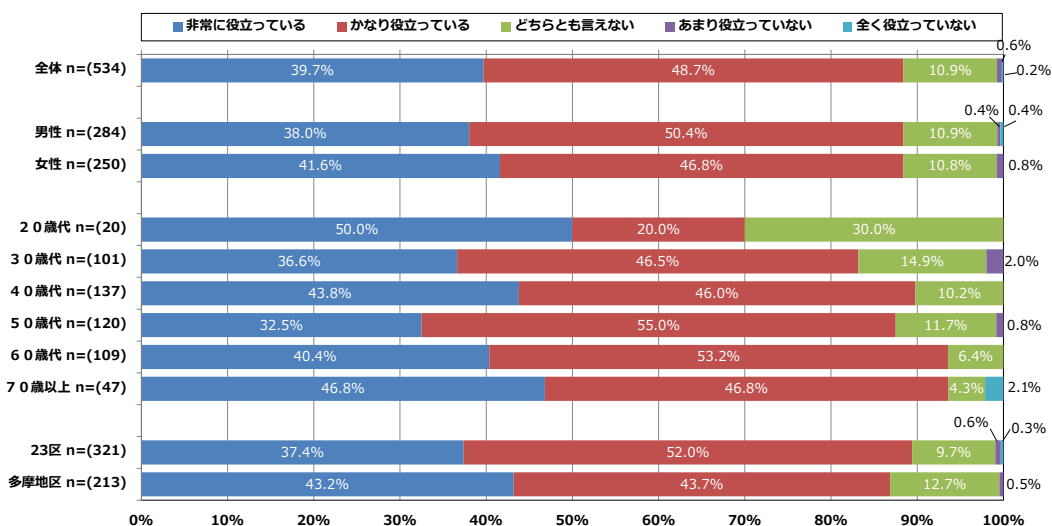
【平成 28 年度】



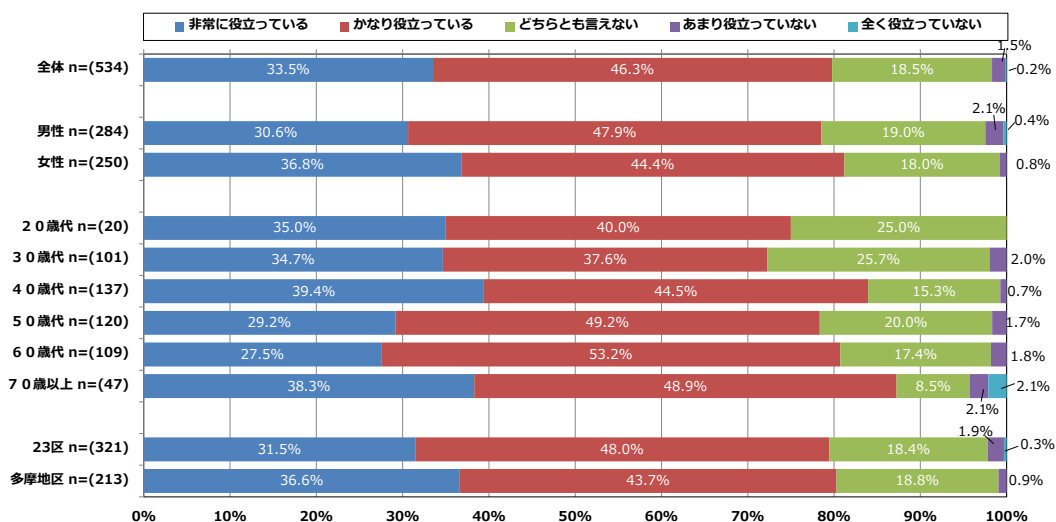
1) きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用



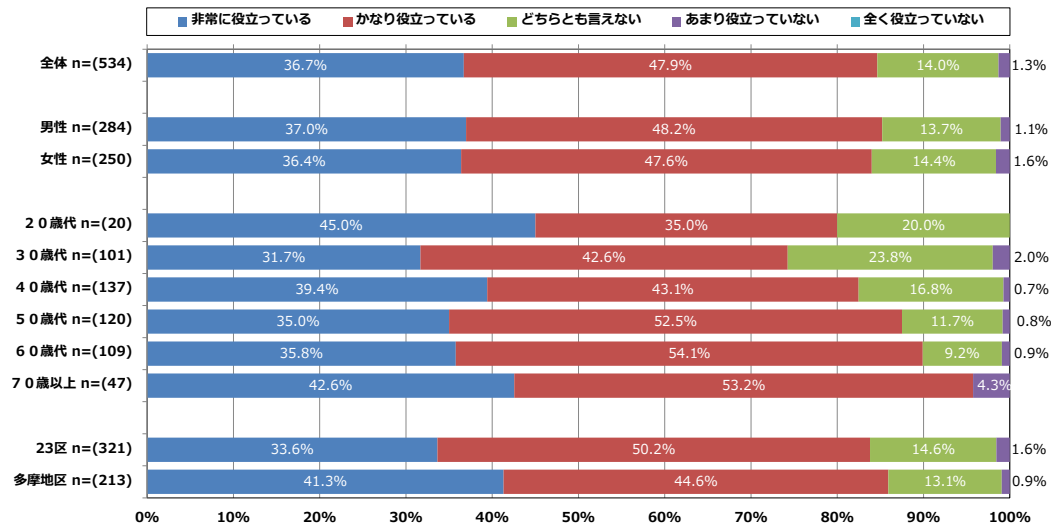
2) 水再生センターを避難場所や上部を公園として利用



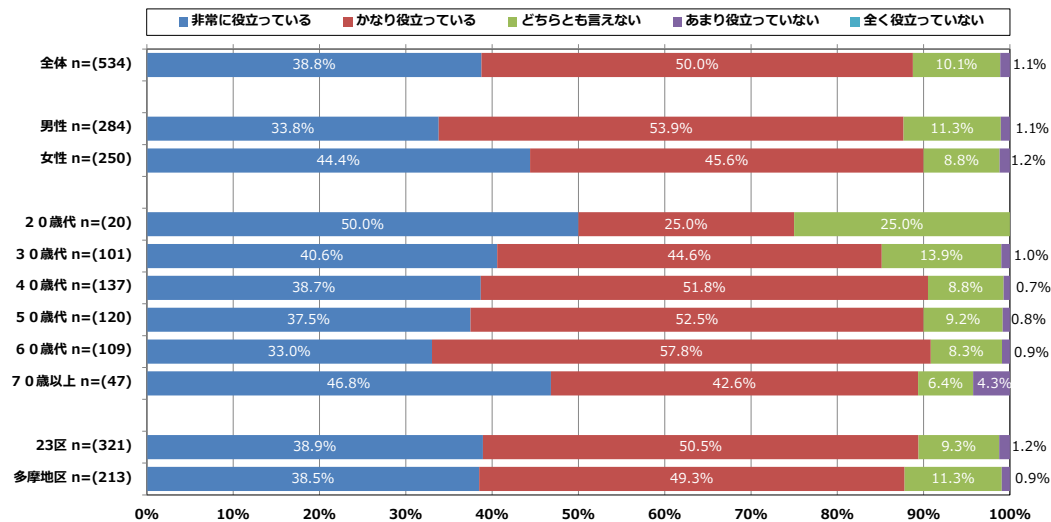
3) 下水汚泥をセメントなどの原料とする資源化への取組



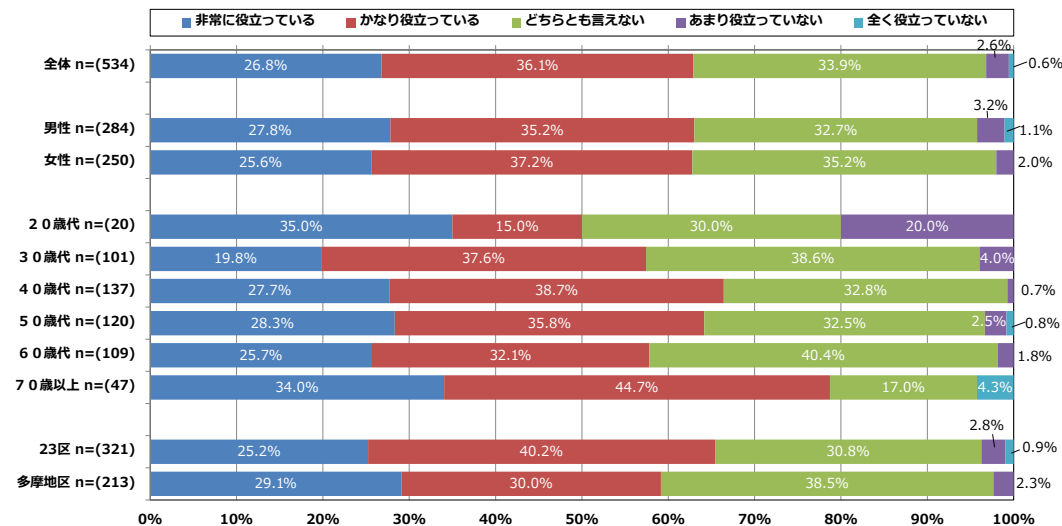
4) 再生水を水量が少ない川に流す清流の復活



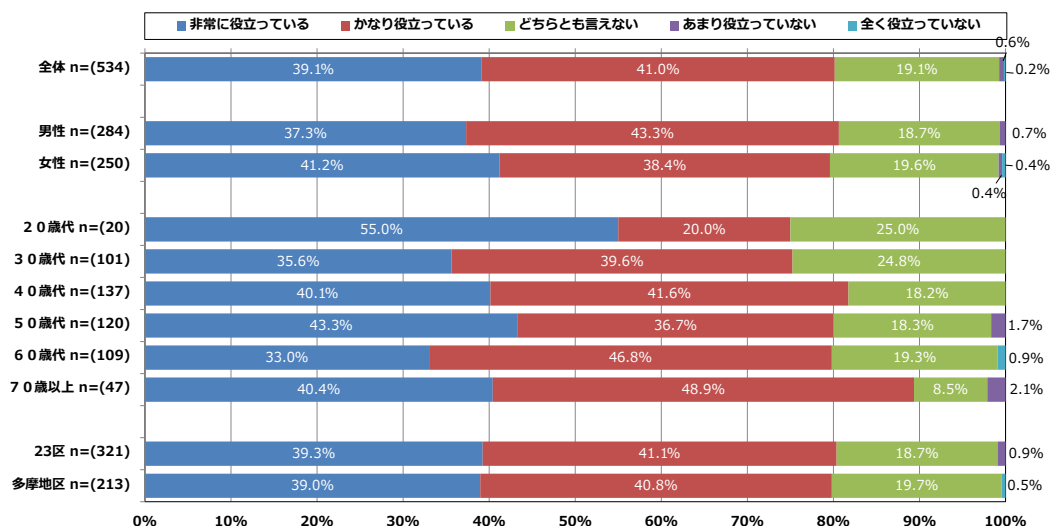
5) 再生水の散水・施設の壁面緑化などヒートアイランド現象抑制



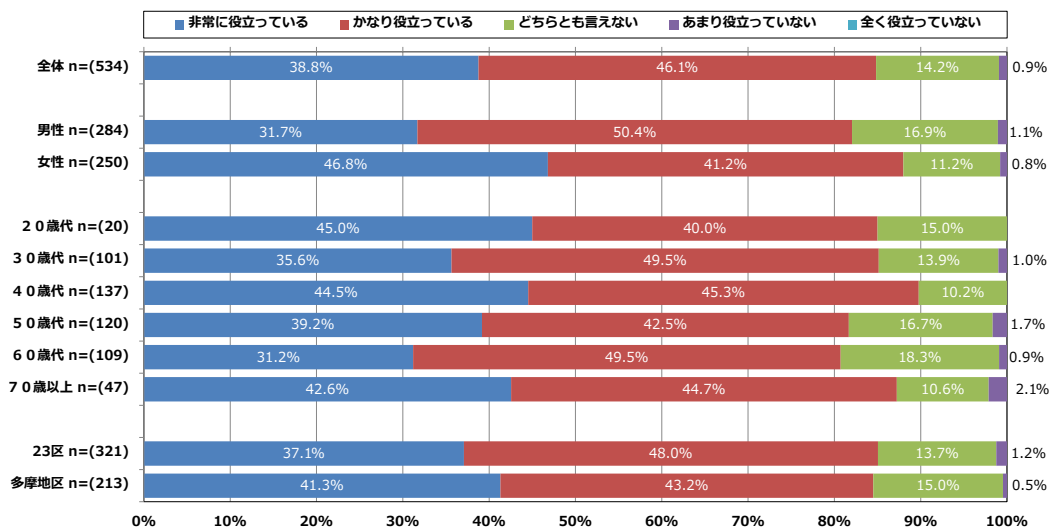
6) 下水道管に光ファイバーを通す IT の推進



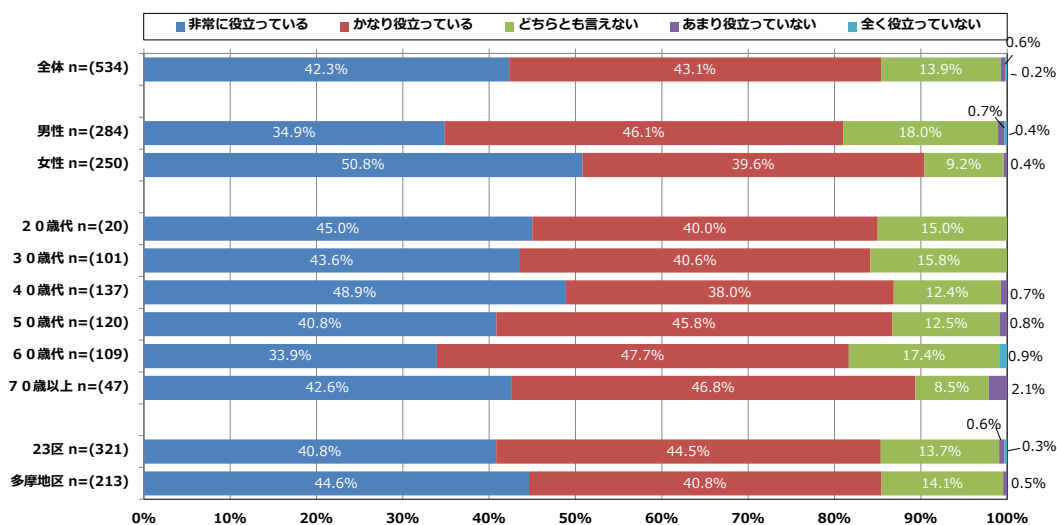
7) 高度処理技術の開発・導入



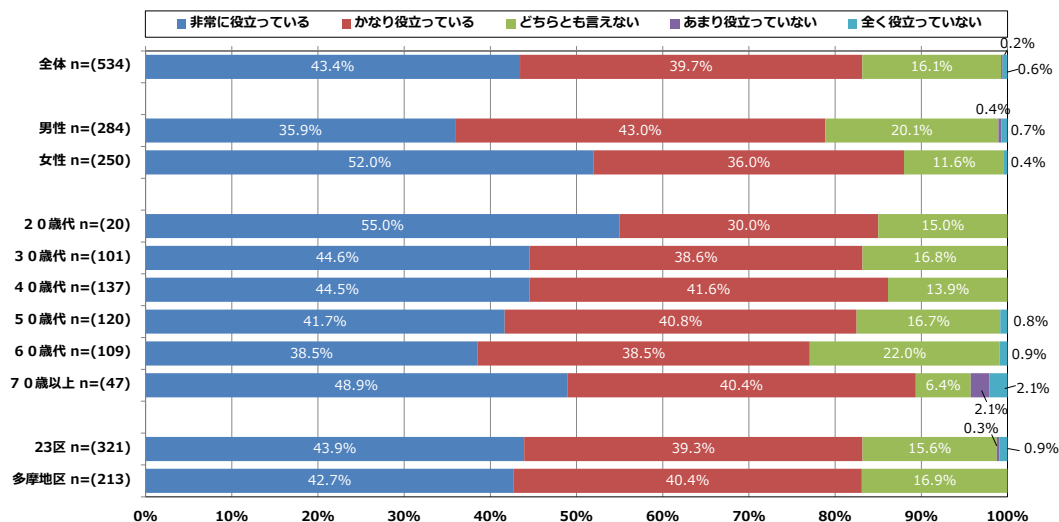
8) 下水道施設の省エネルギー化



9) 下水熱を利用した冷暖房エネルギー活用

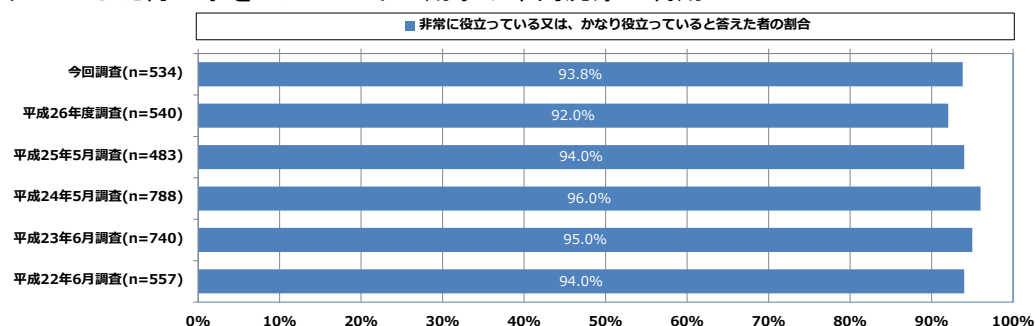


10) 新たな焼却方式への改良など温室効果ガスの排出削減

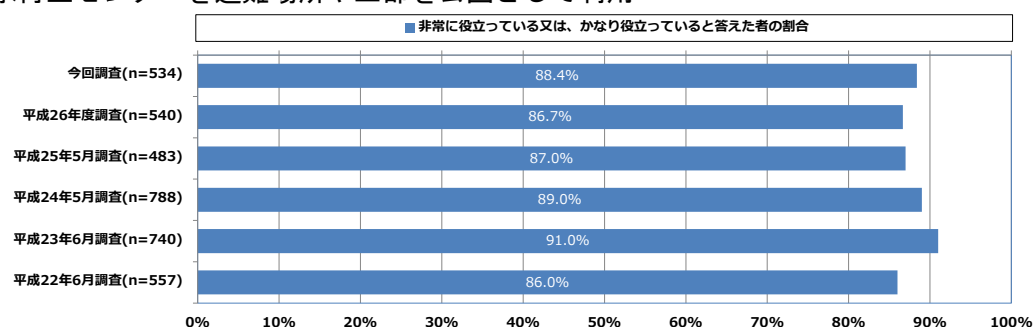


【経年】

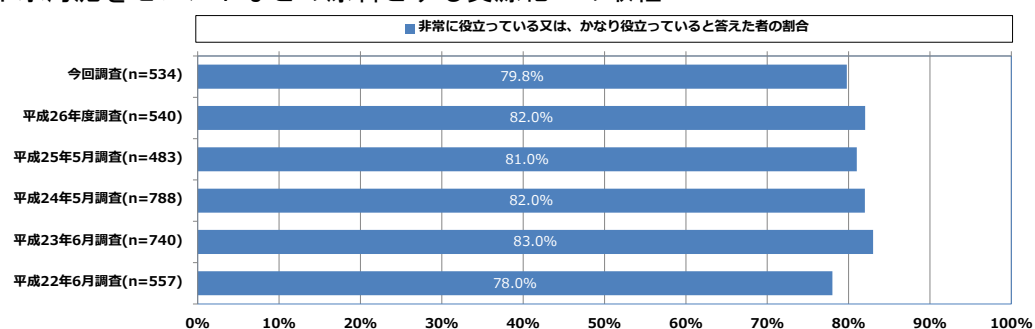
1) きれいにした再生水をビルのトイレ用水や車両洗浄に利用



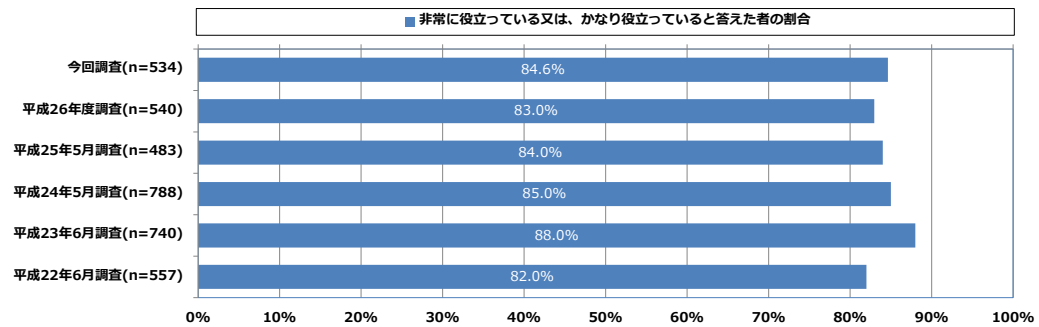
2) 水再生センターを避難場所や上部を公園として利用



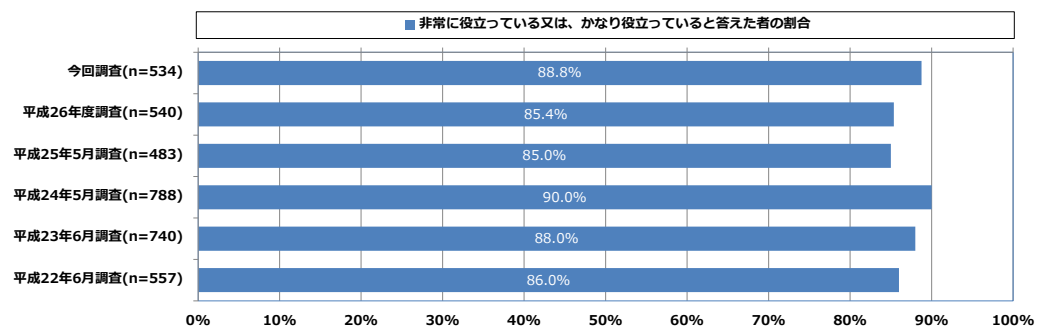
3) 下水汚泥をセメントなどの原料とする資源化への取組



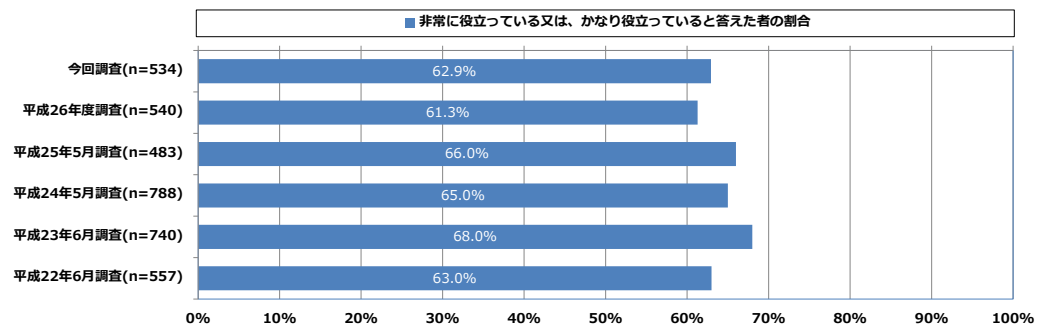
4) 再生水を水量が少ない川に流す清流の復活



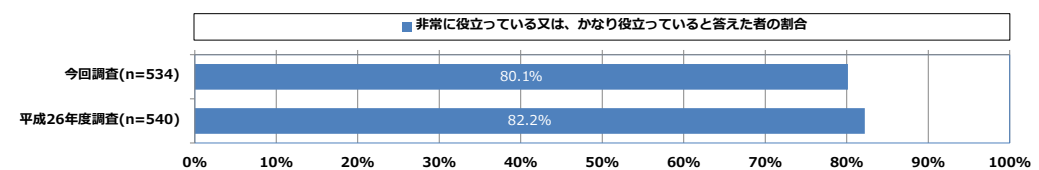
5) 再生水の散水・施設の壁面緑化などヒートアイランド現象抑制



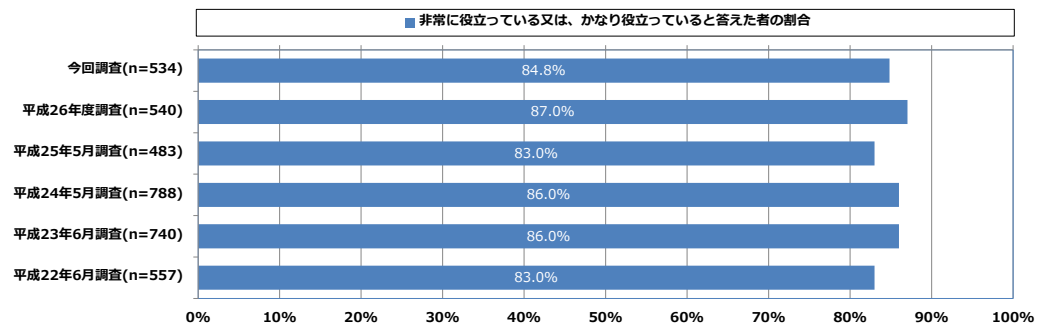
6) 下水道管に光ファイバーを通す IT の推進



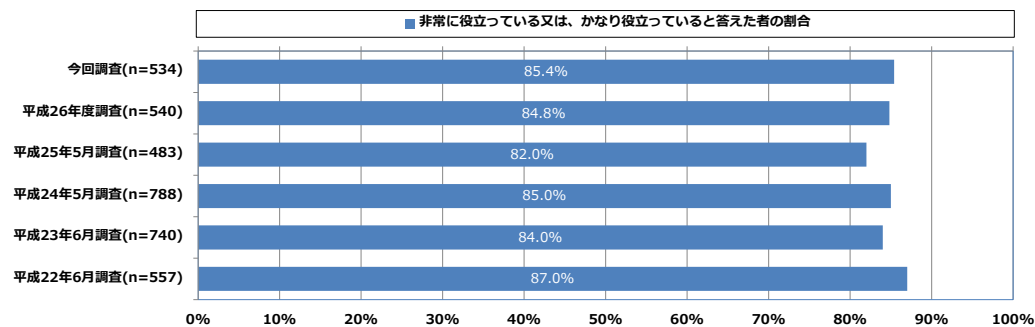
7) 高度処理技術の開発・導入



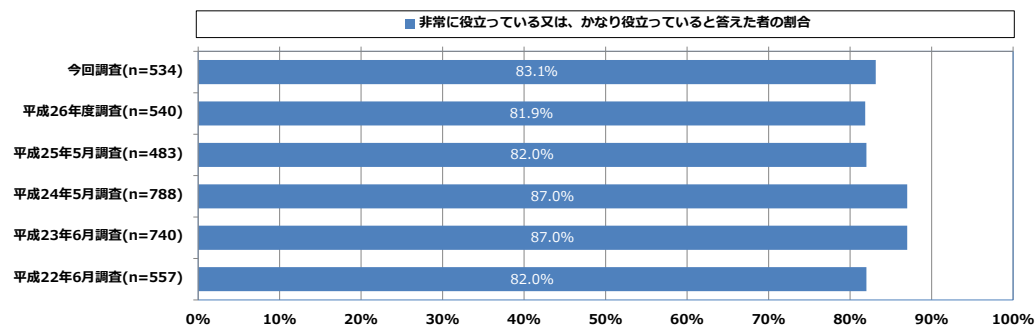
8) 下水道施設の省エネルギー化



9) 下水熱を利用した冷暖房エネルギー活用



10) 新たな焼却方式への改良など温室効果ガスの排出削減



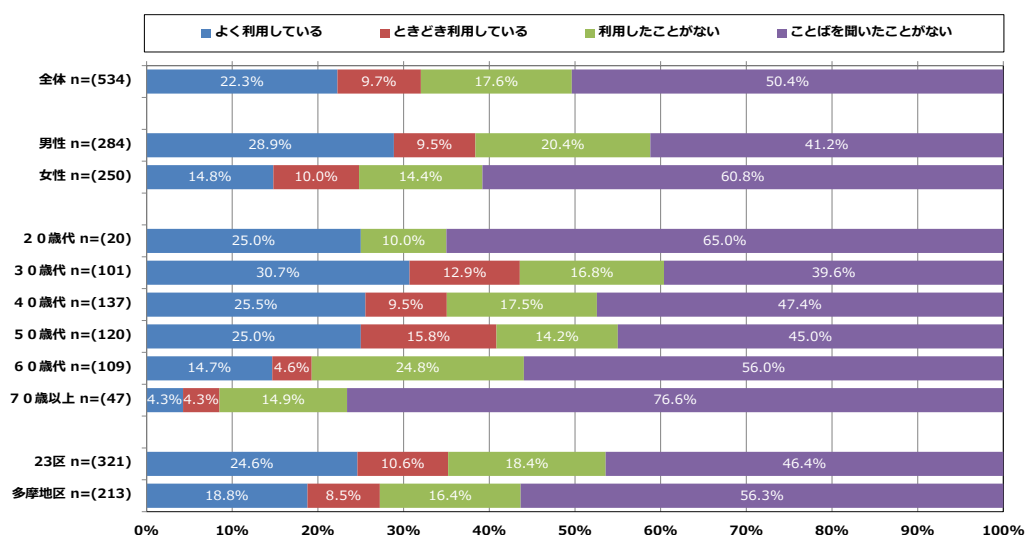
4.4. 東京アメッシュについて

4.4.1. 「東京アメッシュ」の利用頻度

Q20.「東京アメッシュ」を利用されたことはありますか？（単一回答）。

- 「よく利用している」が全体の 22.3%、「利用したことがない」が 17.6%であった。また、「ことばを聞いたことがない」が 50.4%と半数を超えた。
- 男女別にみると「よく利用している」との回答は男性が 28.9%、女性が 14.8%となり、男性の方が女性より 14.1 ポイント高くなった。また、女性では「ことばを聞いたことがない」が 60.8%となり半数を超えた。
- 年代別にみると、「よく利用している」との回答は 30 歳代が 30.7%と最も高く、70 歳以上は 4.3%で最も少なくなった。
- 地域別にみると、「よく利用している」との回答が 23 区で 24.6%、多摩地区で 18.8%となり、23 区が 5.8 ポイント高くなった。

図 4.4.1 「東京アメッシュ」の利用頻度



4.4.2. 「東京アメッシュ」の利用方法

Q20-1. Q20 で 1. 2. と答えた方にお伺いします。どのような時に「東京アメッシュ」利用されていますか。(自由回答、複数回答可)

- 「外出時（出勤時、工作中、買い物）」との回答が最も多く全体の 27.5%、次に「雨予報」21.0%となった。
- 男女別にみると、男性では「外出時（出勤時、工作中、買い物）」35.5%、「雨予報」23.4%の順位となり、女性では「雨予報」16.7%、「雨が降っているか確認するとき」15.0%の順位となった。
- 年代別にみると、「外出時（出勤時、工作中、買い物）」が 20 歳代で 50.0%、30 歳代で 23.3%、40 歳代で 29.2%、60 歳代で 38.1%、70 歳代以上で 20.0%となり最も多く、50 歳代では「雨予報」が 26.1%で最も多くなった。
- 地域別にみると、23 区では「外出時（出勤時、工作中、買い物）」30.9%、「雨予報」20.9%の順位となり半数を占め、多摩地区では「外出時（出勤時、工作中、買い物）」21.1%、「雨予報」21.1%の順位となり 4 割を占めた。
- 職業別にみると、パートでは「雨予報」・「大雨（予想）の時」がともに 25.0%、アルバイトでは「雨予報」が 50.0%と最も多く、他職業では「外出時（出勤時、工作中、買い物）」（会社員:27.0%、自営業:45.5%、専業主婦:17.6%、無職:33.3%）が最も多くなった。

図 4.4.2(1) 「東京アメッシュ」の利用方法（全体・性別）

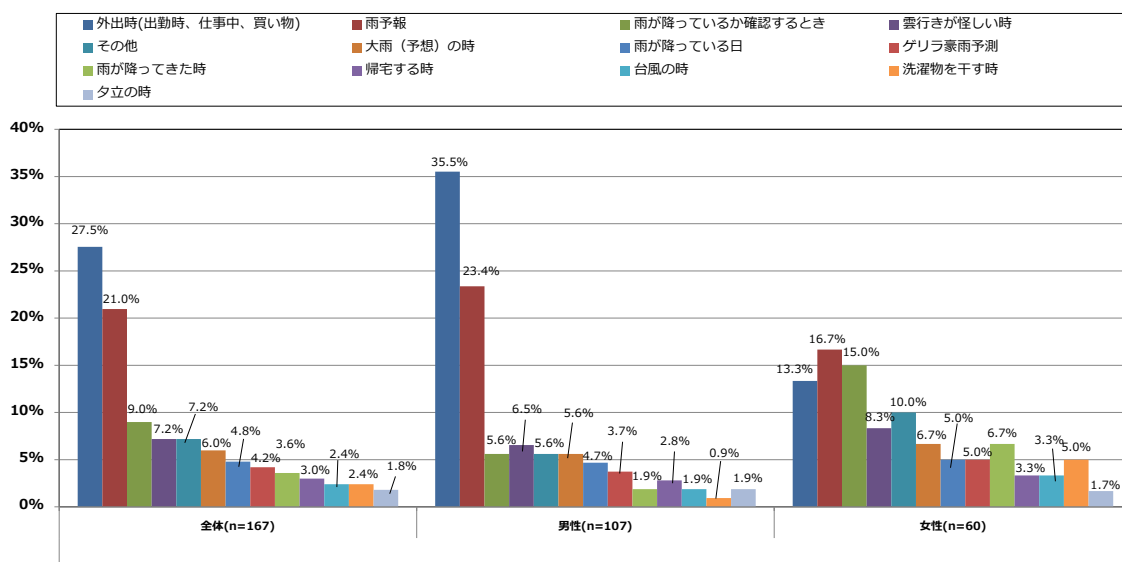


図 4.4.2(2) 「東京アメッシュ」の利用方法（年代別）

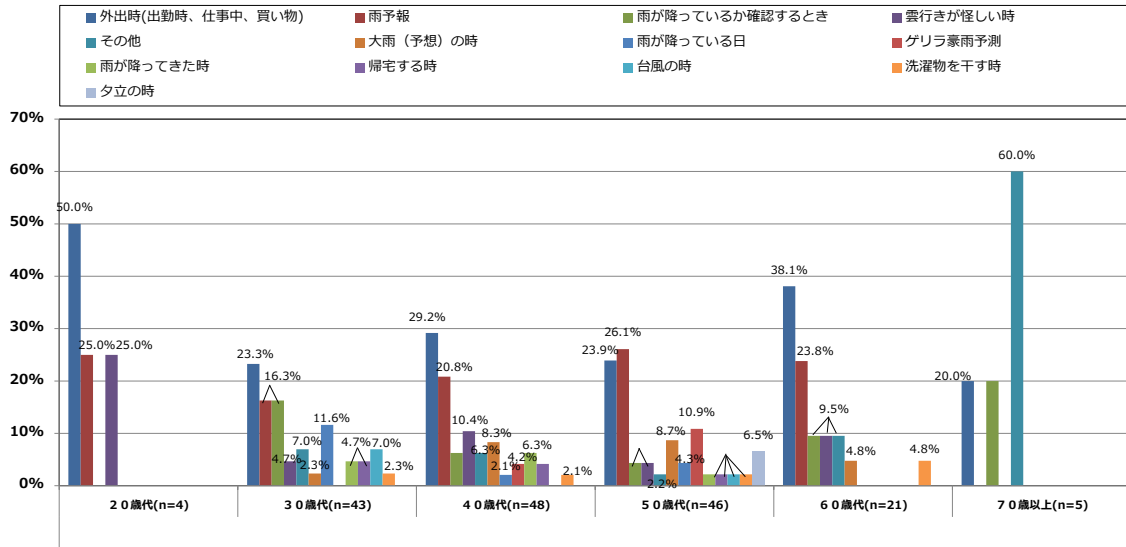


図 4.4.2(3) 「東京アメッシュ」の利用方法（地域別）

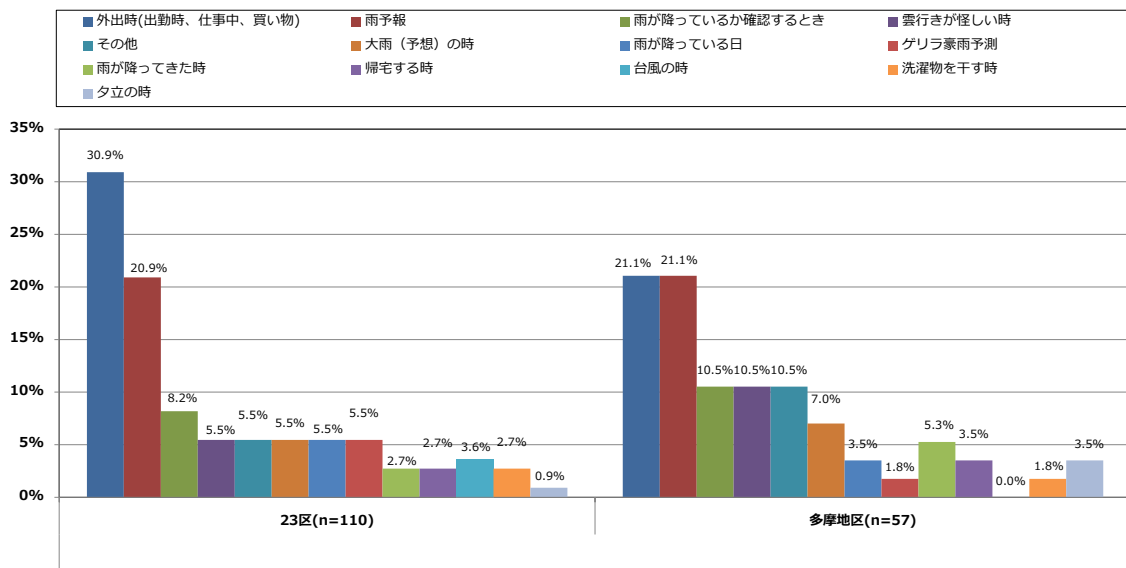
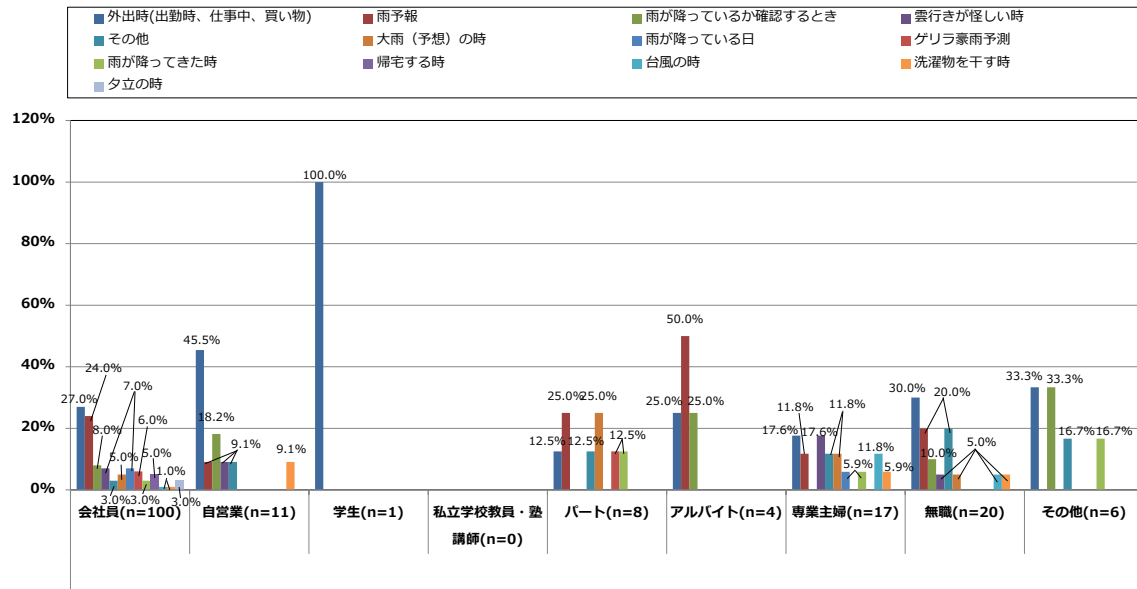


図 4.4.2(4) 「東京アメッシュ」の利用方法（職業別）



4.4.3. 「東京アメッシュ」以外の雨に関する情報の入手方法

Q20-2. Q20 で 3. 4. と答えた方にお伺いします。雨に関する情報を入手する手段として利用されているものはありますか。(自由回答、複数回答可)

- 「テレビ」との回答が最も多く全体の 50.8%、次に「インターネット」34.0%となり、半数以上を占めた。
- 男女別にみると、男性では「テレビ」50.7%、「インターネット」35.2%の順位となり、女性では「テレビ」50.9%、「インターネット」32.9%の順位となった。
- 年代別にみると、「テレビ」が 20 歳代で 50.0%、30 歳代で 45.2%、40 歳代で 53.7%、60 歳代で 59.0%、70 歳代以上で 46.7%となり最も多く、50 歳代では「インターネット」が 47.5%で最も多くなった。
- 地域別にみると、23 区では「テレビ」47.1%、「インターネット」33.5%の順位となり 8 割を占め、多摩地区では「テレビ」54.7%、「インターネット」34.5%の順位となり 8 割強を占めた。
- 職業別にみると、会社員は「インターネット」47.8%、「テレビ」37.8%の順位であったが、他職業では「テレビ」(自営業 47.8%、学生:100%、私立学校教員・塾講師:66.7%、パート:62.1%、アルバイト:75.0%、専業主婦:48.3%、無職:55.9%) が最も多くなった。

図 4.4.3(1) 雨に関する情報の入手方法（全体・性別）

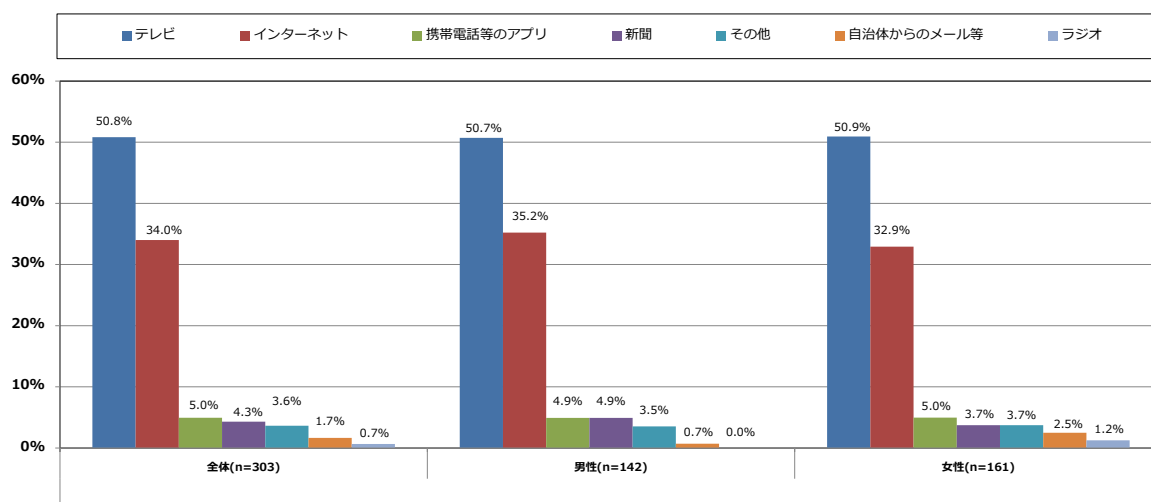


図 4. 4. 3 (2) 雨に関する情報の入手方法（年代別）

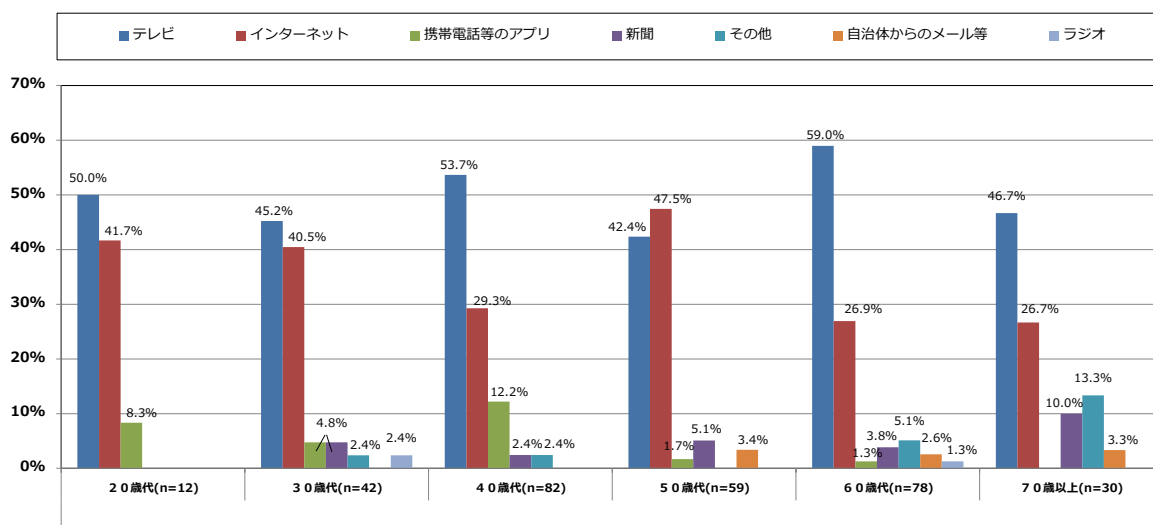


図 4. 4. 3 (3) 雨に関する情報の入手方法（地域別）

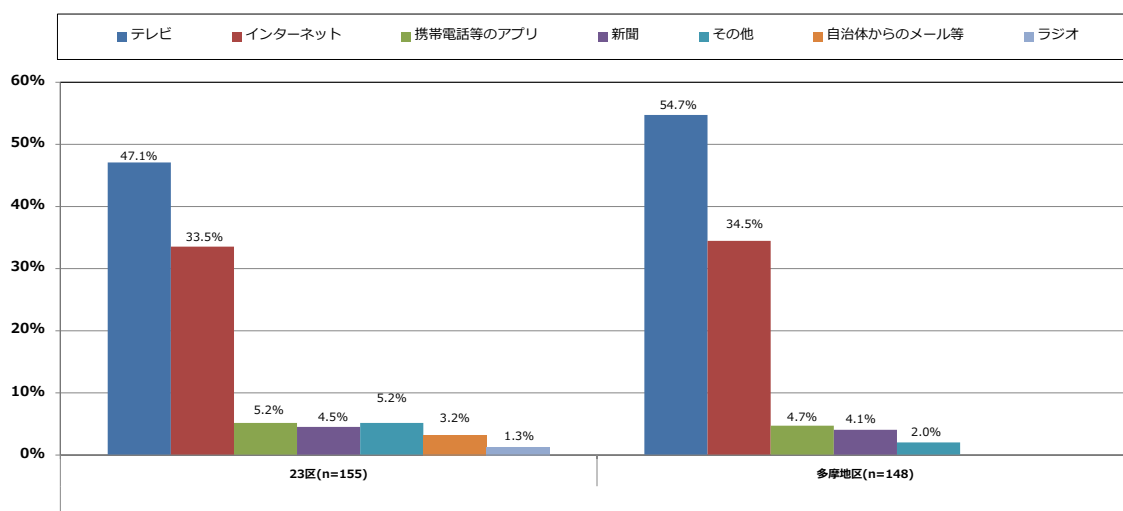
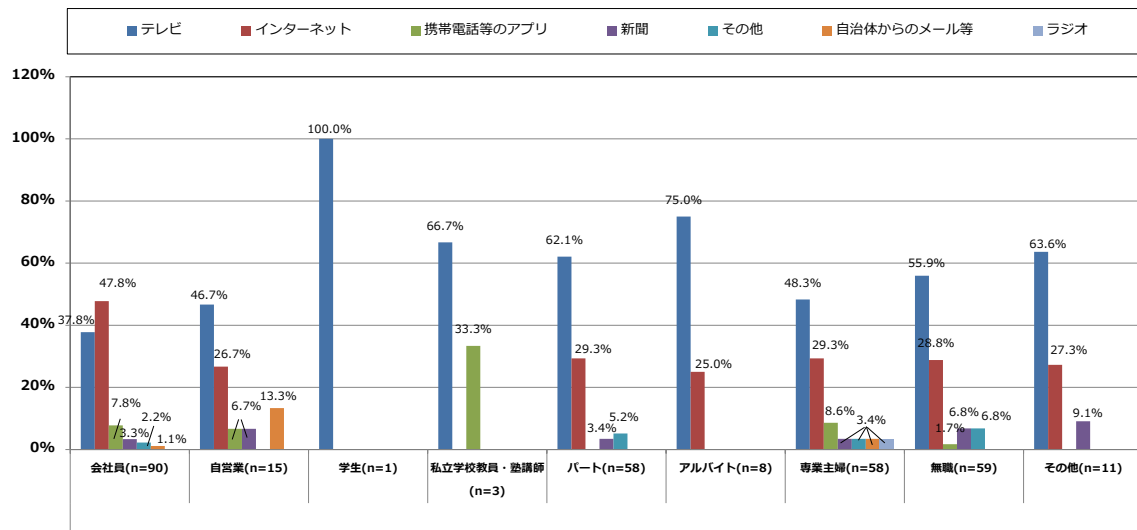


図 4.4.3(4) 雨に関する情報の入手方法（職業別）



4.4.4. 「東京アメッシュ」に関する意見、ご要望

Q20-3. 「東京アメッシュ」に関するご意見、ご要望はありますか。(自由回答、複数回答可)

- 「東京アメッシュを知らない、言葉の意味がわからない」との回答した者が 25.5%と最も多く、次に「機能や精度、操作性の向上」23.2%、「もっと広報活動をしてほしい」19.6%の順位となった。
- 男女別にみると、男性では「機能や精度、操作性の向上」28.0%、「東京アメッシュを知らない、言葉の意味がわからない」21.0%の順位となり、女性では「東京アメッシュを知らない、言葉の意味がわからない」31.6%、「もっと広報活動をしてほしい」21.1%の順位となった。
- 年代別で最も多かった回答は、20 歳代で「もっと広報活動をしてほしい」50.0%、30 歳代で「東京アメッシュを知らない、言葉の意味がわからない」・「機能や精度、操作性の向上」28.6%、40 歳代で「機能や精度、操作性の向上」26.5%、50 歳代で「機能や精度、操作性の向上」32.8%、60 歳代で「東京アメッシュを知らない、言葉の意味がわからない」・「もっと広報活動をしてほしい」28.1%、70 歳代以上で「東京アメッシュを知らない、言葉の意味がわからない」43.5%となった。
- 地域別にみると、23 区では「機能や精度、操作性の向上」25.0%、「東京アメッシュを知らない、言葉の意味がわからない」22.6%の順位となり、多摩地区では「東京アメッシュを知らない、言葉の意味がわからない」30.1%、「もっと広報活動をしてほしい」22.3%の順位となった。
- 職業別で最も多かった回答は、「東京アメッシュを知らない、言葉の意味がわからない」(自営業:25.0%、パート 36.4%、専業主婦 43.2%、無職 30.0%)、「もっと広報活動をしてほしい」(学生:66.7%、私立学校教員・塾講師:100%、その他 30.8%)、「機能や精度、操作性の向上」(会社員:36.1%、自営業:25.0%)、「便利で役立つ」(アルバイト:66.7%)であった。

図 4.4.4(1) 意見・要望（全体・性別）

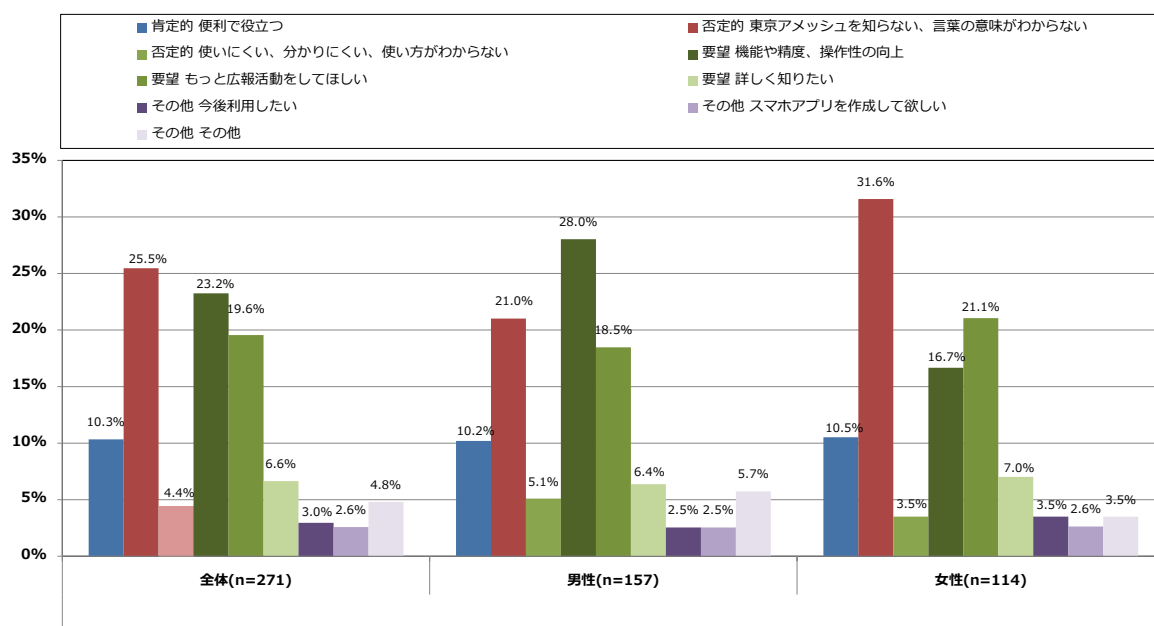


図 4.4.4(2) 意見・要望（年代別）

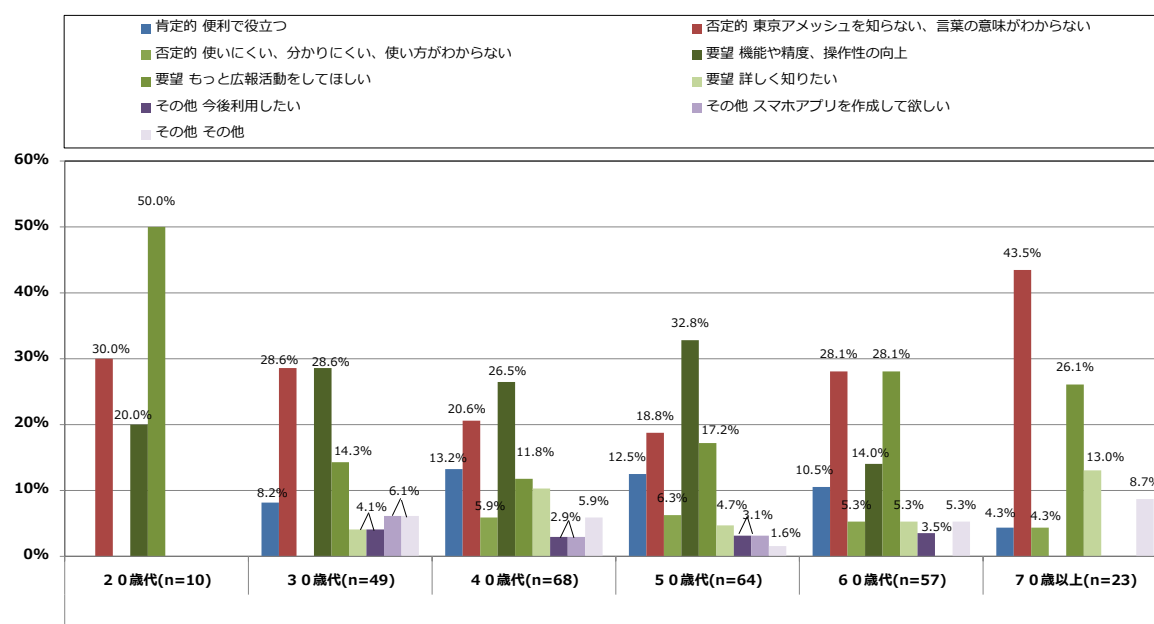


図 4. 4. 4 (3) 意見・要望（地域別）

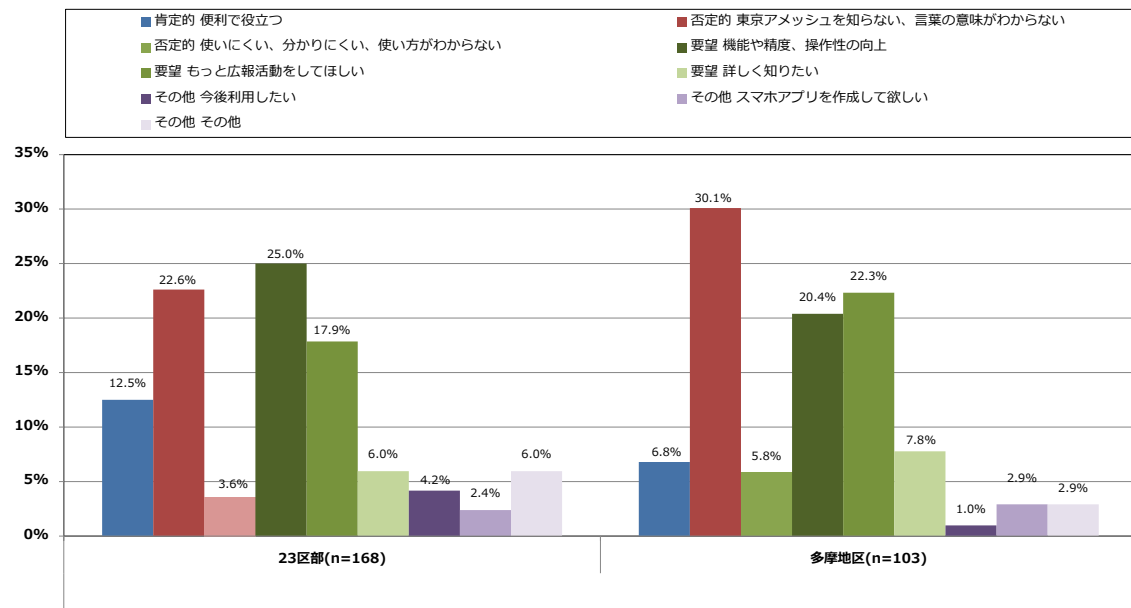
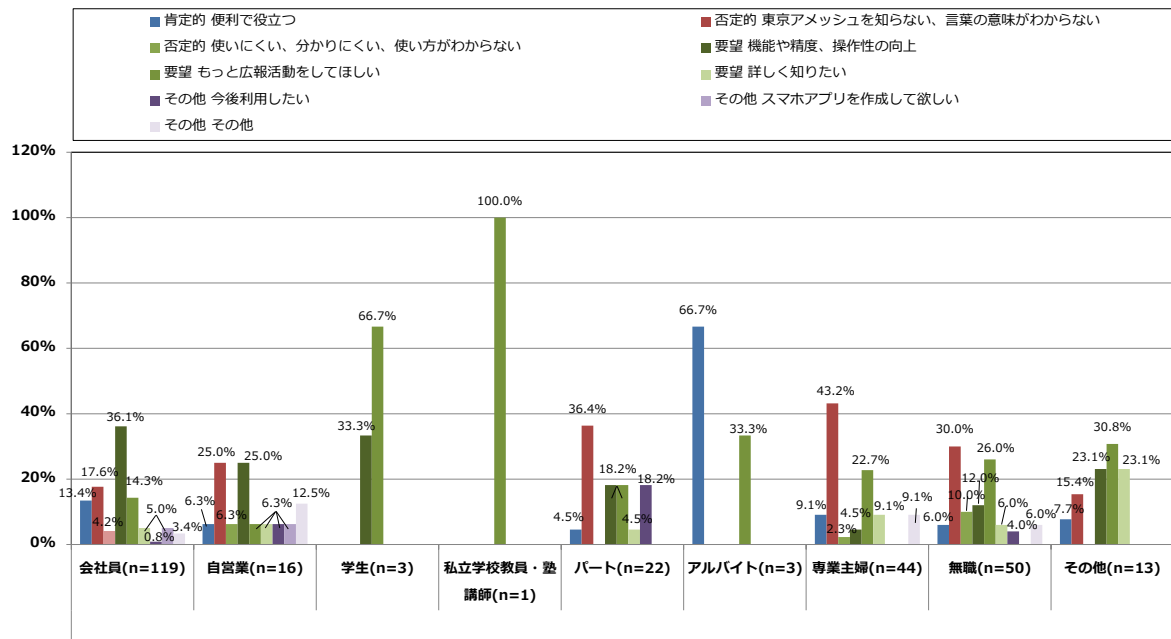


図 4. 4. 4 (4) 意見・要望（職業別）



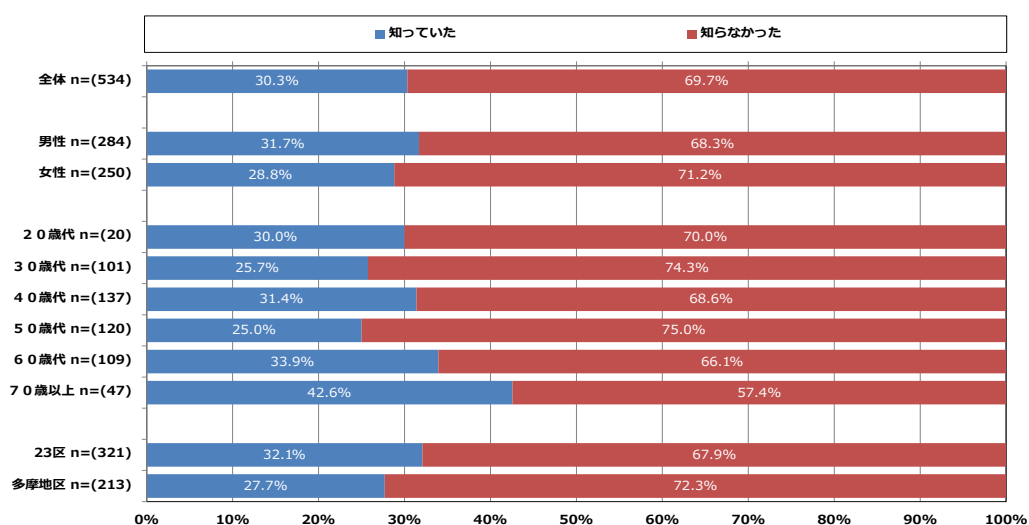
4.5. 油・断・快適！下水道キャンペーン」の認知度

4.5.1. 「油・断・快適！下水道キャンペーン」の認知度

Q21.東京都下水道局では、毎年秋に、下水道に油を流さないよう都民の皆さまにお願いをする取組『油・断・快適！下水道キャンペーン』を行っています。あなたは、このキャンペーンをご存じでしたか。以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください（単一回答）。

- 「知っていた」との回答した者は全体の 30.3%で半数以下であった。
- 男女別にみると、「知っていた」との回答は男性が 31.7%、女性が 28.8%となり、男性の方が女性より 2.9 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「知っていた」との回答は 70 歳以上が 42.6%で最も多く、最も少ないのは 50 歳代で 25.0%であった。
- 地域別にみると、「知っていた」との回答が 23 区で 32.1%、多摩地区で 27.7%となり、23 区が 4.4 ポイント高くなった。

図 4.5.1 「油・断・快適！下水道キャンペーン」の認知度



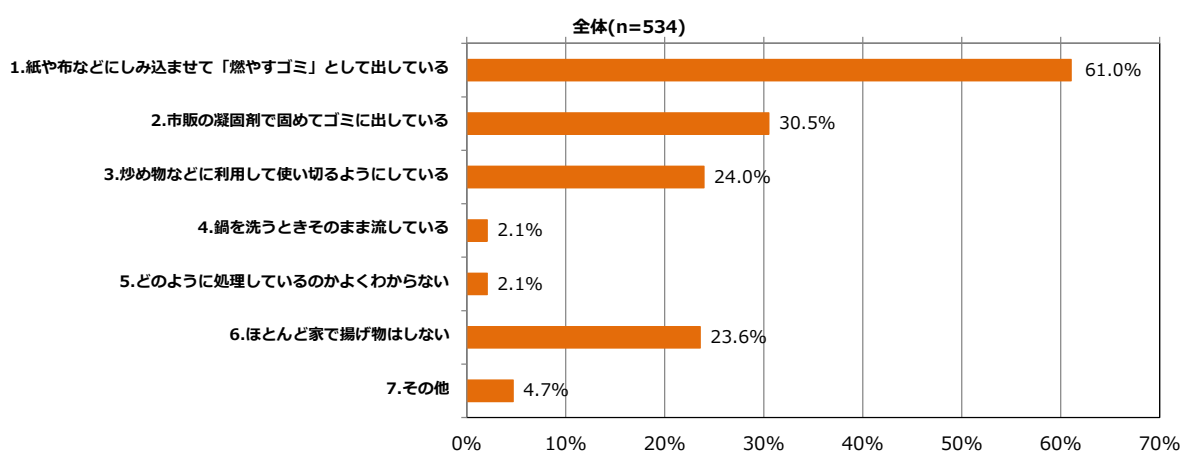
4.5.2. 揚げ物料理後の油の処理方法

Q22.あなたのお宅では、揚げ物料理をした後の油（天ぷら油など）を、どのような方法で処理することが多いですか。（複数回答）

（１）全体

「１．紙や布などにしみ込ませて「燃やすゴミ」として出している」との回答が 61.0% で最も多く、半数以上であった。最も少ないのは「４．鍋を洗うときそのまま流している」と「５．どのように処理しているのかよくわからない」で 2.1% であった。

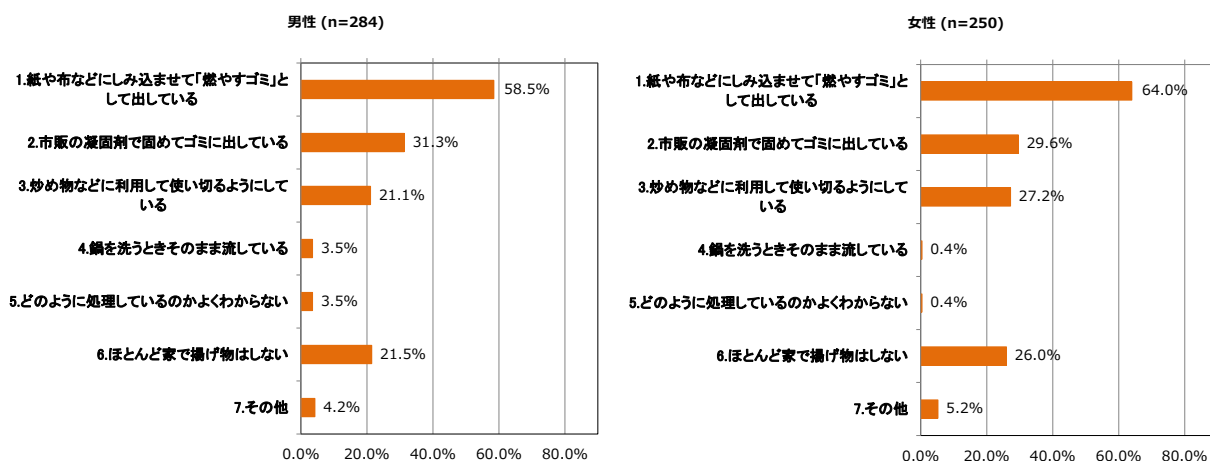
図 4. 5. 2(1) 揚げ物料理後の油の処理方法（全体）



（２）性別

男女ともに「１．紙や布などにしみ込ませて「燃やすゴミ」として出している」との回答が最も多く男性が 58.5%、女性で 64.0% となり、女性の方が男性より 5.5 ポイント高くなった。

図 4. 5. 2(2) 揚げ物料理後の油の処理方法（性別）

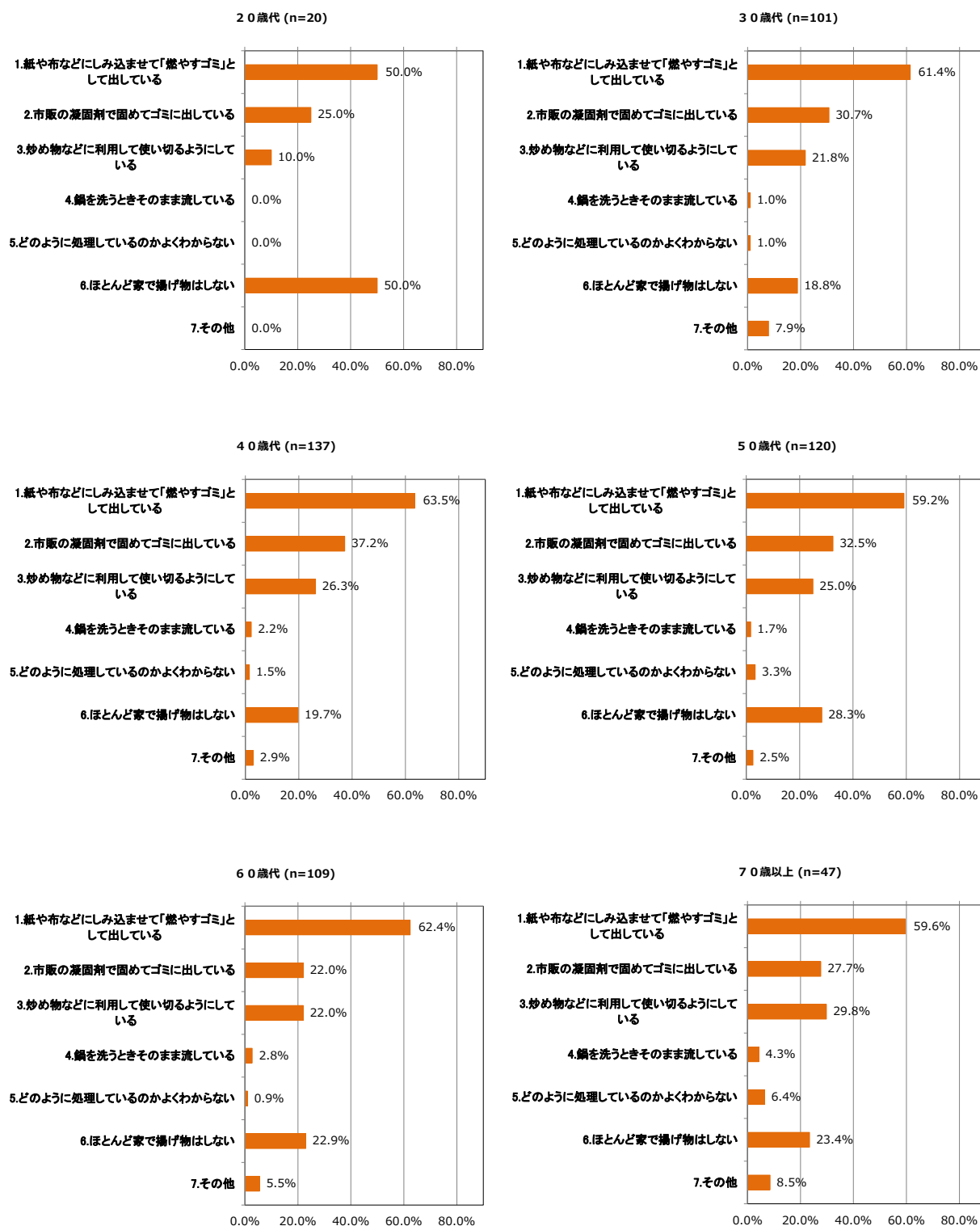


(3) 年代別

全ての年代において「1. 紙や布などにしみ込ませて「燃やすゴミ」として出している」との回答が最も多く、40 歳代 63.5%、60 歳代 62.4%、30 歳代 61.4%、70 歳代以上 59.6%、50 歳代 59.2%、20 歳代 50.0%の順になった。

また、20 歳代においては「6.ほとんど家で揚げ物はしない」が半数を占めた。

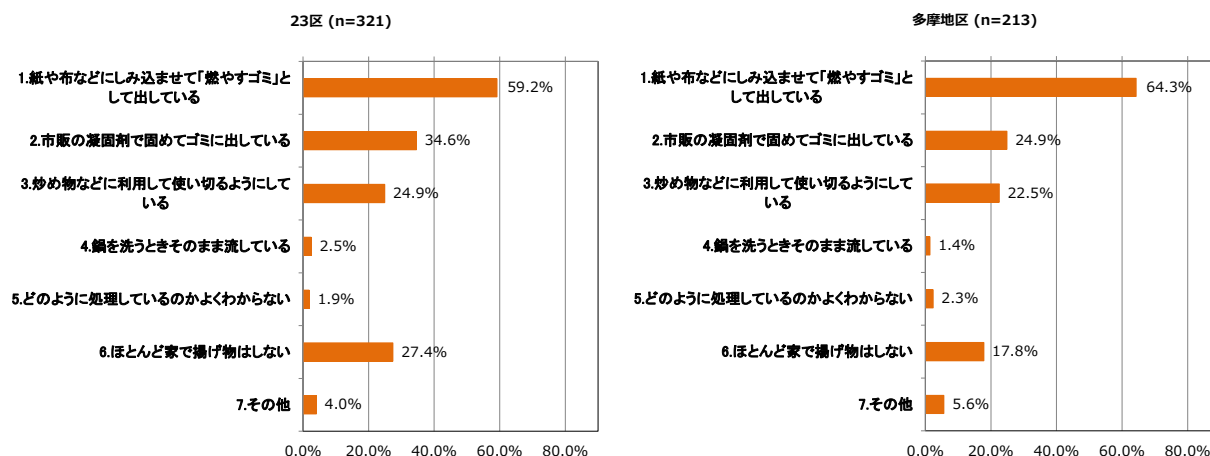
図 4.5.2(3) 揚げ物料理後の油の処理方法（年代別）



(4) 地域別

23区では「2. 市販の凝固剤で固めてゴミに出している」、「3. 炒め物などに利用して使い切るようにしている」、「4. 鍋を洗うときそのまま流している」、「6. ほとんど家で揚げ物はしない」の項目において、多摩地区より回答が多くなった。

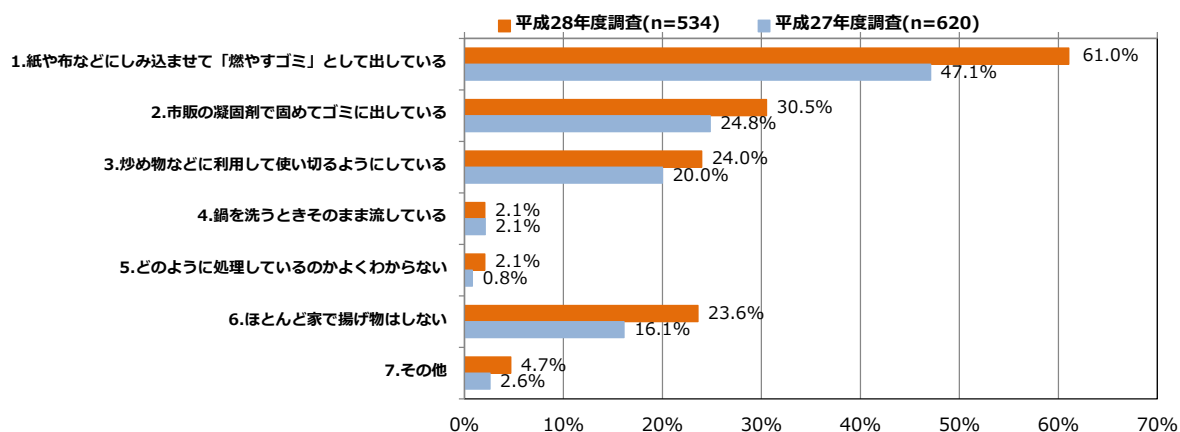
図 4. 5. 2(4) 揚げ物料理後の油の処理方法（地域別）



(5) 経年

「4.鍋を洗うときそのまま流している」を除いては、平成27年度調査より平成28年度調査の回答が多くなった。

図 4. 5. 2(5) 揚げ物料理後の油の処理方法（経年）



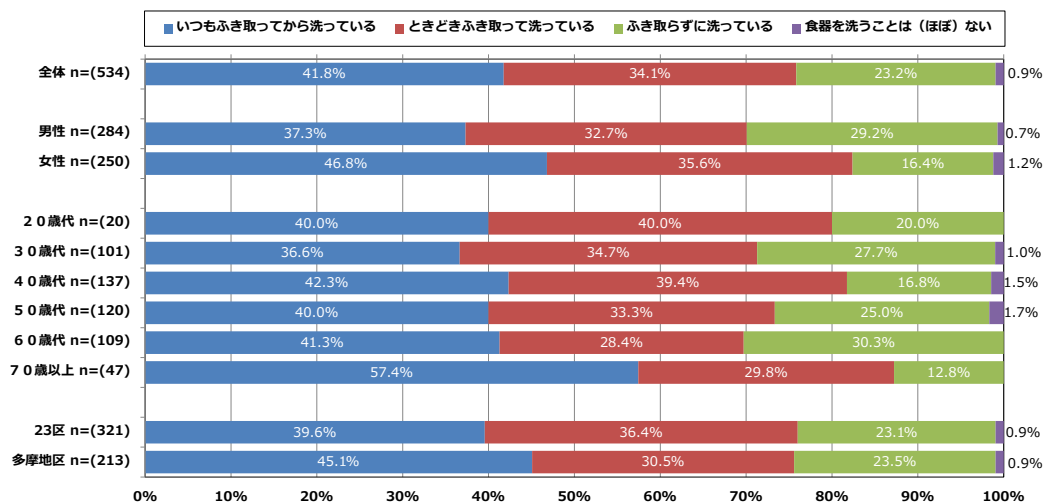
4.5.3. 油で汚れた食器の洗い方

Q23.あなたのお宅では、油で汚れたお皿やお鍋などを洗うとき、古新聞などでふき取ってから洗っていますか。以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選び下さい（単一回答）。

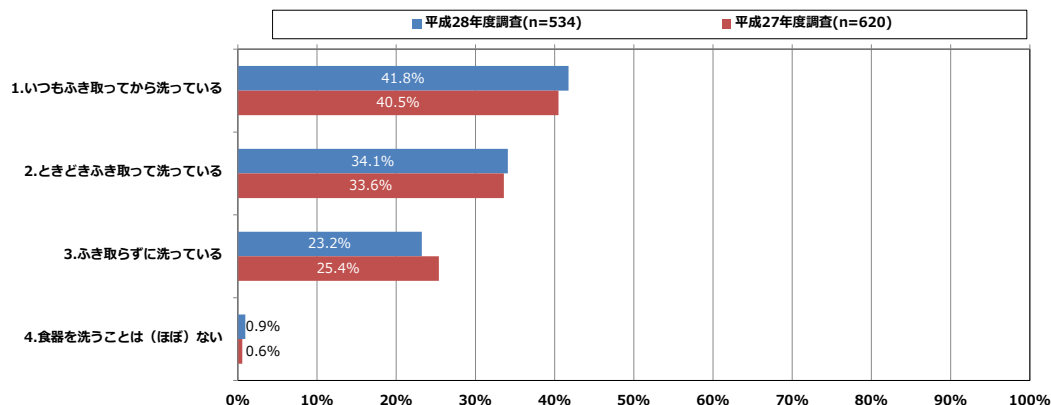
- 「いつもふき取ってから洗っている」と回答した者は全体の 41.8%で半数以下であった。
- 男女別にみると、「いつもふき取ってから洗っている」との回答は男性が 37.3%、女性が 46.8%となり、女性の方が男性より 9.5 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「いつもふき取ってから洗っている」との回答は 70 歳以上が 57.4%と半数以上で最も多く、最も少ないのは 30 歳代で 36.6%であった。
- 地域別にみると、「いつもふき取ってから洗っている」との回答が 23 区で 39.6%、多摩地区で 45.1%となり、多摩区が 5.5 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「いつもふき取ってから洗っている」との回答は平成 28 年度調査が 41.8%と最も多く、平成 27 年度調査と比較すると 1.3 ポイント高くなった。

図 4.5.3 油で汚れた食器の洗い方

【平成 28 年度】



【経年】



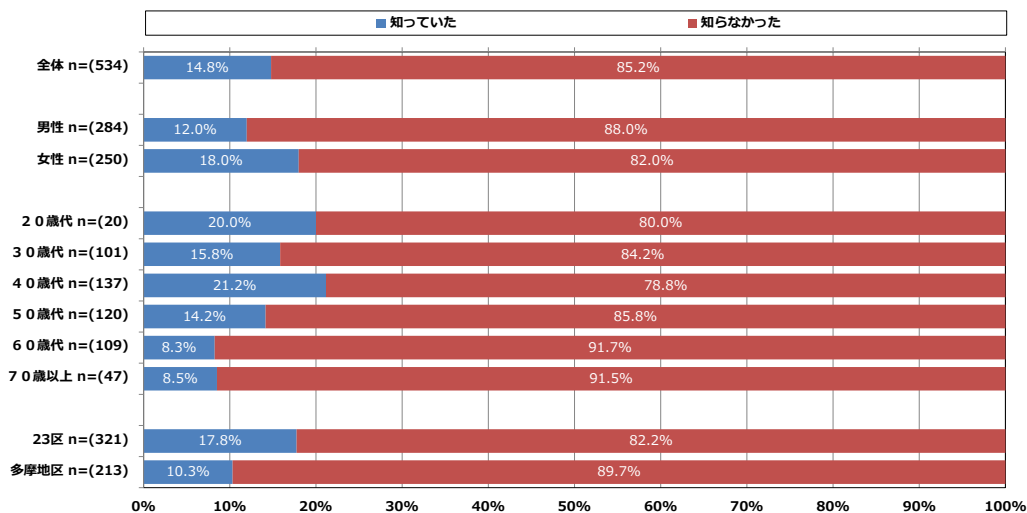
4.5.4. 「ダイエットレシピ」によるPRの認知度

Q24.あなたは、『油・断・快適！下水道キャンペーン』のPRの一環として、「ダイエットレシピ」によるPRを行っていることをご存じでしたか。以下の選択肢の中から、該当するものを一つだけお選びください（単一回答）。

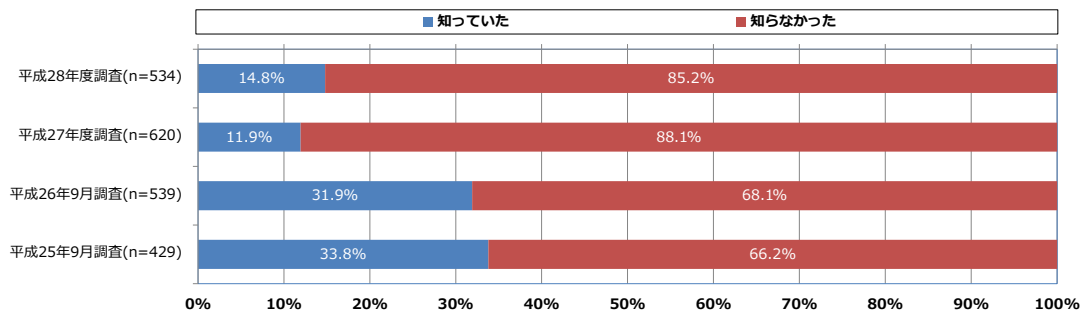
- 「知っていた」と回答した者は全体の14.8%で半数以下であった。
- 男女別にみると、「知っていた」との回答は男性が12.0%、女性が18.0%となり、女性の方が男性より6.0ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「知っていた」との回答は40歳代が21.2%、次に20歳代が20.0%、で2割以上を超え、最も少ないのは60歳代で8.3%であった。
- 地域別にみると、「知っていた」との回答が23区で17.8%、多摩地区で10.3%となり、23区が7.5ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「知っていた」との回答は平成27年度調査と比較すると2.9ポイント高くなったが、最も多く回答した平成25年度調査と比較すると19ポイント低くなった。

図 4.5.4 「ダイエットレシピ」によるPRの認知度

【平成28年度】



【経年】



4.6. 下水道事業の評価基準

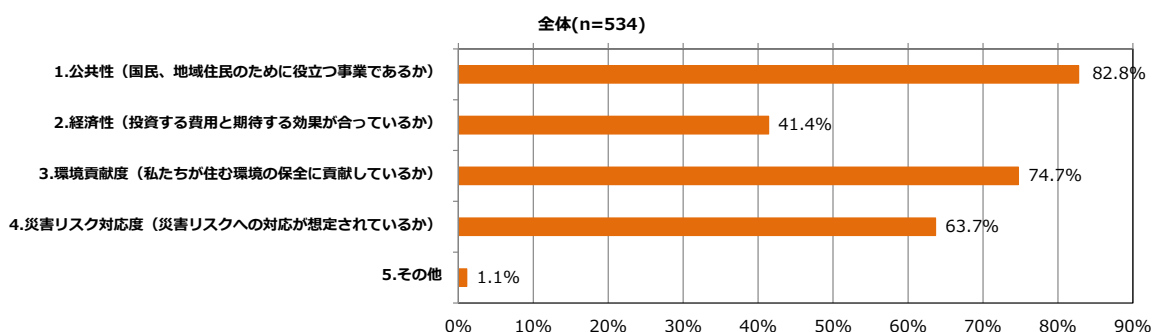
4.6.1. 下水道事業を評価する基準

Q25.あなたが下水道事業を評価する基準で重視しているのは、どのようなことですか？（複数回答）。

（１）全体

「１．公共性（国民、地域住民のために役立つ事業であるか）」との回答が最も多く 82.8%であった。以降、「３．環境貢献度（私たちが住む環境の保全に貢献しているか）」74.7%、「４．災害リスク対応度（災害リスクへの対応が想定されているか）」63.7%と続き、「２．経済性（投資する費用と期待する効果が合っているか）」は 41.4%と最も少なくなった。

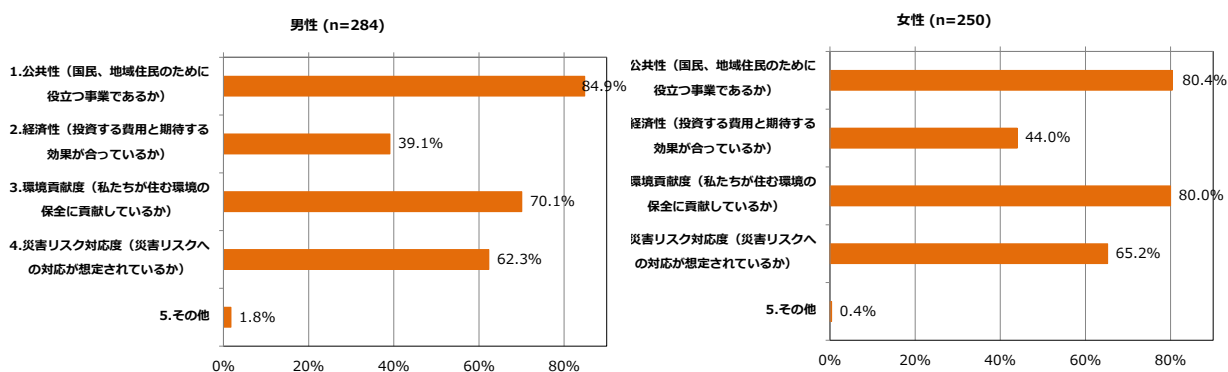
図 4.6.1(1) 下水道事業を評価する基準（全体）



（２）性別

男女ともに「１．公共性（国民、地域住民のために役立つ事業であるか）」との回答が最も多く、男性が 84.9%、女性が 80.4%となり、男性の方が女性より 4.5 ポイント高くなった。

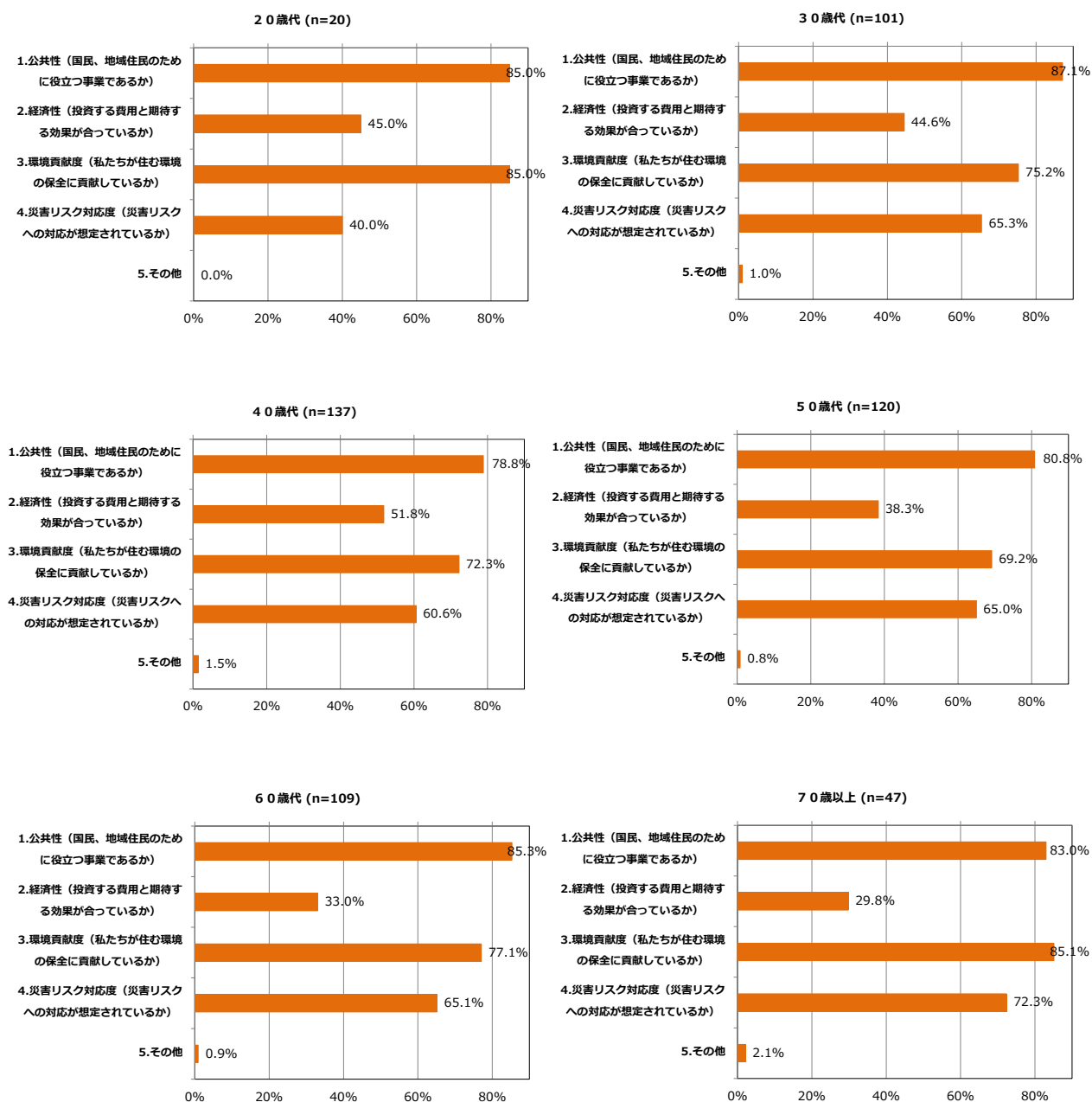
図 4.6.1(2) 下水道事業を評価する基準（性別）



(3) 年代別

全ての年代において「1. 公共性（国民、地域住民のために役立つ事業であるか）」との回答が最も多く、30 歳代 87.1%、60 歳代 85.3%、20 歳代 85.0%、70 歳代以上 83.0%、50 歳代 80.8%、40 歳代 78.8%の順になった。

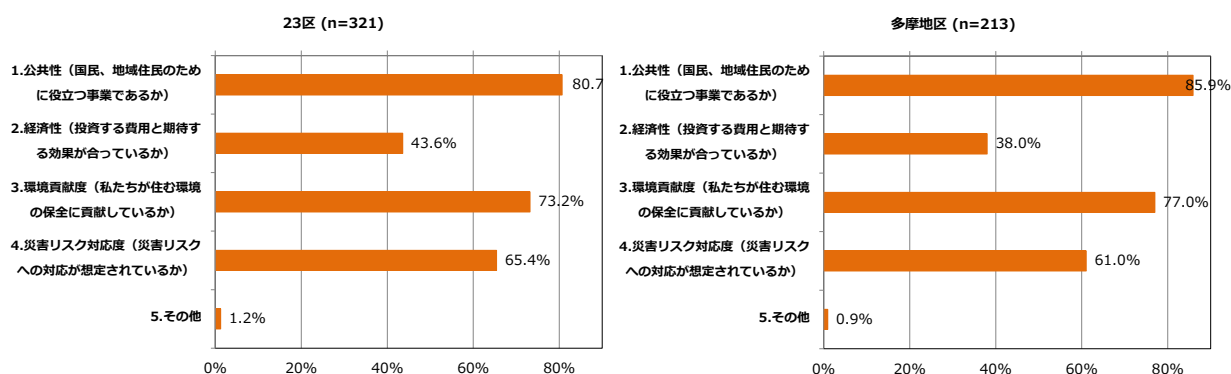
図 4.6.1(3) 下水道事業を評価する基準（年代別）



(4) 地域別

23区では「2. 経済性（投資する費用と期待する効果が合っているか）」、「4. 災害リスク対応度（災害リスクへの対応が想定されているか）」の項目において、多摩地区より回答が多くなった。

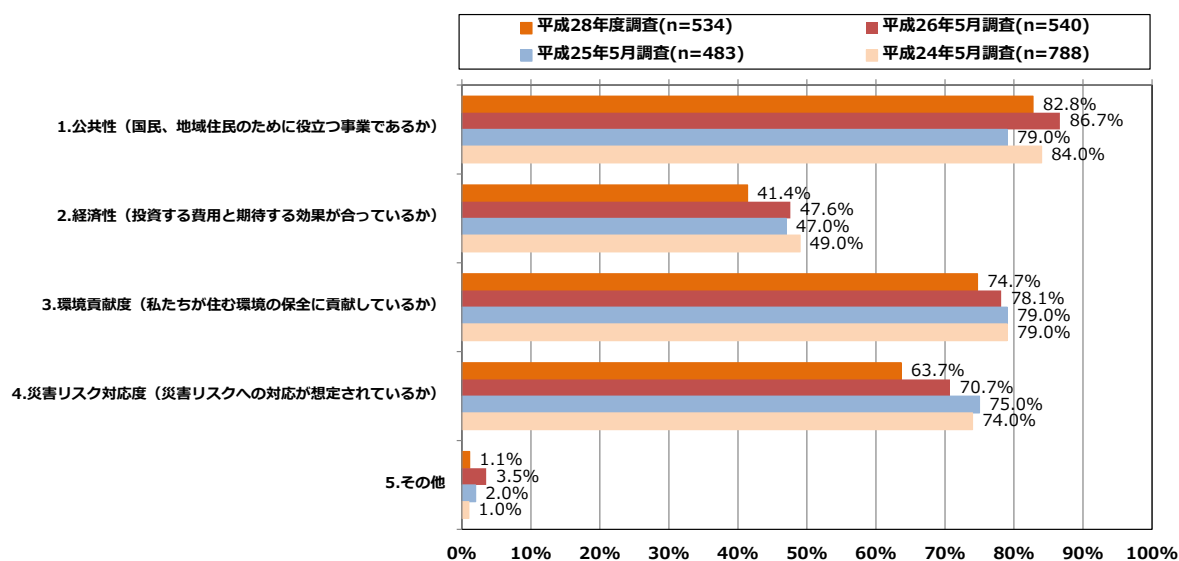
図 4. 6. 1 (4) 下水道事業を評価する基準（地域別）



(5) 経年

「1. 公共性（国民、地域住民のために役立つ事業であるか）」3.9 ポイント、「2. 経済性（投資する費用と期待する効果が合っているか）」6.2 ポイント、「3. 環境貢献度（私たちが住む環境の保全に貢献しているか）」3.4 ポイント、「4. 災害リスク対応度（災害リスクへの対応が想定されているか）」7 ポイントと平成26年度調査より回答が低くなった。

図 4. 6. 1 (5) 下水道事業を評価する基準（経年）



4.7. 下水道に関するニーズ

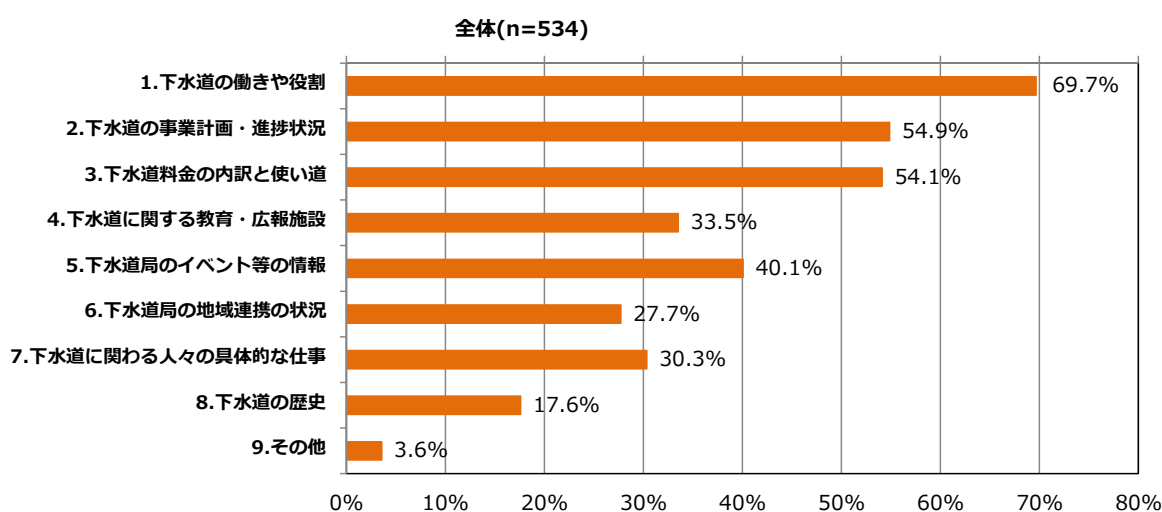
4.7.1. 下水道に関して知りたいと思うこと

Q26.下水道事業について、あなたが知りたいと思うことはどのようなことですか？（複数回答）。

（１）全体

「１．下水道の働きや役割」との回答が最も多く 69.7%であった。以降、「２．下水道の事業計画・進捗状況」54.9%、「３．下水道料金の内訳と使い道」54.1%と続き、「８．下水道の歴史」が 17.6%と最も少なくなった。

図 4.7.1(1) 下水道事業を評価する基準（全体）

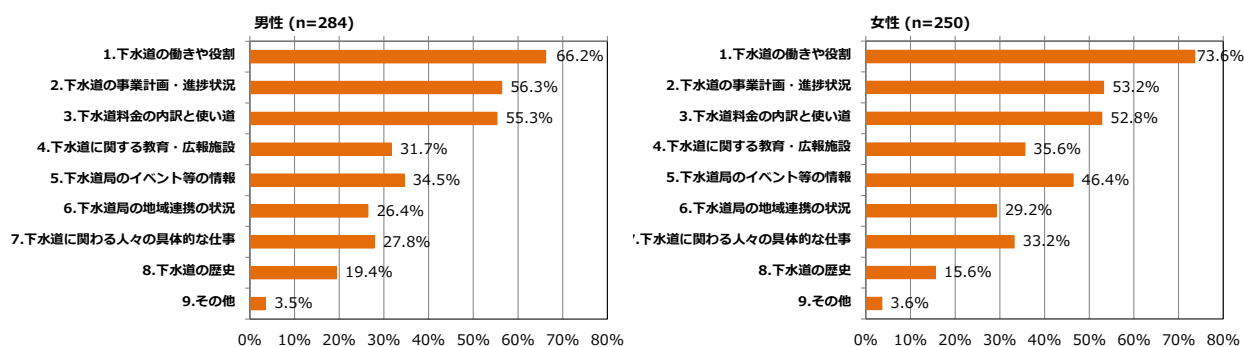


（２）性別

男女ともに「１．下水道の働きや役割」との回答が最も多く、男性 66.2%、女性 73.6% となり、女性の方が男性より 7.4 ポイント高くなった。

「４．下水道に関する教育・広報施設」、「５．下水道局のイベント等の情報」、「６．下水道局の地域連携の状況」、「７．下水道に関わる人々の具体的な仕事」においても女性の方が多く回答していた。

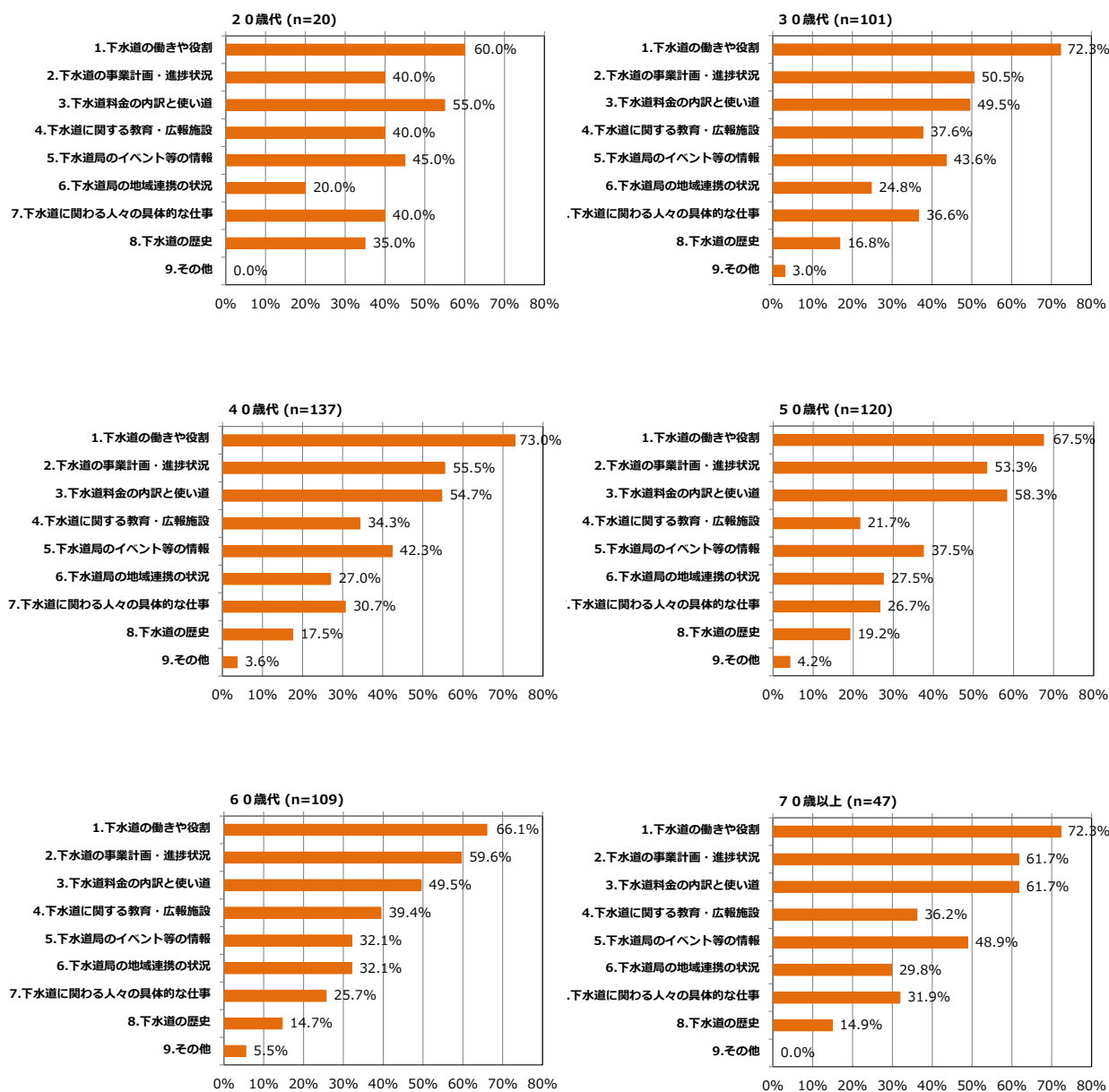
図 4.7.1(2) 下水道事業を評価する基準（性別）



(3) 年代別

全ての年代において「1. 下水道の働きや役割」との回答が最も多く、30 歳代 72.3%、70 歳代以上 72.3%、40 歳代 73.0%、50 歳代 67.5%、60 歳代 66.1%、20 歳代 60.6%の順になった。

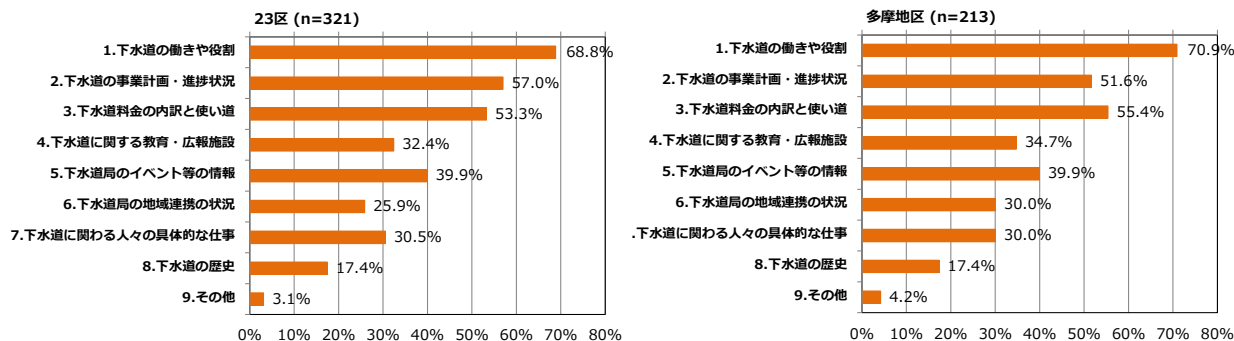
図 4.7.1(3) 下水道事業を評価する基準（年代別）



(4) 地域別

23区では「2. 下水道の事業計画・進捗状況」、「7. 下水道に関わる人々の具体的な仕事」の項目において、多摩地区より回答が多くなった。

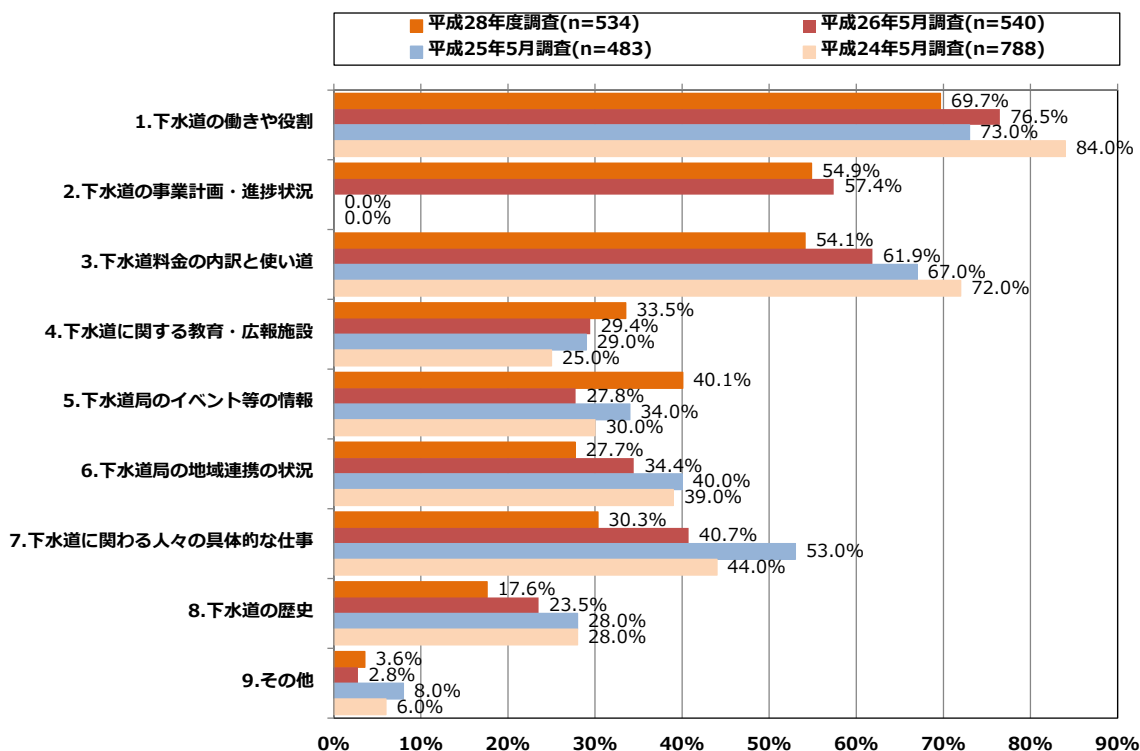
図 4.7.1(4) 下水道事業を評価する基準（地域別）



(5) 経年

「4. 下水道に関する教育・広報施設」が4.1ポイント、「5. 下水道局のイベント等の情報」が12.3ポイント、平成26年度調査より回答が高くなり、他の項目は低くなった。

図 4.7.1(5) 下水道事業を評価する基準（経年）



4.8. 下水道事業の認知経路

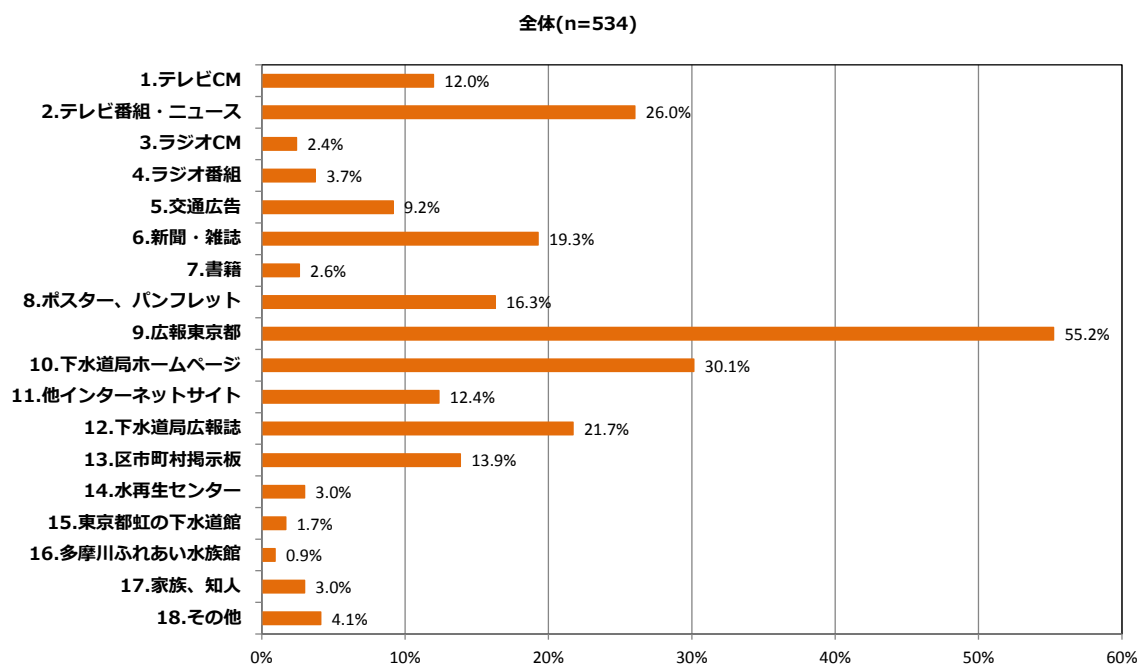
4.8.1. 下水道事業の認知経路

Q27.あなたは東京都下水道局や下水道事業の内容について、どのようなところから知ることが多いですか？（複数回答）。

（１）全体

「９．広報東京都」の回答が 55.2%と最も多く、次に「１０．下水道局ホームページ」30.1%、「２．テレビ番組・ニュース」26.0%と続く。また、最も少ないのは「１６．多摩川ふれあい水族館」で 0.9%であった。

図 4.8.1(1) 下水道事業の認知経路（全体）

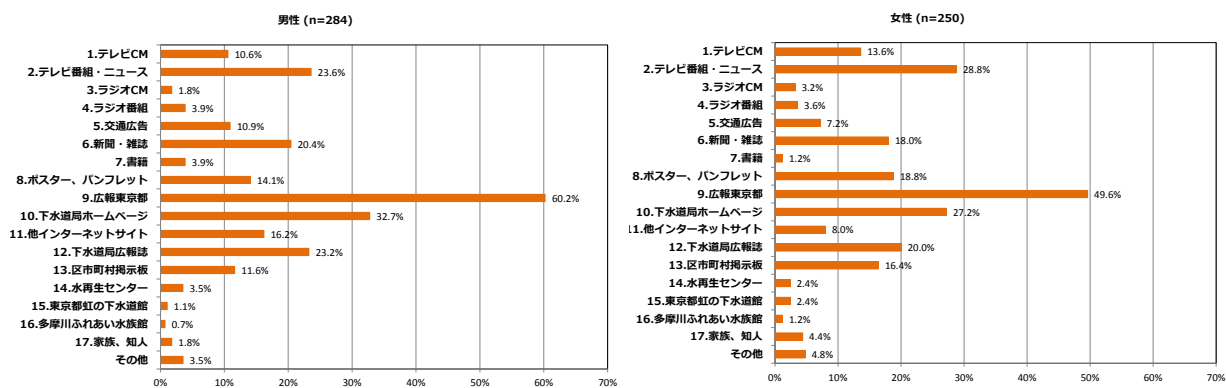


(2) 性別

男女ともに「9. 広報東京都」の回答が最も多く、男性 60.2%、女性 49.6%となり、男性の方が女性より 10.6 ポイント高くなった。

また、回答が最も少ないのは男女ともに「16. 多摩川ふれあい水族館」で女性の方が男性より 0.5 ポイント高くなった。

図 4.8.1(2) 下水道事業の認知経路（性別）

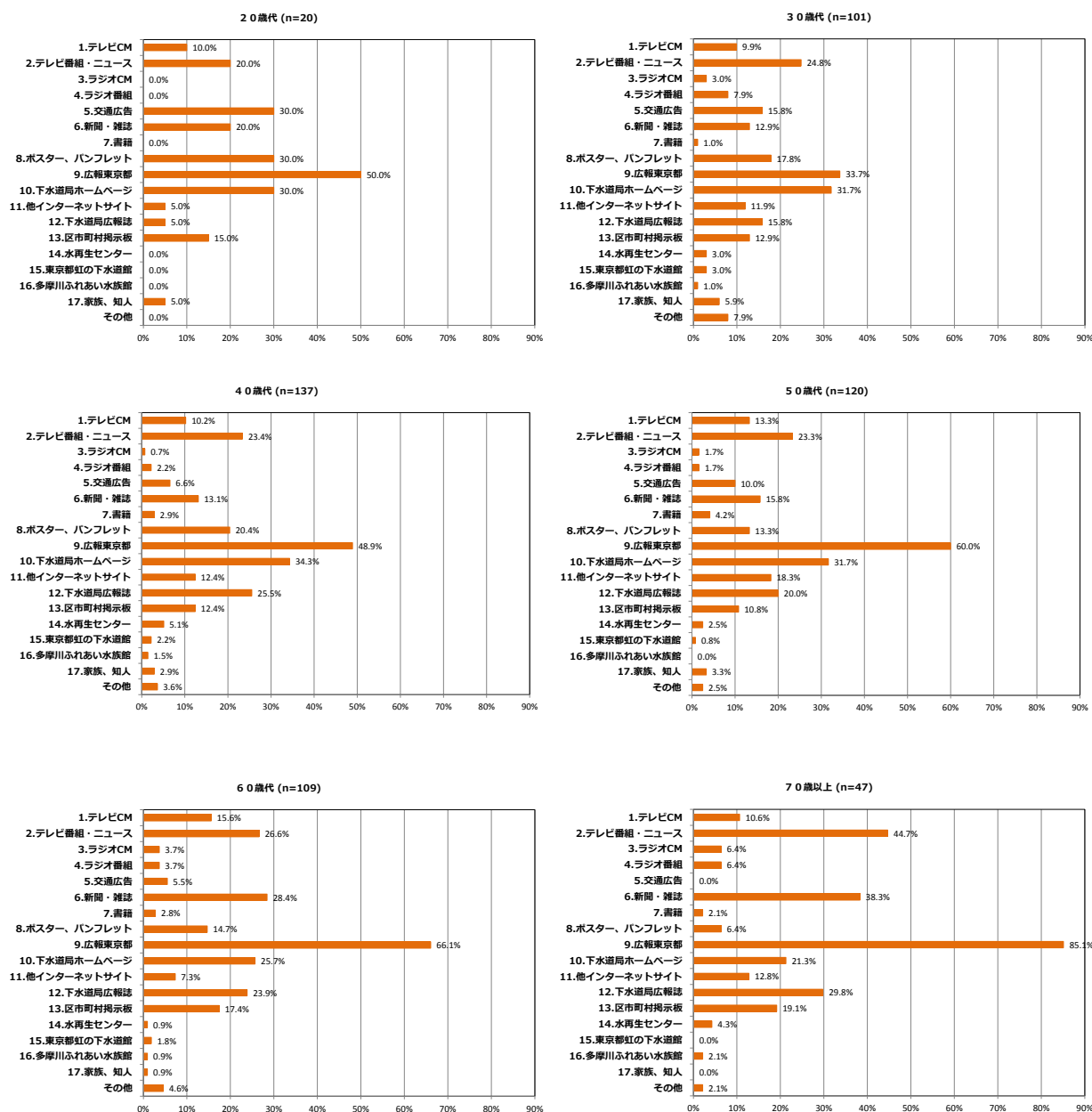


(3) 年代別

全ての年代において「9. 広報東京都」の回答が最も多く、70 歳代以上 85.1%、60 歳代 66.1%、50 歳代 60.0%、20 歳代 50.0%、40 歳代 48.9%、30 歳代 33.7%の順になった。

次に回答が多かったのは、20 歳代、30 歳代、40 歳代、50 歳代が「10. 下水道局ホームページ」、60 歳代、70 歳代以上は「2. テレビ番組・ニュース」であった。

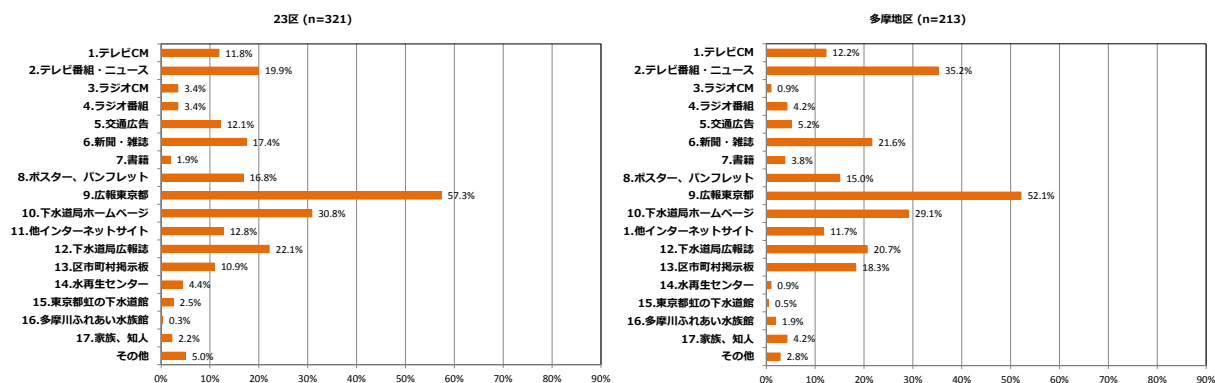
図 4.8.1(3) 下水道事業の認知経路（年代別）



(4) 地域別

23区では「9. 広報東京都」57.3%、「10. 下水道局ホームページ」30.8%、「12. 下水道局広報誌」22.1%の順位で、多摩地区では「9. 広報東京都」52.1%、「2. テレビ番組・ニュース」35.2%、「10. 下水道局ホームページ」29.1%の順位であった。

図 4.8.1(4) 下水道事業の認知経路（地域別）



4.9. 下水道事業に関する情報の探求意思、共有欲求

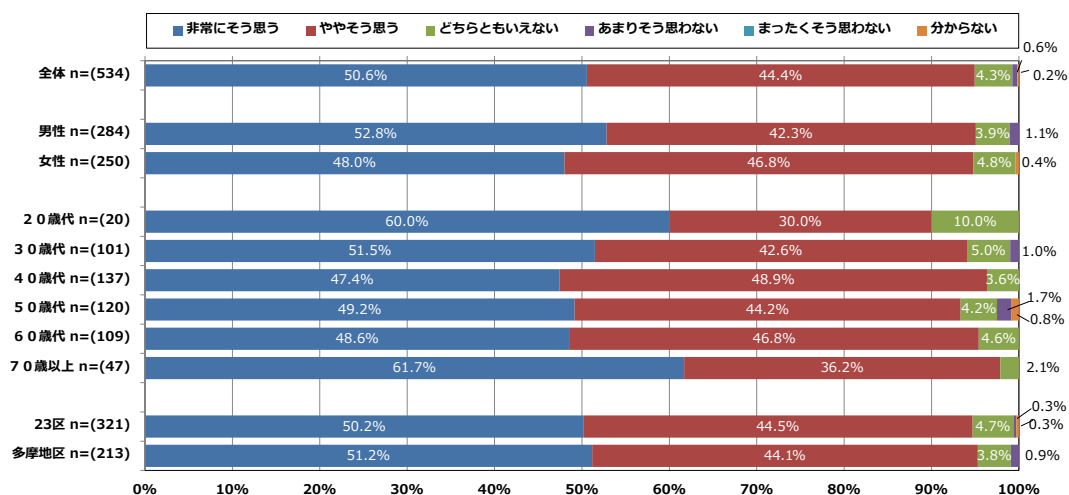
4.9.1. 下水道事業に関する情報の探求意思

Q28.あなたは、下水道局や下水道事業について、さらに詳しく知りたいと思いましたか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

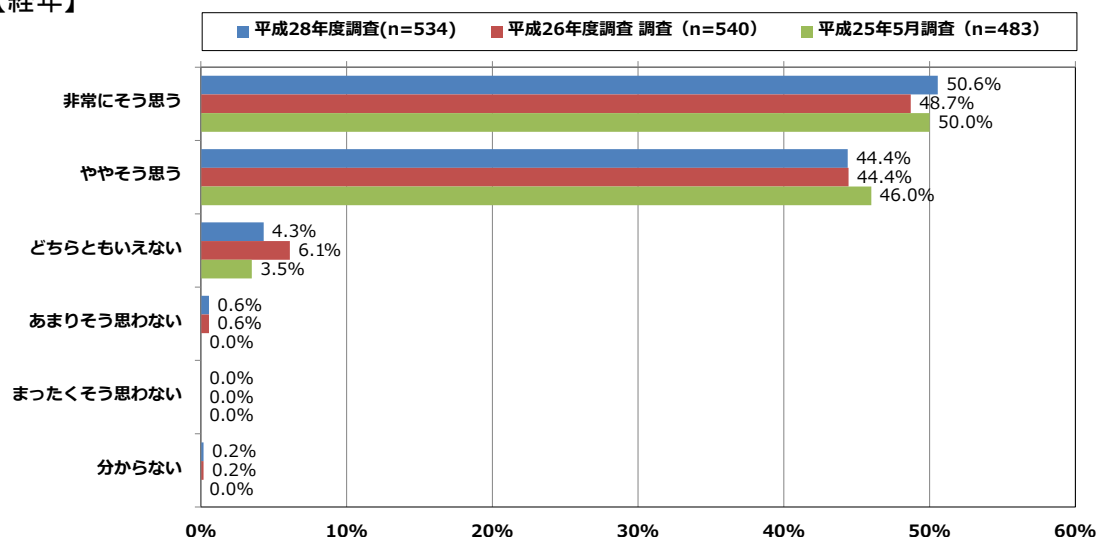
- 「非常にそう思う」と回答した者は全体の 50.6%となり半数を占めた。
- 男女別にみると、「非常にそう思う」との回答は男性が 52.8%、女性が 48.0%となり、男性の方が女性より 4.8 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「非常にそう思う」との回答は 70 歳以上が 61.7%、次に 20 歳代が 60.0%、で 6 割以上を超え、最も少ないのは 40 歳代で 47.4%であった。
- 地域別にみると、「非常にそう思う」との回答が 23 区で 50.2%、多摩地区で 51.2%となり、多摩地区が 1 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「非常にそう思う」との回答が平成 26 年度調査と比較して 1.9 ポイント高くなった。

図 4.9.1 下水道事業に関する情報の探求意思

【平成 28 年度】



【経年】



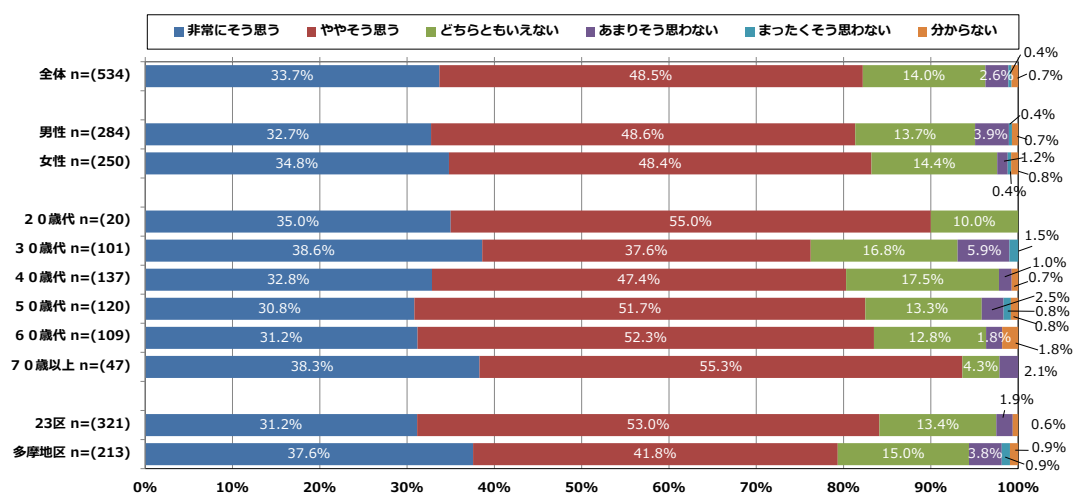
4.9.2. 下水道事業に関する情報の共有欲求

Q29.あなたは、下水道局や下水道事業に関して知っていることを、周囲の人に知らせたいと思いますか？以下の中から該当する選択肢を一つだけお答え下さい（単一回答）。

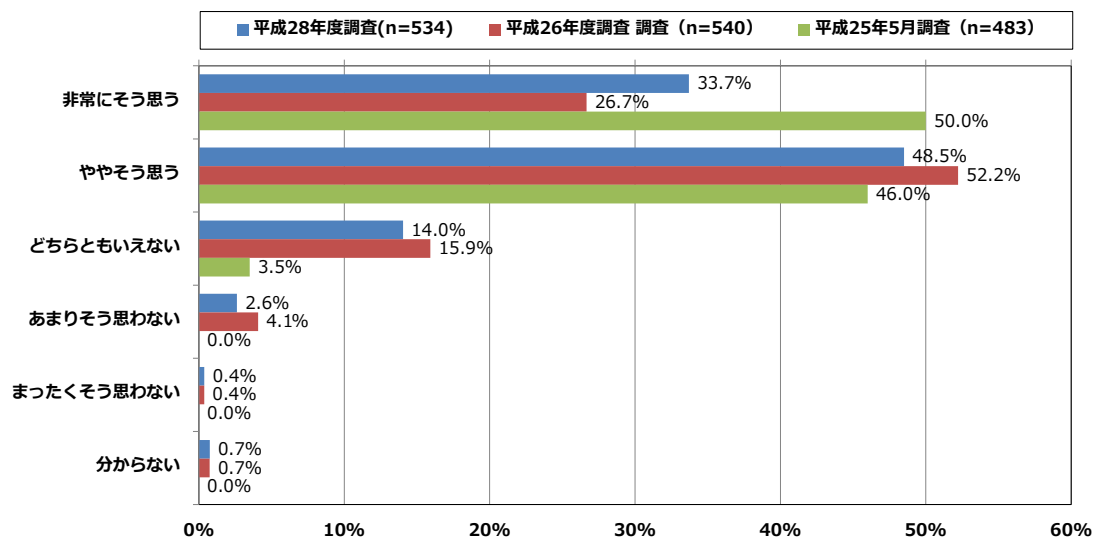
- 「非常にそう思う」と回答した者は全体の 33.7%となり半数以下であった。
- 男女別にみると、「非常にそう思う」との回答は男性が 32.7%、女性が 34.8%となり、女性の方が男性より 2.1 ポイント高くなった。
- 年代別にみると、「非常にそう思う」との回答は 30 歳代が 38.6%で最も多く、最も少ないのは 60 歳代で 31.2%であった。
- 地域別にみると、「非常にそう思う」との回答が 23 区で 31.2%、多摩地区で 37.6%となり、多摩地区が 6.4 ポイント高くなった。
- 経年変化をみると、「非常にそう思う」との回答が平成 26 年度調査と比較して 7.0 ポイント高くなった。

図 4.9.2 下水道事業に関する情報の共有欲求

【平成 28 年度】



【経年】

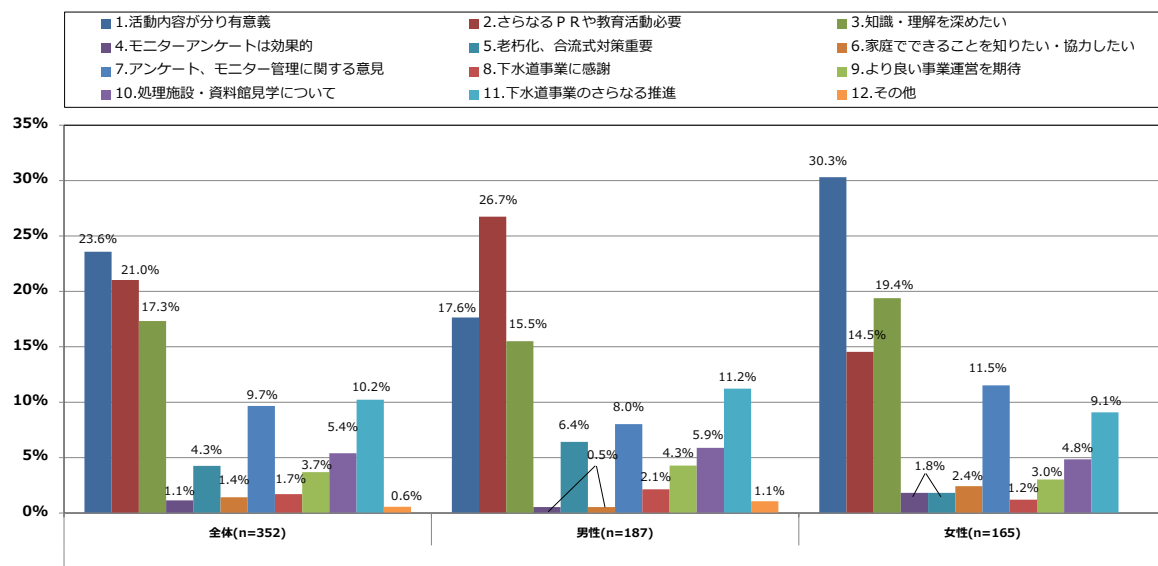


4.10. 東京都下水道局へのご意見・ご要望

Q30. 今回のアンケート内容（本アンケートにより、イメージが変わられた方はその理由など）、および東京都下水道局へのご意見・ご要望等がございましたら、お聞かせ下さい（自由回答）。

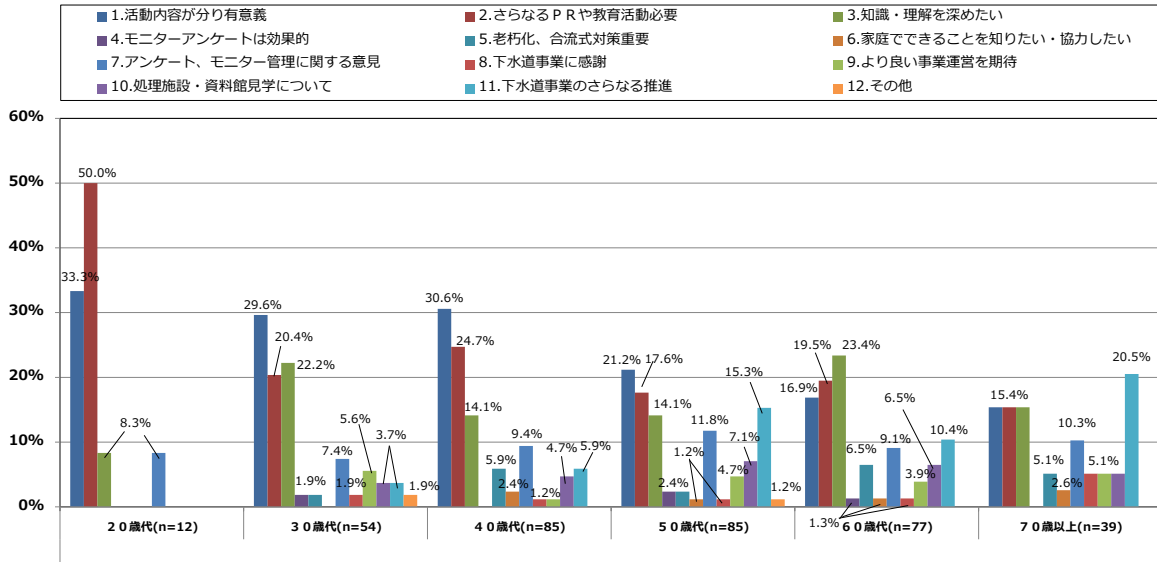
- 「１．活動内容が分り有意義」と回答した者が全体の 23.6%で最も多く、次に「２．さらなるPRや教育活動必要」が 21.0%、「３．知識・理解を深めたい」が 17.3%と多かった。
- 男女別にみると、男性では「２．さらなるPRや教育活動必要」が 26.7%、女性では「１．活動内容が分り有意義」が 30.3%と多かった。

図 4.10(1) 東京都下水道局へのご意見・ご要望（全体・性別）



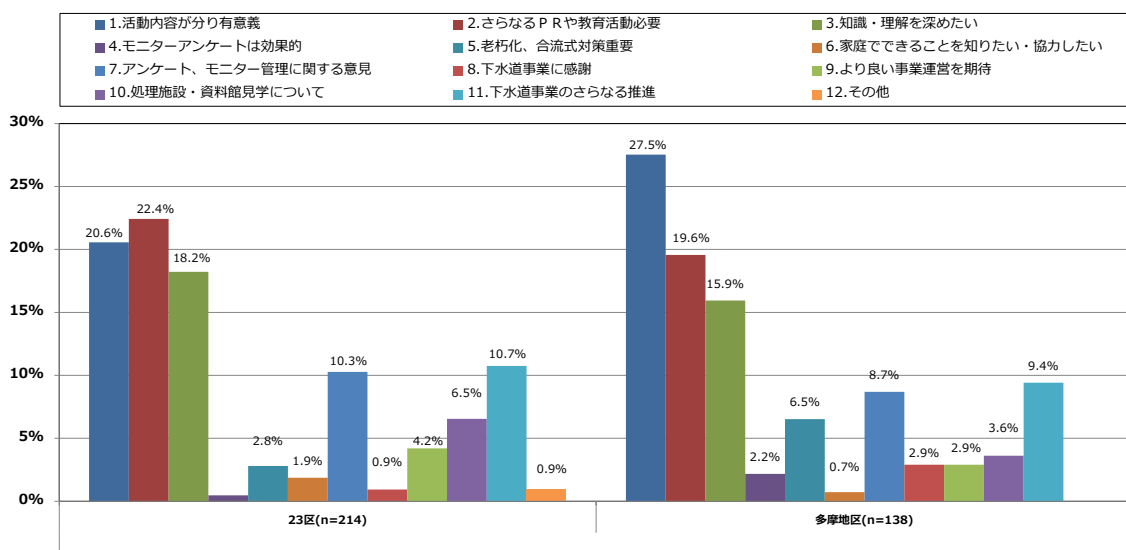
- 年代別にみると、20 歳代で「2. さらなる P R や教育活動必要」が 50.0%、30 歳代で「1. 活動内容が分り有意義」が 29.6%、40 歳代で「1. 活動内容が分り有意義」が 30.6%、50 歳代で「1. 活動内容が分り有意義」が 21.2%、60 歳代で「3. 知識・理解を深めたい」が 23.4%教育活動必要」が 26.9%、70 歳代以上は「1 1. 下水道事業のさらなる推進」が 20.5%と最も多かった。

図 4. 10 (2) 東京都下水道局へのご意見・ご要望（年代別）



- 地域別にみると、23 地区では「2. さらなる P R や教育活動必要」が 22.4%、多摩地区で「1. 活動内容が分り有意義」が 27.5%と最も多かった。

図 4. 10 (3) 東京都下水道局へのご意見・ご要望（地域別）



4.11. 東京都下水道局へのご意見・ご要望例

1. 「活動内容が分り有意義」

- ◆ 目立たないが、大切なものだと感じた。(多摩地区女性、50歳代)
- ◆ 新たな活動や取組みについて、こんなことをやっているのかという発見がありました。経済性もさることながら、環境に配慮した取組みを優先して検討していただきたいと思いました。(23区女性、20歳代)
- ◆ 下水道事業に関して知らないことが多いことに驚きました。もう少し積極的に情報に接するようにしたいと思いました。(23区男性、60歳代)
- ◆ 建築関連の仕事の為、下水道と言えばそれに関わる仕事のみと思っていた。いろいろな事を行っている事を初めて知った。(23区男性、50歳代)
- ◆ 水は、安全でおいしいものがのめればいいや、ぐらいに思っていたけれど、は水質だけでなく、環境への影響、災害リスク、経済効果まで考えなければならないのだな、と思った。水は飲み、体を洗い、地面の下を流れ、海に流れて、循環する。生活の基盤なのだなぁ、と改めて感じました。(23区女性、40歳代)

2. 「さらなるPRや教育活動必要」

- ◆ まだまだ、下水道事業の認知度は低いと思います。自身は、興味が有り積極的に情報収集していますが、それでも知らない事業などが有り驚いています。実際、どれほどの降水量で、どの地域から浸水すると予想しているのか？堤防などの脆弱な個所は何处を想定しているのか？発信できない情報も有ると思いますが、改善に向けた計画や進捗などは発信して頂きたいと思います。(23区男性、50歳代)
- ◆ 下水道事業の更なる広報活動が必要だと感じました。下水道施設の見学などしたいと思います。(多摩地区男性、60歳代)
- ◆ 東京都下水道局が、社会的貢献度の高い活動をしていることを理解しました。アンケートを見て初めて知った活動も多かったので、もっとアピールしたほうが良いと感じました。(多摩地区女性、50歳代)
- ◆ もっと下水道事業について、知らせた方がいいと思う。(23区女性、20歳代)
- ◆ 今月6月は東京都福祉保健局で「蚊の発生防止強化月間」とのことで、とてもキャッチーなポスターを駅などで目にする。これに限らず、水回りのイベント等ではぜひ連携して周知に努めてほしい。(23区男性、40歳代)

3. 「知識・理解を深めたい」

- ◆ これを機に、下水道のことなどについて、詳しく知りたいと思いました。(多摩地区女性、30歳代)
- ◆ ある程度の知識は持ち合わせていると思っていたが、知らないことがたくさんあった。興味のない人も含め、下水道のことをもっと知ってほしい。(多摩地区男性、60歳代)
- ◆ もっと広報活動を充実するとともに、都民一人一人が下水だけでなく上下水道に対して理解を深めることが、大切であると思う。(23区男性、60歳代)

- ◆ (1) 将来起こることが予想されている首都直下型地震において、震度別、地域別の下水道に関する被害想定があれば、お教えいただきたい。(2) 下水中の環境ホルモン、病原性微生物(細菌、ウイルスなど)の定期的なスクリーニングが行われていれば、ぜひ、公開していただきたい。(23区男性、50歳代)
- ◆ 私の勤める小平市には「下水道館」があり、そこで東京の下水道の歴史や品質の高さなどを知りました。先進国としてあたりまえのように利用していましたが、大変高度な技術で世界にも誇れる東京の上下水道。特に下水の処理には感銘し更に学びたいと思っています。情報などこれからもよろしくお願いいたします。(多摩地区男性、50歳代)

4. 「モニターアンケートは効果的」

- ◆ 下水道は汚れた水を綺麗にするだけではないことが、アンケートに答えながら学ぶことが出来ました。都民になり5年目ですが、東京都の取り組みについてまだまだ未知な部分が多いのでこれからも学んで生活に役立て、家族や友人など周りにも広めていきたいと思っています。自治体でのイベントなどでもうまくPR出来れば良いと思っています。(多摩地区女性、30歳代)
- ◆ 今回のアンケートをしたことにより、私達ができることを意識して実行したり、下水道の役割や事業計画に関して積極的に知ること大事であることを認識しました。(23区女性、50歳代)
- ◆ 今回のアンケートから、今まで知らなかった下水道局が取り組んでいる事業やイベントの一端が伺え、良かったと思う。(多摩地区男性、50歳代)
- ◆ アンケートにより、温室効果ガスの削減などまだまだ知らないことがあると気付かされた。モニターになって良かったと思う。(多摩地区女性、60歳代)

5. 「老朽化、合流式対策重要」

- ◆ 1 工事現場に工事内容の意義、内容を説明する表示を掲げることで下水道施設の役割、重要性を積極的にPRする機会にすることができると考える。2 老朽化した水道管、下水道管の取替え計画について知りたい。(23区男性、70歳以上)
- ◆ 下水道の配管が100年以上前に敷設された管が今なお、現役として活躍されていることにびっくりしました。100年以上も経過しているのであれば、管も相当古くなっていることと思いました。毎年、下水道局は、少しずつでも、工事して古い管を交換していると思いますが、地震や風水害で下水道管が破損してしまったら都民生活に多大の影響が生じると思います。できましたら、予算措置を講じて、早急に古い管を交換してほしいと思いました。(多摩地区男性、70歳以上)
- ◆ 水道管の老朽化や豪雨による浸水など、最近の気候から心配になる。今まで真剣に考えることがなかったので、なおさら怖く感じる。下水道事業が“水”関連だけではないことを、このアンケートから知った。IT 関連にまで関係しているとは思わなかった。(多摩地区女性、40歳代)
- ◆ 老朽化下水道管、取り換え工事の促進を希望。(23区男性、60歳代)
- ◆ 今後の下水道管老朽化による取替え事業にかかる費用や時間とその合理化の方法についてより深く知りたい。(23区男性、40歳代)

6. 「家庭でできることを知りたい・協力したい」

- ◆ アメッシュは便利で職場では、みんなに知らせてから本当に利用者しています。身近な生活の情報ならもっと関心が高まります。(23区女性、40歳代)
- ◆ 家庭での残り油の処理の仕方にもう少し気を付けるように呼び掛けていったほうが良いと思います。(23区女性、50歳代)
- ◆ 「油で汚れたお皿やお鍋などを洗うとき、古新聞などでふき取ってから洗っていますか」の質問が意外でした。皿についている分は洗剤により中和すれば、問題ないと思っているのですが、違うのでしょうか？(多摩地区男性、60歳代)
- ◆ 今回のアンケートで下水道の事が沢山解り、参考に成った事は実行したいと思います。・下水道が多く役立って居る事をもっと前面に世間に宣伝した方が寄り一層身近な物となり、協力してもらえないのでしょうか・下水道に掛かり合っている方々のご苦勞に改めてお礼申し上げます。(23区女性、70歳以上)
- ◆ 下水に関して知りたいことは、自宅の下水設備の維持管理について、何を流すと自然や下水管にとって悪影響なのかということです。具体的には、マンションのデイスポージャーには何でも放り込んでもよいのか？熱いものを流すと下水管に悪いのか？石油系の洗剤は自然環境に悪いのか？などを知りたいです。以上(23区女性、40歳代)

7. 「アンケート、モニター管理に関する意見」

- ◆ ダイエットレシピについては知らなかったので調べてみようと思った。水道事業と下水道事業は密接な関係にあると思うのでいっしょにモニター事業を行ったらと思った。(多摩地区男性、60歳代)
- ◆ すごく見やすくて答えやすいアンケートだと思います。(23区男性、50歳代)
- ◆ アンケートによってイメージの変化はないです。要望は街中(墨田区立川)の下水糞尿臭の原因と改善です。(23区男性、60歳代)
- ◆ ダイエットレシピ、東京アメッシュ、活動や取組について 知らないことばかりで 申し訳なくもっと 関心持って 知識を広げたく存じます。(多摩地区男性、70歳以上)
- ◆ 今まで東京アメッシュと下水道のつながりがよくわからなかった 今このアンケートを受けて改めてそのつながりがわかった気がする。(23区男性、50歳代)

8. 「下水道事業に感謝」

- ◆ 目に見えないところで努力している。(23区男性、40歳代)
- ◆ ダイエットレシピは面白い取り組みだと思いました。もっと積極的にPRしてほしいです。(東京都の広報に載せてください)(多摩地区男性、50歳代)
- ◆ 大変な、お仕事と、いつもいつも、感謝しています。(多摩地区女性、70歳以上)
- ◆ 普段水が出る出ないと騒ぐのは 飲み水であって 流すほうは意識することがあまりなくこうしてアンケートに接してみて無意識に流している水が こんなに再利用されてることを知りとてもありがたく感謝です。心して水を使わせていただこうと思います。(多摩地区女性、70歳以上)
- ◆ イメージが変わったことは、集中豪雨の排水機能は重要で、それにおいて、下水道は大きな役割を果たしているという点です。(多摩地区男性、60歳代)

9. 「より良い事業運営を期待」

- ◆ 下水道事業はとても公共性の高いものだと思います。これからも宜しくをお願いします。（23区男性、40歳代）
- ◆ マンション少し低地なので大雨の時に水害が心配です。マンションで防潮板を設置しています。道路の排水口が少ないのですぐ溢れそうになります。港区にはそのような地域が多いです。これらの情報、対策をお願いしたい。（23区男性、50歳代）
- ◆ 日本は水の豊かな国でとてもありがたいです。北海道の土地を水資源の為に中国等の海外が買い占めている事にとっても不安を感じます。元々、地球のどの土地も綺麗な土壌であり、豊かな水に溢れていたはずなのに人間の出すゴミや工業排水等によってどんどん汚染され、水を買う時代になっているのは根本的にはおかしいと思います。豊かな水資源を守る為に下水道はとても重要な施設であり、感謝しています。下水道の汚水が河川に流れてしまう事はなんとか防いでいけるように将来改善して頂けたらと思います。（多摩地区女、30歳代）
- ◆ 世界では、水事業が民営化されている国もありますが、絶対にそうならないようにしてください。インフラは、経済性だけで評価されるものではないので、都民の安心できる生活のために公共の組織を維持してほしいと願っています。（23区女性、50歳代）
- ◆ 利用者の声をすぐに反映する機構であってほしいです。（23区女性、30歳代）

10. 「処理施設・資料館見学について」

- ◆ 下水道の事は、小学校で聞いて以来、よく解りません。（自分の子供が小さいとき、小平の下水道館に、行ったり夏休みの自由研究で、調布の施設（浄水場かな？）へ行ったりしましたが）もっといろんなことが知りたいです。（多摩地区女性、40歳代）
- ◆ 雨が降ったときの河川の状況など日頃から気になっていました。自宅近くに葛西水再生センターがあるので見学の機会があれば伺いたいと思っています。（23区男性、50歳代）
- ◆ 現地研修をしてもらいたい。（23区男性、60歳代）
- ◆ 水再生センターなるものを初めて知った。（多摩地区男性、70歳以上）
- ◆ 子供を連れて虹の下水道管や水再生センターへ何度か出かけた事があります。その際にきれいな水と同じくらい、下水の施設も大切であると学びました。日ごろから気づきにくい施設ではありますが、私たちが快適に暮らせる為の大事なライフラインのひとつだと思います。これからも宜しくをお願いします。（23区女性、30歳代）

11. 「下水道事業のさらなる推進」

- ◆ 自宅の前の下水道マスに、油を捨てる近所の人がいて困っています。油を捨てないよう啓蒙活動を、もっと行って頂きたいと思います。（23区男性、50歳代）
- ◆ 今私の住んでいる地域を集中的に下水道工事をしていますが利用者負担を強いても最新技術を導入して下さい。（多摩地区男性、70歳以上）

- ◆ 工事後の道路の補修が非常に良くない（凸凹が多く、修理箇所と非修理箇所の境が良くない 検査・業者指導を十分行ってほしいビルピットの指導強化を新宿駅周辺代々木等で臭が多い。（23区男性、60歳代）
- ◆ 下水にいろいろな物を流し込む他人を見かけます。このような都民に改善・注意する機関があればと思います。下水事業は環境改善とともに、都民の生活意識の向上をも包み込んでほしいものと思います。（23区女性、60歳代）
- ◆ 下水に油を流さないというにはいいのですが、古新聞古布でということは、今度、ごみ減量と相反してしまうと思うんです。ごみ減量と水質の事。縦割りだなあと思うので、清掃局と水道下水道局で、横に横断して、ごみ減量と水質のバランスをとった対策を都民に啓発してほしい。それぞれが、自分のところの事だけ考えて、キャンペーンをされると混乱して、結局、どれもしないという選択になると思う。一致した横断的に対策を講じてほしい。（多摩地区女性、50歳代）